

管轄違ノ爲メ抗告却下ノ決定ヲ爲シ抗告人ハ更ニ大審院宛抗告狀ヲ差出シタルモ既ニ法定期間ヲ經過セル後ナルトキハ該抗告ハ不適用ナリ (昭和二(ク)第八四八號、三、四、二七、大民二) (第一五〇號、六七頁)

一一 破産申立人以外ノ債権者ト破産宣告廢棄ノ決定ニ對スル抗告權 (同上)

債権者甲ノ申立ニ基キ債務者ニ對シ破産ヲ宣告シタルニ付債務者ハ抗告ヲ爲シタル結果破産宣告ヲ廢棄シ破産ノ申立ヲ却下シタル場合ニ於テ破産申立人以外ノ債権者乙ハ破産債權ヲ有スルノ故ヲ以テ破産裁判所ニ其ノ届出ヲ爲シタルモノナルトキハ乙ハ破産法第百十二條ニ所謂其ノ裁判ニ付利害關係ヲ有スル者トシテ破産ノ申立ヲ却下シタル決定ニ對シ抗告ヲ爲シ得ルコト勿論ナリ何トナレハ破産裁判所ニ債務ヲ届出テタル者ハ當該破産手續ニ依リテ配當ヲ受ケ得ヘキ地位ヲ取得シタルモノナルヲ以テ破産宣告ニシテ廢棄セララルトキハ自然斯ル地位ヲ喪失スルニ至リ其ノ裁判ニ付利害關係ヲ有スルコト明白ナルヲ以テナリ

〔參照〕 或債権者ノ爲メタル破産申立ヲ却下スル裁判ニ對シテハ申立人タル該債権者ハ當然ニ利害關係ヲ有スル者ナルモ他ノ債権者ハ當然ニ斯ル利害關係ヲ有スル者ト云フヲ得ス (大正一五年(ク)第一二四號、同年一月二三日、大審院判決)

一三 破産手續ノ進行ト商事調停申立ノ效力 (第百二十六條參照)

商事調停法第二條ニ於テ借地借家調停法第五條ヲ準用セル立法ノ趣旨ハ本案訴訟手續ノ結果ト商事調停事件ノ結果トノ抵觸ヲ避ケシメントスルニ在ルカ故ニ調停事件ニ於ケル調停ノ目的ヲ

ル係争權利關係ト本案訴訟手續ニ於ケル判定ノ目的タル係争權利關係トカ同一ノ場合ニ限り右規定ニヨリ訴訟手續ヲ中止スヘキナリ、然ルニ破産申立事件ニ於テ破産申立人カ債務者ニ對シ預金債權ニ基ク請求訴訟ヲ提起セシメ債務者ヨリ商事調停申立ヲ爲シタル場合ニ於テハ調停事件ノ目的タル係争事件ノ目的タル係争權利關係ハ右預金債權ノ有否ニ關スルニ過キサレハ破産申立手續ノ如キ單ニ其ノ申立人ノミナラス凡ソ總債権者ノ爲被申立人ノ資産全部ニ對シ強制管理處分ヲ爲スコトヲ目的トスル手續迄ヲ右ノ調停申立受理セラレタリトテ中止スヘキモノニ非ス、尤モ破産手續進行中調停成立シソノ結果或ハ破産申立人ノ債權消滅スルコトナシトセサレトモ斯ル場合ニハ破産ノ申立ヲ却下スレハ足り之アルカ爲前記法條ニ據リ破産手續ヲ中止スルモノト解スルヲ得ス (昭和五(ク)第二二〇號、五、四、一二、大民三) (第二三八號、三九八頁)

一四 多額ノ財團債權ト營業繼續 (第百二十七條參照)

多額ノ財團債權ヲ有スルコトハ破産會社カ營業ヲ繼續スルコト能ハサルモノナリトノ認定ノ資料ト爲シ難シ (昭和四(ソ)第五八三號、四、一〇、二八、東地民七) (第二一一號、六二三頁)

一五 債権者一人ノ破産手續開始ノ當否 (第百三十二條參照)

破産手續ハ多數債権者ノ競合スル場合ニ於テ其ノ間ニ公平ナル満足ヲ得セシムルコトヲ目的トスル所謂一般の強制執行ナルヲ以テ債権者一人ナルトキハ敢テ複雑ナル破産手續ヲ開始スル必要ナク單ニ民事訴訟法ニ依ル強制執行手續ヲ開始スルヲ以テ足ルモノナリトスル論ナキニ非スト雖破産法ハ破産開始ノ要件トシテ毫モ債権者ノ多數存在スルコトヲ前提トセス單ニ破産原因

アルトキハ申立ニ因リ破産ヲ宣告スル旨ヲ規定スルニ過キササルヲ以テ債権者一人ナル場合ニ於テモ破産開始ノ要件ニシテ存在スル限リ破産手續ヲ開始シ得ルノモト解スルヲ相當トス、固ヨリ破産法ノ規定全體ノ上ヨリ觀察スルトキハ多數債権者ノ競合ヲ豫想シ其ノ間ノ公平ヲ維持スルコトニ努メタルコト明ナリト雖是レ唯多數債権者ノ競合スル普通ノ場合ヲ考慮シテ規定ヲ設ケタルニ過キササルモノニシテ必スシモ之カ爲ニ多數債権者ノ競合ナクハ破産ハ之ヲ開始セサル趣旨ナリト解スヘキニ非ス破産法ノ規定ハ債権者一人ナル場合ニ於テモ何等適用上支障ヲ來スコトナキノミナラス債権者一人ナル場合ニ於テモ破産ノ開始ヲ認ムルトキハ債権者ハ破産法上ノ否認權等ノ行使ニ因リ利益ヲ受クル實益ナキニ非ス、若反對論ノ如ク解センカ破産者ハ破産宣告ノ結果トシテ他ノ法令上種々ナル身上ノ效果ヲ受クルニ拘ラス偶々債権者一人ナリシカ爲破産宣告ヲ免レ從テ債権者タル身上ノ效果ヲ受クルコトヲ免ルルニ至リ債権者多數ノ場合ニ比シテ權衡ヲ得タルモノニ非ス、加之破産財團カ破産手續ノ費用ヲ償フコト能ハサル場合ニ於テハ破産手續本來ノ目的ヨリ云ヘハ破産ノ宣告ヲ爲ス必要ナキカ如シト雖主トシテ破産者ニ對シ身上ノ效果ヲ附スルノ必要ヨリ破産宣告ヲ爲スト同時ニ破産廢止ノ決定ヲ爲ス點ヨリ考察スルトキハ債権者一人ナル場合ニ於テモ破産者タル身上ノ效果ヲ附スル必要上破産宣告ヲ爲シ得ルモノト解スルニ非サレハ破産財團カ破産手續ノ費用ヲ償フコト能ハサル場合ニ比シテ權衡ヲ得サルモノト謂ハサルヘカラス又之ヲ手續上ノ便宜ヨリ觀察スルモ債権者一人ナル場合ニハ破産手續ヲ開始スルコトヲ得サルモノトセン乎裁判所ハ職權ニ因リテ債権者ノ多數ナルヤ否ヤヲ調査セサルヘカラス然ルニ債権者ノ多數ナリヤ否ヤハ破産手續ヲ進行シ破産債権ノ届出及其ノ調査ヲ俟ツニ非サレハ必スシモ明確ナリト云フヲ得サルヲ以テ斯ル調査ヲ必要トスルコトハ破

産宣告ノ確定ヲ遷延セシムルニ至ル實際ノ不便アルヲ免レス (昭和三(ク)第七〇七號、三、一〇、二、大民二) (第一七六號、四八三頁)

一六 破産管財人ニ對スル裁判所ノ命令ト即時抗告 (第六十一條參照)

破産管財人ハ破産法第六十一條ニ依リ裁判所ノ監督ニ屬スルカ故ニ破産管財人カ其ノ職務ノ執行ニ關シ法定ノ義務ヲ履行セサル場合ニハ裁判所ハ監督權ニ基キ之カ履行ヲ命スル裁判ヲ爲シ得ルノミナラス其ノ裁判ハ同法第六十二條ニ所謂破産手續ニ關スル裁判ニ外ナラサルカ故ニ破産管財人ハ同條ニ依リ即時抗告ヲ爲シ得ルモノトス (昭和三(ク)第六三〇號、三、九、八、大民三) (第一七一號、三八九頁)

一七 破産管財人カ債權調查期日以外ニ爲シタル債務承認ノ効力 (第二百四十條參照)

破産管財人ハ破産者又ハ破産債権者ノ代理人ニハ非スシテ公ノ機關トシテ破産手續ニ關與スルモノナルヲ以テ破産財團ノ管理處分其ノ他破産法上効力ヲ有スル事項ニ付テノミ權限ヲ有シ破産手續上何等ノ效果ヲ有セサル事項ニ付テハ其ノ權限ヲ有セサルモノトス從テ破産管財人ハ債權調查ノ期日ニ於テ債權確定ノ爲承認ヲ爲ス權限ヲ有スルモ債權調查期日以外ニ於テ債務ノ承認ヲ爲スモ破産手續上何等ノ效果ヲ生スルモノニ非サルヲ以テ此ノ如キ行爲ハ破産管財人ノ權限ニ屬セサルモノト謂フヘク破産管財人ノ權限ニ屬セサル行爲ハ民法上ニ於テモ何等ノ效力ヲ生セサルモノナルヲ以テ右債務ノ承認カ破産者ニ對シ民法第四百七十七條第三號ノ承認タル效果

ヲ發生スヘキモノニ非サルコト亦論ヲ俟タス、尙上告論旨ニ依レハ破産管財人ニ於テ和解ヲ爲ス權限ヲ有スルコトニ立脚シ前示債務ノ承認ハ畢竟和解行爲ヲ爲シタルモノナルヲ以テ破産法上債權確定ノ效果ヲ齎ラサストスルモ民法第四百七十七條ニ定ムル時効中斷ノ利益ヲ受フルモノナル旨主張スレトモ債權調査期日以外ニ於テ債務ヲ承認スルコトカ破産管財人ノ權限ニ屬セサルコト前示説明ノ如クナル以上其ノ債務ノ承認ヲ内容トスル和解モ亦破産管財人ノ權限ニ屬セサルモノト謂ハサルヘカラサルノミナラス舊商法破産編第十九條第二項ニ依レハ破産管財人ハ和解ヲ爲スニハ破産者ノ意見ヲ聽キ且破産主任官ノ認可ヲ受クルコトヲ要スルモノナルニ拘ラス前記承認ニ付テハ毫モ破産主任官ノ認可ヲ得タル事迹ナキヲ以テ此ノ點ニ於テモ其ノ行爲ハ無効ナリト謂フヘク從テ右承認ニ依リ民法第四百七十七條第三號所定ノ承認ノ效力ヲ發生スルニ由ナキモノナルコト明ナリ (昭和三(オ)第四八六號、三、一〇、一九、大民二)〔第一七五號、四六二頁〕

一八 配當表ニ對スル異議ノ訴ト配當財團算定ノ誤(第二百六十四條參照)

配當表ニ對スル異議ノ訴ハ債權者カ配當財團ニ付他ノ債權者ヨリモ優先的地位ニ於テ辨濟ヲ求ムルコトヲ目的トスルモノナリ然ルニ配當財團ノ算定ニ誤アルニ過キサレ場合ニ在リテハ之ニヨリテ配當率ノ高低ヲ來タスニ止リ之カ爲メ他ノ債權者ニ優先スヘキ地位ヲ取得スルモノニアラサルヲ以テ右ノ事由ハ配當表ニ對スル異議ノ訴ノ原因ト爲ステ得ス (昭和三(ヨ)第一六六二號、四、三、三〇、東地民六)〔第一八四號、六七頁〕

一九 特別調査期日ニ於テ異議ナクシテ確定シタル債權ヲ有スル者ト其受クヘ

キ配當(第二百七十條參照)

破産法第二百七十條ニ依レハ異議アル債權ヲ有スル者又ハ別除權ヲ有スル債權者ニシテ前ノ配當ヨリ除外セラレタル者ト雖後ノ配當ニ關スル除外期間内ニ同法第二百六十一條又ハ第二百六十二條ニ關スル事項ヲ證明又ハ疏明シタルトキハ前ノ記當ニ於テ受クヘカリシ額ニ付他ノ同順位ノ債權者ニ先チ配當ヲ受クルコトヲ得ヘキ旨ヲ規定シアリテ破産法カ配當ノ前後ニヨリ確定シタル破産債權者間ニ於テ均衡ヲ失スルコトナカラシメ以テ平等辨濟ノ實ヲ舉ケシメントスルノ法意ニ出テタルモノナルコト明カナレハ特別調査期日ニ於テ異議ナクシテ確定シタル債權ヲ有スル者ハ假令前ノ配當ニ參加スルノ機會ヲ失シタレハト爾後前ノ配當ニ參加シタランニハ其ノ受クヘカリシ額ニ付キ他ノ同順位ノ債權者ニ先チ記當ヲ受クルコトヲ得ルハ前記第二百七十條ノ解釋上勿論ナリト謂ハサルヘカラス (昭和五(ワ)第二六九三號、五、一一、二一、東地民七)〔第二四三號、五〇三頁〕

二〇 和議法第五七條破産法第三二六條第二項規定ノ趣旨(第三百二十六條參照)

和議法第五十七條破産法第三百二十六條第二項ハ和議債權者保護ノ爲和議債權者ト連帶保證人間ニ於ケル關係ニ付民法第四百三十七條等ノ適用ヲ除外スル趣意ニ於テ規定セラレタルニ止リ保證人ト主債務者間ノ求償關係ヲ律シタルモノニ非ス (昭和五(ワ)第五二號、五、一一、二八、神戸地民一)〔第二四三號、五〇五頁〕

二一 強制和議ノ履行ト保證人ノ求償權(同上)

破産法第三百二十六條第二項ニ依レハ強制和議ハ破産債権者カ破産者ノ保證人ニ對シテ有スル
 權利ニ影響ヲ及ホササルカ故ニ破産債権者ニ一部ノ支拂ヲ爲シテ殘債權ヲ消滅セシムヘキ條件
 ノ強制和議認可確定シタル場合ニ於テモ尙ホ保證人ハ破産債権者ノ請求ニ依リ其ノ債權ノ全額
 ヲ辦済スヘキ義務アルヤ勿論ナリ、然レトモ右ノ辦済ヲ爲シタル保證人カ破産者ニ對シ有スル
 コトアルヘキ求償權ハ同法第二十三條第一項ニ所謂破産者ニ對シテ行フコトアルヘキ將來ノ請
 求權ニ外ナラサルカ故ニ此ノ求償權ニ付テハ保證人モ亦破産債権者ノ一人トシテ同法第三百二
 十六條第一項ニ依リ強制和議ノ效力ニ羈束セラルヘキ結果其ノ求償權ハ破産債権中強制和議ノ
 條件ニ從ヒ破産者ノ支拂ヲ爲スヘキ部分ニ限り存スヘキモ其ノ條件ニ從ヒ消滅スヘキ部分ニ付
 キ存スヘキモノニ非ス、故ニ保證人ハ破産債権ノ全額ヲ完済スルモ破産者ニ對シテハ破産者カ
 強制和議ノ條件ニ從ヒ支拂フヘカリシ部分ノミニ付求償權ヲ有スヘク破産者カ既ニ強制和議ノ
 條件ニ從ヒ支拂フヘキ部分ノ支拂ヲ了シタル後保證人カ其ノ殘額ヲ支拂フモ破産者ニ對シテハ
 何等ノ求償權ヲ有スヘキニ非ス（昭和五（オ）第一四八六號、五、一一、二四、大民四）〔第二四六號、五
 四七頁〕

二二二 和議ニ於ケル期限ノ猶豫ト所謂讓歩（第三百三十二條參照）

和議法第六十二條ノ規定ニヨリテ準用セラルル破産法第三百三十二條ニ於ケル和議債務者カ和
 議ノ履行ヲ怠リタル場合ニ於テ届出ヲ爲シタル和議債権者ノ過半数ニシテ其ノ債權額カ其ノ者
 ノ總債權ノ四分ノ三以上ニ當ル者ノ申立アルニ非サレハ裁判所ハ和議取消ノ決定ヲ爲スコトヲ
 得ス即和議債権者ハ和議取消ノ決定アル迄和議ニ拘束セラルルモノト爲ス規定ヲ無視スルコト

トナルノミナラス讓歩ノ取消ニ因リテ回復シタル債權額ニ付テハ和議債権者ハ和議ノ履行完了
 ノ後ニ非サレハ其ノ權利ヲ行フコトヲ得スト爲セル和議法第六十二條破産法第三百三十一條第
 二項ノ精神ニ反スルニ至ルヘシ由是觀之前示第六十二條第三百三十條ニ所謂讓歩ナルモノハ其
 ノ讓歩シタル部分ヲ取消スモ債権者ハ尙和議ノ拘束ヲ受ケ之ニ定メタル條件ニ從ヒ取消シタル
 讓歩以外ノ債權ノ辦済ヲ受ケルコトヲ得ヘキ場合例ヘハ債務ノ一部ヲ免除シタルカ如キモノヲ
 指稱シ債務ノ辦済方法ヲ分割償還ニ定メタル場合ニ於ケル期限ノ猶豫ノ如キハ前記兩法條ニ於
 ケル讓歩ニ該當セサルモノト解スルヲ以テ相當ナリトス（昭和四（オ）第一〇三九號、五、二、一〇、
 大民一）〔第二一七號、三頁〕

二二三 小破産手續ト債権者集會決議ノ効力（第三百六十四條參照）

小破産手續ニ於テ債権者集會ノ決議ヲ經タルトキハ破産管財人ハ適法ニ訴訟ノ提起ヲ爲スコト
 ヲ得ルハ通常破産ニ關スル破産法第九十七條第十號第九十八條ノ規定ノ法意ニ徴シ當然ナ
 リト云フヘク同法第三百六十四條第一項ニハ同條列掲ノ債権者集會ノ外裁判所ノ決定ヲ以テ債
 権者集會ノ決議ニ代フル旨ノ規定アリト雖右ハ小破産手續ノ性質ニ鑑ミ手續ヲ簡捷ニシ且費用
 ヲ節約スル趣旨ノ下ニ或種ノ事項ニ付テハ債権者集會ヲ開催スルノ煩雜ヲ避ケタルニ止マリ該
 規定ヲ以テ債権者集會ニ於テ爲シタル訴訟提起ヲ認容スル決議ヲ無効トシ以テ重ネテ裁判所ノ
 決定ヲ受クヘキコトヲ命シタルモノト云フヲ得サルハ言ヲ俟タサルトコロナリトス（昭和四
 （オ）第六九五號、四、一一、二五、大民一）〔第二一〇號、四八二頁〕

不動産登記法

一 不動産登記法第四九條第二號ノ適用範圍（第四十九條參照）

不動産登記法第四十九條第二號ニ所謂「本件カ登記スヘキモノニ非サルトキ」トハ例ヘハ登記申請カ同法第一條ニ掲クル權利又ハ事項ニ關セサル場合ノ如ク主トシテ申請カ其ノ趣旨自體ニ於テ既ニ法律上許容スヘカラサルコト明ナル場合ヲ云フモノニシテ申請ノ趣旨自體ニハ何等其ノ登記ヲ拒否スヘキ瑕瑾ヲ帯ヒサルモ申請人カ登記原因ヲ證スル爲添付シタル書面ニ依リ其ノ申請ニ保ル登記ヲ爲スヘキ場合ナルコトヲ認メ得ヘカラサル場合ノ如キハ寧ロ同條第七號ニ所謂「申請書ニ掲ケタル事項カ登記原因ヲ證スル書面ト符合セサルトキ」トアルニ該當スルモノト解スヘキモノトス蓋斯ノ如ク解スルコトハ番ニ同條ノ文理ニ適合スルノミナラス若シ此ノ如キ場合迄同條第二號中ニ包含セシムヘキモノト爲スニ於テハ同條第七號ヲ適用スヘキ場合ハ殆ト存セサルニ至ルヘケレハナリ（昭和六（ク）第一一九號、六、二、六、大民五）〔第二五二號、六六七頁〕

二 抹消登記ノ回復ト登記上ノ利害關係（第六十五條參照）

不動産ニ付キ假差押記入ノ登記存スルニ拘ラス該不動産所有權ヲ取得シタル者ハ右登記ニ依リテ該不動産カ假差押ノ制限ニ服スルコトヲ知リテ之ヲ取得シタルモノ即チ右假差押債權者ニ對抗シ得サルモノナレハ其後ニ至リ一旦誤謬ニ因リ該假差押記入登記カ抹消セラレ次テ其抹消登記ヲ回復シ前假差押ノ記入登記ヲ爲スコトアリトスルモ單ニ權利取得當時ノ原狀ニ復スルニ止

マリ爲メニ何等新ナル損害ヲ蒙ルモノニ非ルコト明ナレハ斯ル第三者ハ不動産登記法第六十五條ニ所謂抹消登記ノ回復ニ付登記上利害關係ヲ有スル者ト爲スヘカラサルモノトス（昭和五（ソ）第四六號、五、三、一四、東地民三）〔第二二二號、八三頁〕

非訟事件手續法

一 非訟事件ト證據調ノ要否（第一條參照）

非訟事件ノ裁判所カ抗告事件ノ審理ヲ爲スニ當リ審問ヲ爲スヘキヤ否又證人ヲ取調フヘキキ否ハ其ノ自由ナル心證ニ依ルヘキモノニシテ原裁判所カ審問ヲ爲サス尙其ノ他ノ證據調ヲ爲サスシテ決定ヲ爲シタルハ即審問並證據調ヲ爲スノ必要ナシト認メタルカ爲ナリト解スルニ難カラス（昭和三（ク）第三〇一號、三、五、一四、大民一）〔第一六〇號、二二六頁〕

二 非訟事件手續法第一〇條ノ法意（第十條參照）

非訟事件手續法第十條ハ人證ニ關スル民事訴訟ニ準用スルヲ以テ非訟事件手續ニハ民事訴訟法第三百十八條ノ準用アリト雖證據調施行ノ方法ニ關スル決定ニ付テハ不服ヲ申立テ得サルモノト解スルヲ相當ナリトス（昭和二（ク）第四二二號、三、六、二九、大民二）〔第一七〇號、三七二頁〕

三 非訟事件ノ證據調ト當事者ノ立會（第十一條參照）

三 民事訴訟ニ於ケル證據調ニ付訴訟當事者カ立會フノ權利ヲ有シ裁判所カ此ノ立會ノ機會ヲ與フルコトナクシテ證據調ヲ爲シタルトキハ違法ナルモ民事訴訟ニ於ケル當事者ノ右立會權ハ訴訟材料ノ蒐集ニ付當事者主義ヲ採用シタル結果ニ外ナラス、然ルニ非訟事件手續法ハ第十一條ニ裁判所ハ職權ヲ以テ事實ノ探知及必要ト認ムル證據調ヲナスヘシト規定シ事件ノ材料ノ蒐集ニ付職權主義ヲ採用シタルヲ以テ證據調ノ範圍又ハ其ノ方法ハ一ニ裁判所職權上之ヲ定メ事件關係人ノ申出等ニ羈束セラルルモノニアラサルカ故ニ事件關係人ニ民事訴訟ニ於ケルカ如ク證據調ニ立會フ權利ナルモノヲ認ムルヲ得ス從テ裁判所カ非訟事件ニ於ケル證據調ニ事件關係人ニ對シ之ニ立會フ機會ヲ與ヘサリシヲ同シク違法ナリト云フヲ得ス（同上）

四 検査役選任ノ決定ト決定裁判所ノ取消又ハ變更權（第十九條參照）

非訟事件手續法第十九條第三項ニ依レハ同法ニ依リテ爲サレタル裁判ニシテ即時抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ヘキモノハ之ヲ爲シタル裁判所ニ於テ任意之ヲ取消又ハ變更スルコトヲ得サルモノナルコト明ナルト共ニ商法第九十八條ニ依ル検査役選任ニ非訟事件手續法ニ從ヒ決定ヲ以テ爲スヘキモノニ係リ該決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲シ得ヘキコトモ亦非訟事件手續法第十七條第一項第二百二十九條ノ四ニヨリ明ナルトコロナレハ該決定ハ之ヲ爲シタル裁判所ニ於テ任意ニ之ヲ取消又ハ變更シ得ヘキモノニ非サルコト言テ俟タス（昭和四（タ）第五〇九號、四、七、四、大民四）〔第一九三號、二三一頁〕

五 非訟事件手續法第二〇七條第二項ノ法意（第二百七條參照）

非訟事件手續法第十二條ニ依レハ裁判所ハ職權ヲ以テ事實ノ探知ヲ爲スヲ得ヘク從ヒテ又當事者ノ陳述ヲ聽クカ如キコトモ其ノ職權ノ範圍ニ屬スルヤ言テ俟タス、而シテ檢事カ事件ニ付意見ヲ述フルヲ得ルコト及裁判所ハ之ニ事件ヲ通知スルコトハ是亦同法第十五條ニ其ノ旨ノ明文アルカ故ニ同法第二百七條第二項ニ裁判所ハ裁判ヲ爲ス前當事者ノ陳述ヲ聽キ檢事ノ意見ヲ求ムヘシト云ヘルハ唯前叙ノ如キ趣旨ニ過キサルモノトセムカ道ハ實ニ蛇足ノ規定ト云ハサルヲ得ス從ヒテ茲ニ可シトアルハ之ヲ要スノ義ニ解シテ始メテ意時ヲ爲スモノトス、但當事者ノ陳述ヲ聽キトアルハソレヲシテ陳述ヲ爲ス機會ヲ得シムルノ意ニ外ナラス當事者ニ於テ此ノ機會ヲ利用スルト否トハ固ヨリ關スルトコロナシ（昭和四（タ）第四九七號、四、六、一九、大民四）〔第二〇六號、四四六頁〕

競 賣 法

一 執達吏ノ職務執行地域外ニ於ケル競賣ノ效力（第五條參照）

競賣法第三條第一項ハ動産ノ競賣ヲ爲スヘキ執達吏ハ競賣ヲ爲スヘキ地ノ區裁判所々屬ノ執達吏タルヘキ旨ヲ規定シ又同法第五條ハ競賣ヲ爲スヘキ地ハ原則トシテ競賣ニ付スヘキ物ノ所在地タルモ其ノ地ニ於テ相當ノ代價ヲ得ル見込ナキトキハ他所ニ於テ競賣ヲ爲シ得ヘキ旨ヲ規定ス故ニ競賣ヲ爲スヘキ地ハ競賣ヲ爲スヘキ執達吏ヲ定ムルノ標準ト爲ルヘキモノニシテ其ノ地如何ハ一ニ同法第五條ニ依リ之ヲ定ムヘク之ニ付所論ノ如キ制限存スルモノト解スル能ハス從

テ物ノ現在地ニ於テ相當ナル代價ヲ得ル見込ナキ場合ニハ同條但書ニ依リ現在地ノ區裁判所々屬執達吏ノ職務ヲ執行シ得ヘキ地域以外ニ於テモ亦之カ競賣ヲ爲スヲ妨クルモノニ非ス（昭和四（オ）第一八三〇號、五、四、一一、大民四）〔第二二五號、一四七頁〕

二 競賣手續進行中ノ債權讓渡ト競賣手續ノ受繼（第二十二條參照）

抵當權者カ其ノ抵當權ノ實行トシテ競賣ノ申立ヲ爲シ競賣手續進行中其ノ基本タル債權及抵當權ヲ他ニ讓渡シタル場合ニ讓受人ニ於テ其ノ競賣手續ヲ受繼シ得ルヤ否ニ付テハ競賣法及民事訴訟法上特ニ之ヲ禁止スル明文ナキヲ以テ訴訟經濟ノ上ヨリ觀察スルモノヲ許スヘキモノト解スルヲ相當トス（昭和五（ク）第一二八五號、五、一一、二六、大民二）〔第二四六號、五四六頁〕

三 抵當權設定後ノ土地ノ合併ト競賣申立手續（第二十四條參照）

抵當權ノ目的ト爲リタル土地カ其ノ目的トナラサル他ノ土地ト合併セラレテ一筆ノ土地トナリタルトスルモ之カ爲ニ抵當權ノ消滅スヘキモノニ非サルコトハ勿論ニシテ不動産登記法第八十七條第二項ニ依ルモ此ノ趣旨明ナルヲ以テ抵當權者ハ其ノ抵當權實行ノ爲ニ右一筆ト爲リタル土地ニ對シ競賣ノ申立ヲ爲シ得ヘク裁判所ハ之ニ基キ競賣手續ヲ實施スヘキモノトス、勿論此ノ場合ニ競賣セララルル土地ハ一筆内ノ抵當權ノ目的ト爲リタル部分ニ付テハ分筆ヲ爲スコトヲ要スヘシト雖其ノ分筆ヲ爲スニ非サレハ競賣ヲ爲シ得サルモノト爲スヘキニアラス（昭和五（ク）第一九號、五、三、一一、大民二）〔第二三六號、三六六頁〕

四 抵當權ノ消滅ト競落許可決定ノ效力（第三十二條參照）

競賣ノ基本タル抵當權カ消滅シタルトキハ競賣手續ハ之ヲ續行スルコトヲ得サルモノニシテ假令競落許可決定カ確定スルモ競賣不動産ノ所有權ハ競落人ニ移轉スルモノニ非サルヲ以テ債務者カ供託ニ因リ債務ヲ免レタルコトヲ證明シタル場合ニ於テハ假令其ノ證明カ既ニ抗告棄却ノ決定ヲ爲シタル後ナリトスルモ再抗告ノ存スル以上原審ハ再度ノ考案ニ因リ不服ノ點ヲ更正スルコトヲ得ルモノナレハ右供託ノ適否ヲ審査シ以テ更正ノ必要アリヤ否ヲ決スルヲ要スルモノトス（昭和四（ク）第六一八號、四、七、二四、大民三）〔第一九三號、二三一頁〕

供託法

一 供託法第一條ノ七ノ第一項ニ依ル再抗告裁判所（第一條參照）

供託法第一條ノ七ノ第一項ニハ前條ノ規定ニ依リ抗告ヲ却下スル決定ニ對シテハ法律違背ヲ理由トスルトキニ限り非訴訟事件手續法ノ規定ニ從ヒ抗告ヲ爲スコトヲ得其二項ニハ前項ノ抗告ニ付爲シタル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得スト規定シアリテ本件ノ如ク最初ノ抗告裁判所カ地方裁判所ナル場合ニ於テ之カ再抗告裁判所ハ右第一條ノ七ノ第一項非訴訟事件手續法第二十五條民事訴訟法第四百五十六條第一項ニ因リ地方裁判所ノ上級裁判所タル控訴院ニシテ大審院ニ非スト解スルヲ相當トス蓋若シ然ラスシテ大審院ヲ以テ再抗告裁判所ナリトセンカ同院ノ裁判ニ對シテハ更ニ不服ヲ申立ツルコトヲ得サルハ自明ノ理ナルヲ以テ前示第一條ノ七ノ第二項ハ至ク無意義ノ規定タル不合理ノ結果ヲ生スルニ至レハナリ（昭和四（ク）第三九八號、四、五、一六、大民一）〔第一九七號、三二四頁〕

印紙税法

七三二

一 集金郵便ニ付シタル受領書ト貼用印紙(第四條參照)

集金郵便トハ郵便規則第五十三條掲記ノ證書又ハ證券ヲ郵便官署ニ委託シ之ト引換ニ支拂人ヨリ現金ノ取立ヲ爲スコトヲ指稱スルモノニシテ郵便官署ハ其ノ委託ニ係ル證書又ハ證券ヲ指定支拂人ニ配達シ之ト引換ニ現金ノ交付ヲ受クルコトヲ以テ其ノ任務ト爲スニ止マルモノナレハ其ノ委託ニ係ル證書又ハ證券ハ畢竟一箇ノ引換郵便物トシテ受理遞送セラルルモノニ過キサレハヲ知ルヘク從テ集金郵便ニ付セラレタル證書又ハ證券カ印紙税法ニ從ヒ納稅ヲ要スルヤ否ヤハ全ク其ノ證書又ハ證券ノ内容ニ徴シ之ヲ見ルノ外ナク郵便官署カ之ヲ受理遞送スルノ故ヲ以テ其内容ニ毫モ變更ヲ來スヘキモノニアラス從テ集金郵便ニ付シタル税金受領書ニ相當印紙ヲ貼用セサルトキハ印紙税法第四條、第二十九條、第十一條ノ違反罪ヲ構成スルヲ免レス(昭和三(九)第一八四六號、四、三、五、大刑一)〔第一八四號、五九頁〕

二 印紙税法第四條第二九號ト入金通知書ノ性質(同上)

金品ノ授受ニ付受取書ヲ發行スル場合ニ於テ該金品ノ授受ト同時ニ之ニ對スル所有權ノ移轉ヲ伴フコト蓋シ渺ナカラサルヘシト雖必スシモ常ニ之ヲ伴フモノニ非ス他人ノ所有物件ヲ保管スル者カ所有者ニ對シ該物件ヲ返還スルカ如キ所有權ノ移轉ヲ伴ハサル場合ニ於テモ苟モ物件受領者ニ於テ交付者ニ對シ其ノ授受ヲ證明スル爲ニ作成交付シタル文書ナル以上通常ノ意義ニ於テハ之ヲ受取書ト稱スヘキモノトス、然リ而シテ印紙税法ニ依リ課稅スヘキ文書ハ財產權ノ創

設移轉變更若ハ消滅ヲ證明スル等同法第一條所定ノ性質ヲ有シ且同法第五條ニ該當セサル文書タルヲ要ルコト右各法條ノ規定ニ依リ明ナルカ故ニ同第四條第一項第二十九號ニ所謂受取書トハ叙上通常ノ意義ニ於ケル受取書ノ全部ヲ包含セス同第一條所定ノ性質ヲ具有シ且同第五條第十四號ニ該當セサル受取書ノミヲ指稱スルモノト解スヘキモノトス、而シテ保險會社カ其ノ代理店ニ對シ保險料ヲ請求シ之ヲ受領シ毎月繰メテ其ノ受領シタル金員中ヨリ代理店ニ對スル報酬ヲ差引キ殘額ヲ會社ニ引渡サシムルコトトシタル場合ニ於テ該代理店ハ其月分ノ會社ニ對スル債務ノ履行トシテ契約者ヨリ受領シタル保險料中ヨリ自己ノ報酬ヲ差引タル殘額ヲ會社ニ送金シタル處會社ハ代理店ニ對シ右金額ヲ受領シタル事實ヲ證明スル唯一ノ文書トシテ入金通知書ヲ作成交付シタルトキハ該通知書カ通常ノ意義ニ於ケル受取書タルハ勿論會社カ代理店ニ對シ其ノ代理店トシテ受領シタル金員ノ引渡ヲ求ムル債權ノ消滅ヲ證明スルノ點ニ於テ印紙税法第一條所定ノ性質ヲ具有シ且會社ノ營業ニ關スル金高十圓以上ノ受取書ニシテ同法第五條第十四號ニ該當セサル文書ナルコト明白ナリ、然ラハ該入金通知書ハ同法第四條第一項第二十九號ニ所謂受取書トアルニ該當スルモノトス(昭和四(九)第七七二號、四、九、二六、大刑二)〔第二〇四號、四三六頁〕

利息制限法

一 約束手約ノ延滞日步特約ト利息制限法(第二條參照)

約束手形ニ於テ延滞日步ノ特約ニ關スル記載アル場合ハ反證ナキ限り債務者ニ於テ承認シタル

七三三

モノト認ムルヲ相當トスルモ該利率カ利息制限法ノ制限以上ナルトキハ利息制限法第二條ニ依リ年一割ニ減縮スルヲ相當トス (昭和二(カ)第二號、三、一一、二六、盛岡一關支審) (第一七七號、五一六頁)

支拂猶豫令

一 支拂猶豫令第一條及第三條ノ趣旨(第一條參照)

昭和二年四月二十二日勅令第九十六號支拂猶豫令第一條ハ同日以前ニ發生シタル金錢債務ニシテ同日以降同年五月十二日迄ノ間ニ辨濟期到來シタルモノニ對シ單ニ其支拂ヲ猶豫シタルニ止マリ手形ノ滿期日ノ如キヲ變更延期シタルモノニ非ス從テ右手形ノ滿期日カ該猶豫期間中ニ到來センカ其手形所持人ハ呈示若クハ支拂拒絕證書作成等商法所定ノ手續ヲ履踐セサルヘカラスルヲ本則トスルモ右第一條ニ於テ手形債務者ヲシテ其支拂ヲ猶豫セシメタルニ依リ手形債權者ニ對シテモ之ト均衡ヲ得セシメ且右支拂猶豫ニ依リ該期間中ニ於ケル權利保存ノ爲メニスル行爲ヲ困難若クハ不能ナラシムル虞ヲ除却セシメンカ爲メ同令第三條ニ於テ單ニ其期間中ニ爲スヘキ權利保存行爲ノミヲ前同様猶豫シ其猶豫期間中ニ爲サレタル該保存行爲ヲシテ本來爲スヘカリシ權利保存行爲ト同一ナラシメタルニ過キスシテ之カ爲メ手形行爲ノ效果ヲ左右變更セシメタルモノニ非ス從ツテ若シ夫レ手形ノ流通性等ノ經濟的關係ノミヲ偏重シテカカル規定カ變則的且一時的例外規定ナルコトヲ度外シ且又手形債務者ノ債務負擔當時ノ意思(殊ニ振出人又ハ引受人ノ意思)ヲ慮外ニ推測擴張シ以テ手形ノ滿期日カ該猶豫期間中ニ到來スルモノニ對シ

テハ單ニ支拂拒絕證書作成等ノ權利保存行爲ノミヲ猶豫セシメタルニ止マラスト爲シ更ニ進ンテ本來期限後裏書トアルヘキモノヲモ該猶豫期間中ハ依然手形ノ流通性ヲ保存シ所謂期限前ノ裏書ト同一效果ヲモ附與シタルモノト解スルカ如キハ其當ヲ得サルモノト謂ハサルヲ得ス (昭和二(カ)第一七六號、三、二、二九、東地民一〇) (第一四七號、二九頁)

特許法

一 特許法第一條ニ所謂發明ノ意義(第一條參照)

一定ノ工業上ノ需用ニ應スルカ爲メ新規ノ工業的裝置カ同一目的ノ爲ニ存スル從來ノ裝置ヨリ其ノ效果甚シク著大ニシテ單ニ從來ノ裝置ノ改良ト目シ得サルカ如キ工業的效果ニ於テ進歩ノ存スルトキハ之ヲ以テ特許法第一條ニ所謂發明ニ該當スルモノト解セサルヘカラス (昭和二(オ)第一二〇五號、三、三、六、大民二) (第一四七號、二四頁)

二 二個ノ實用新案カ同一又ハ類似ナル場合ト審判ノ要件(同上)

實用新案ハ物品ニ關シ形狀構造又ハ組合ハセニ係ル實用アル新規ノ型ノ工業的考案ヲ爲シタル者ニ對シ其ノ物品ノ型ニ與フル權利ナルコトハ實用新案法第一條ノ規定ニヨリ明ナルヲ以テ二個ノ實用新案カ同一又ハ類似ナルヤ否ハ單ニ其ノ形狀構造又ハ組合ハセニ係ル型カ同一又ハ類似ナルヤ否ヲ決スルヲ以テ足レリトセス叙上ノ形狀構造又ハ組合ハセニ係ル型カ實用上即經濟的又ハ技術的ノ利用ノ目的ニ於テモ同一又ハ類似ナルヤ否ヲ審究セサルヘカラス (昭和四(オ)

第一五九號、四、九、一九、大民一」〔第一九九號、三五五頁〕

七三六

三 特許法第一六條ニ依リ選任セラレタル代理人ト里程伸長期間起算點（第十 六條參照）

特許法第十六條第一項ニ依リ選任セラレタル代理人ハ特許法又ハ同法ニ基キテ發スル命令ニ依ル手續並民事訴訟ニ付本人ヲ代表スルコトハ同條第二項ノ規定スル所ナレハ如上ノ手續又ハ權利主張ヲ爲スニ付テハ同條第一項ノ代理人ヲ以テ本人ト同一ノ地位ニ置キタルモノニシテ從テ特許局ノ爲シタル審決ニ對シテ上告ヲ爲スヘキ一ヶ月ノ期間及民事訴訟法第六十七條ニ定ムル里程ノ割合ニ依ル伸長期間ハ其ノ代理人ノ住居地ヨリ起算スヘキモノニシテ本人ノ住居地ヨリ起算スヘキモノニ非ス（昭和四（オ）第三五五號、四、七、一、大民一）〔第一九八號、三五五頁〕

四 特許法第四七條ニ所謂實施權ノ範圍（第四十七條參照）

特許法第四十七條ノ規定ハ特許權カ共有ニ係ル場合ニハ別段ノ定メナキ限り共有者ノ一人ハ他ノ共有者ノ同意ヲ要セスシテ自ラ特許發明其ノモノヲ實施シ得ヘキモノト爲シタルニ止リ其ノ實施ニ必要ナル他人ノ特許發明ノ實施許諾迄ヲモ尙且單獨ニテ請求シ得ルコトヲ容認セシモノニ非ス（昭和三（オ）第七六號、三、四、四、大民四）〔第一五一號、八一頁〕

五 實用新案法第二六條特許法一一三條ノ法意（第一百十三條參照）

實用新案法第二十六條特許法第一百十三條ハ拒絕ノ査定ニ對スル抗告審判ニ於テ全然新ナル拒絕

ノ理由ヲ發見シ從ヒテ之ニ對シテハ出願以來意見書提出ノ何等ノ機會モ未タ曾テ與ヘラレザリシ場合ノ規定ニ外ナラス審査官ノ依テ以テ出願拒絕ノ理由ト爲シタルトコロト苟モ異ナル理由ニ基キ抗告審判ニ於テ審決ヲ爲サムトスル場合ニ己ニ其ノ點ニ付意見書提出ノ機會カ與ヘラレシト否トヲ問ハス更ニ抗告審判ニ於テ斯ル機會ヲ與フヘキモノナリト云フカ如キ趣旨ナラサルハ多言ヲ俟タス（昭和四（オ）第四一八號、四、六、八、大民四）〔第二〇八號、四六四頁〕

六 特許無効ノ審判ト權利範圍確認ノ差異並特許法第一四七條ノ關係（第四百 十七條參照）

舊特許法ニ依ル特許カ現行特許法施行ノ日ヨリ五年ヲ經過シタルトキ最早他人ハ之ニ對シ無効審判ヲ請求スルコトヲ得サルハ特許法第四百七條ノ規定ニ徴シ明カナレトモ此ノ規定アルカ爲直ニ斯ル特許發明カ他人ノ特許發明ト牴觸スル場合ニテモ尙自由ニ實施シ得ヘクシテ敢テ他人ノ特許權ノ實施許諾ヲ要セサルモノナリト解スルハ當ラス蓋シ特許無効ノ審判ト之カ權利範圍ノ確認トハ二者其ノ性質ヲ異ニシ前者ハ特許ナル行政處分ヲ覆ヘシ特許權ヲ最初ヨリ存在セザリシト爲スモノニシテ後者ハ發明ノ包含スル技術的範圍ノ限界ヲ定ムルモノナルカ故ニ或特許ニ對シ他人カ其ノ無効ヲ求メ得ヘカラサル場合ト雖特許權ノ範圍牴觸スルニ於テハ其ノ權利範圍ノ確認ヲ求ムルコトヲ妨ケララルモノニ非サレハナリ（昭和三（オ）第一〇二七號、三、一二、一九、大民三）〔第一七九號、五四三頁〕

實用新案法

一 考案者ノ承繼人ト特許出願權(第一條參照)

實用新案法第一條ニハ物品ニ關シ形狀構造又ハ組合セニ係ル實用アル新規ノ型ノ工業的考案ヲ爲シタル者ハ其ノ物品ノ型ニ付實用新案ノ登録ヲ受クルコトヲ得ト規定セルニヨリ實用アル新規ノ型ノ工業的考案ヲ爲シタル者ノミカ之カ登録ヲ受クル權利ヲ有スルモノニシテ其ノ登録ヲ受クル權利ノ承繼人ハ出願ニ際シ其ノ承繼人タルコトヲ證スル書面ヲ差出スヘキモノナルコトハ實用新案法施行規則第七條特許法施行規則第四條ノ規定スル所ナルニヨリ右ノ權利ヲ承繼シタルモノ事實ヲ明ニセス承繼人自身カ考案者ナリトシテ出願シタル場合ニ於テハ其ノ出願ハ適法ナル權利行使ニ非スシテ特許局及第三者ヨリ觀レハ無權利者ノ出願トシ斯ル出願者ノ爲シタル實用新案ノ登録ハ實用新案法第十六條第一號ニ從ヒ審判ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘキモノト解スルヲ相當トス(昭和三(オ)第六五號、三、四、一六、大民二)〔第一五一號、八一頁〕

二 實用新案權ト其ノ範圍ヲ定ムル標準(同上)

實用新案權ハ物品ノ形狀構造又ハ組合ハセニ關スル實用的價值アル新規ノ工業的考案ヲ支配スル權利ニシテ其ノ權利ノ範圍ニ屬スルヤ否ヤハ物品ノ形狀構造又ハ組合ハセテ基準トシテ定ムヘキモノニアラス(昭和五(サ)第九三九號、第一〇六六號、五、四、二六、東地民一五)〔第二二〇號、六三頁〕

三 他ノ考案相互ノ關係ヲ表示セスシテ無條件ニ爲サレタル登録ト其ノ效力(同上)

登録出願ニ限リ他ノ考案相互ノ關係ヲ表示セス而シテ該出願ニ基キ無條件ニ登録セラレタリトスルモ斯ル場合ニ於テ右登録ニヨリ權利低觸ナキモノナリト速斷シ難キノミナラス右ノ如キ登録ニヨリ直ニ他人ノ有スル實用新案權ヲ其許諾ナク又ハ之ニ代ルヘキ審決ヲ受クルコトナクシテ實施シ得ヘキ權利ヲ出願者ニ附與スルカ如キ法律的效果ヲ發生スヘキモノナリト解スヘキ法律上ノ根據ナキノミナラス如ク解スルトキハ實用新案法カ登録ニヨリ考案者ノ權利ヲ保護セントスル目的ハ爲メニ根本的ニ破壊セララルニ至ルヘシ(昭和四(ホ)第一二一八號、五、五、七、東控民三)〔第二二〇號、五四頁〕

四 實用新案カ他ノ登録實用新案ヲ實施スルニアラサレハ實施スル能ハサル場合ト登録出願(第二條參照)

實用新案法施行規則第二條ニ依レハ實用新案カ他ノ登録實用新案ヲ實施スルニアラサレハ之ヲ實施スルコト能ハサル場合ニハ登録出願ノ際考案相互ノ關係ヲ表示スルヲ要セサルモノナリ(昭和四(ニ)第一三四六號、四、一〇、五、東地民二)〔第一九九號、三六七頁〕

商 標 法

一 普通名詞ノ繼續使用ト登録商標タル適格(第一條參照)

普通名詞ヨリ成リ且普通使用スル書體ニテ表示シタル文字商標ト雖長年月ノ間繼續シテ一定商品ニ使用セラレ來リタル結果其ノ商品トノ關係ニ於テ取引上右商標ニ於ケル普通名詞ハ固有名

詞化セラレ該商品ニ其ノ商標ヲ添付スルトキハ之ニ依リ一般取引上直ニ商品ノ出處ヲ認識セラ
ルルニ足ルトキハ特別顯著性ヲ有スルニ至リタルモノトシテ登録商標タル適格ヲ有スルモノト
解セサルヘカラス (昭和二(オ)第一〇九三號、三、四、一〇、大民二) (第一五一號、八二頁)

二 類似商標ノ限界 (同上)

或商號ヲ有スル商人ノ製造販賣ニ係ル或商品カ優良品トシテ世上ノ聲價ヲ博セル場合ニ別人カ
之ト同種類ノ商品ニ或商標ヲ使用セリトセムニ此ノ商標カ彼ノ商號ト同一ニモ非ス類似ニモ非
ス又之ヲ以テ其ノ構成ノ一部トセルニモ非スト雖而モ此ノ商標ハ容易ニ彼ノ商號ヲ聯想セシム
ルモノアリ依テ以テ此ノ商品ハ彼ノ商人ノ製造販賣ニ係ル優良品ナリト誤認セシムルノ虞アル
トキハ是亦所謂商標ソノモノカ當該商品ノ品質若クハ出所ニ付世人ヲ欺瞞スルノ虞アル場合ニ
外ナラス (昭和三(オ)第一三一六號、四、五、二二、大民四) (第一九七號、三一六頁)

三 商標權ノ登録更新ト前商標登録ノ效力 (同上)

登録ニ依リ發生シタル商標權ニ付其ノ後存續期間ノ更新セラレタル場合ニ於テハ其ノ商標權ハ
一旦消滅シテ又新ナル商標權發生スルモノニ非スシテ同一ノ商標權カ依然右ノ更新後モ存續ス
ルモノト解スヘキモノトス、從テ存續期間更新ノ登録アルモノ前ノ商標登録ハ當然效力ヲ失フモ
ノニ非ス (昭和五(オ)第一二二號、五、七、三〇、大民四) (第二四二號、四七二頁)

四 所謂類似ノ商號 (同上)

「銀座ゴンドラ」ナル商號ハ「ゴンドラ」ナル商號トハ全然同一ニハ非スト雖モ前者ハ單ニ後者
ノ冠頭ニ「銀座」ナル地名ヲ加エタルニ止リ二者ハ明ニ混同シ易キモノト謂フヘク商法ニ所謂
類似ノ商號ナルコト明白ナリ (昭和五(ワ)第四六八六號、五、三、一九、東地民一四) (第二二一號、
八四頁)

五 普通名稱ト商標權ノ效力 (第八條參照)

商標法第八條ハ商標權ノ效力ハ其ノ商品ノ普通名稱ヲ表示スルモノニ及ハストノ規定ニハ非ス
シテ普通ニ使用セララルル方法ヲ以テ其ノ商品ノ普通名稱ヲ表示スルモノニ及ハストノ規定ニ外
ナラサルコトハ明文ノ上ニ顯然タリ而シテ玆ニ所謂普通名稱トハ固有名稱ニ對スル普通名稱ノ
義ニ過キス (昭和四(オ)第二號、四、五、四、大民四) (第一九〇號、一七五頁)

六 商標法第一五條第一項ノ法意 (第十五條參照)

商標法第一五條第一項ニ商標權者故意ニ其ノ登録商標ニ商品ノ誤認又ハ混同ヲ生セシムル虞
ル附記又ハ變更ヲ爲シテ之ヲ使用シタルトキハ審判ニ依リ商標ノ登録ヲ取消スヘシト規定シタ
ルハ蓋シ商標權者カ故意ニ登録商標ニ附記變更ヲ爲スコトニ依リ其ノ外觀ニ變更ヲ加ヘテ之ヲ
使用シテ商品ノ誤認又ハ混同ヲ生セシメントスル不正手段ヲ防止シ斯ル不正手段ニ對スル制
裁トシテ其ノ商標登録ノ取消ヲ許容シタル趣旨ナルコト明ナルヲ以テ同條ニ所謂附記又ハ變更
ヲ爲シテ登録商標ヲ使用シタルトキトアルハ登録商標ヲ其ノ指定商品又ハ指定商品ト類似スル
商品ニ使用シタル場合ヲ指スノミナラス登録商標ヲ其ノ指定商品ト類別ヲ異ニスル商品ニ使用

シタル場合ヲモ包含スルモノト解セサルヘカラス何トナレハ商標權者カ故意ニ其ノ商標ノ外觀ヲ變更シ之ヲ類別ヲ異ニスル商品ニ使用シ商品ノ出所ニ付誤認又ハ混同ヲ生セシムル虞アル場合ニ於テハ之ニ對スル制裁トシテ前記ノ規定ヲ適用シ其ノ登録商標ノ取消ヲ認ムルハ其ノ立法ノ趣旨ニ適合スルモノナルヲ以テナリ (昭和四(オ)第九〇九號、四、一二、一三、大民二) (第二一〇號、四八四頁)

衆議院議員選舉法

一 衆議院議員選舉法ト「家資分散ノ宣告ヲ受ケタル日」ノ意義 (第六條參照)

明治二十三年法律第六十九號家資分散法第四條ニハ家資分散者ハ其宣告ヲ受ケタル日ヨリ選舉權及被選舉權ヲ失フトアルモ明治三十三年法律第七十三號衆議院議員選舉法第十一條第二號及大正八年法律第六十號衆議院議員選舉法第十一條第二號ニハ左ニ掲クル者ハ選舉權及被選舉權ヲ有セス身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨濟ヲ終ヘサル者及家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル迄ノ者ト規定シテ特ニ家資分散ノ決定ニ付確定ノ要アルコトヲ明ニシ現行ノ大正十四年法律第四十七號衆議院議員選舉法モ亦之ト同趣旨ニ於テ其ノ第六條第二號ニ左ニ掲クル者ハ選舉權及被選舉權ヲ有セス破産者ニシテ復權ヲ得サル者ト規定セリ而シテ之等衆議院議員選舉法ノ規定ハ敢テ前記家資分散法ノ規定ノ主旨ヲ變更シタルモノトハ思考シ得サルヲ以テ同規定ニ所謂宣告ヲ受ケタル日トハ宣告ノ確定シタル日ノ意義ナリト解スヘク從テ衆議院議員ノ選舉ニ付テハ前掲執レノ法規ヨリスルモ家資分散ノ宣告ヲ受ケ

タル者ニシテ其ノ宣告確定シタルトキニ非サレハ被選舉權ヲ失ハサルモノナリト云ハサルヘカラス (昭和三(フ)第二九號、四、五、二二、大民四) (第一九七號、三一五頁)

二 衆選法第六條第四號ニ所謂住居ノ意義 (同上)

衆議院議員選舉法第六條第四號ハ一定ノ選舉區内ニ生活ノ本據ヲ有シ且該地域内ニ於テ多少繼續的ニ換言スレハ偶爾ナラスシテ居住スル者ニ限り選舉權ヲ有スヘク之ニ該當モサル者ハ選舉權ヲ有スルコトヲ得ストスル趣旨ナルト共ニ同法第十二條モ亦其ノ所定ノ期間引續キ當該市町村ヲ以テ生活ノ本據地トシ且該地域内ニ如上居住ノ場所ヲ有スル者ニシテ始メテ選舉人名簿ニ登録セラレハク之ニ該當セサル者ハ其ノ登録ヲ受クルコトヲ得ストスル趣旨ナリト解スルヲ相當トス、蓋シ舊衆議院議員選舉法第八條第十八條ニ依レハ一定ノ期間引續キ當該選舉區内ニ生活ノ本據ヲ有スル者ハ總テ選舉權ヲ有シ選舉人名簿ニ登録セラレルコトヲ得ヘク其ノ該地域内ニ如上居在ノ場所ヲ有スルト否トハ敢テ問フトコロニ非サリシト雖單ニ當該地域内ニ生活ノ本據ヲ有スト云フニ止マリ如上居住ノ場所ヲ有セサルカ如キ者ニ對シテモ尙且與フルニ選舉權ヲ以テシ之ヲ選舉人名簿ニ登録スルカ如キハ決シテ當ヲ得タルモノト謂フヲ得ス選舉權享有ノ要件トシテ全然納稅ノ事實ヲ必要トセサル制度ヲ採ルニ於テ殊ニ爾ルモノアリ須ラス當該選舉區タル市町村ヲ以テ生活ノ本據トスルト同時ニ該地域内ニ於テ前叙ノ如キ居住ノ場所ヲ有スル者ニ限り選舉權ヲ附與シ之ヲ選舉人名簿ニ登録スヘシトスルモノ即現行法ノ趣旨ニシテ舊法ニ「住所」トアリタルヲ改メテ「住居」ト爲シタルハ職トシテ茲ニ出テタルモノナリト解スヘキヲ以テナリ (昭和四(オ)第七六六號、五、一、一八、大民四) (第二一四號、六六三頁)

三 待遇官吏ノ衆議院議員當選ノ效力(第九條參照)

待遇官吏ハ衆議院議員選舉法第十條ニ依リ衆議院議員ヲ兼ヌルコトヲ得スト雖被選舉權ハ之ヲ有スルコト同法第九條ノ規定ニ徴シ明ナルカ故ニ當選人ト爲リ得ルコト論ヲ俟タサル所ナルノミナラス當選ノ有效無効ハ選舉期日ヲ標準トシテ之ヲ定ムヘキモノナレハ其ノ後ノ行爲タル當選承諾ノ届出カ待遇官吏ノ現職ノ儘ニテ爲サレタリトテ此ノ一事ノミニ因リ當選自體ノ無効ヲ來スコトナク唯單ニ其ノ承諾ノ效力則チ斯ル承諾ニ依リテハ議員タルコトヲ得サルヤ否ノ問題ヲ生スルニ過キス (昭和三(フ)第二八號、三、六、二七、大民三) [第一六四號、二八〇頁]

四 選舉人名簿ノ違式ノ記載ト選舉ノ效力(第十二條參照)

衆議院議員選舉法第十二條第三項ニ於テ選舉人ノ住居及生年月日ヲ選舉人名簿ニ記載セシムルハ之ヲ以テ各選舉人ヲ容易ニ識別セシムルノ一資料ト爲シ因テ無資格者カ投票ヲ爲スカ如キコトナカラシメンカ爲ナルカ故ニ其ノ住居ニハ最小行政区劃タル市町村ノ外町名又ハ字名及番地ヲ表示シテ之ヲ記載スヘキモノト解スヘク從テ選舉人名簿ニ選舉人ノ住居スル町名又ハ大字ノミヲ記載シテ其ノ地番ヲ記載セス又ハ其ノ生年月日ノ記載ヲ脱漏セルハ違法ノ登錄ナリト云ハサルヲ得ス、然レトモ違式ノ登錄ハ必スシモ其ノ全部ヲ無効ナラシムルモノニ非スシテ其ノ登錄ノ全體ニ涉リ選舉人ノ同一ヲ識別スルニ足ル程度ノ記載アリト認メ得ル場合ニ於テハ之ヲ以テ尙選舉人名簿ノ登錄トシテ有效ナルモノト解スヘキモノトス (昭和三(フ)第二一號、四、一〇、一四、大民一) [第二〇七號、四六六頁]

五 選舉人名簿ニ選舉人ノ登錄順序番號ヲ缺如セル場合ト其ノ效力(同上)

衆議院議員選舉法施行規則第一條及別記様式ニ依レハ選舉人名簿ニハ各選舉人ノ登錄順序ニ從ヒ番號ヲ附スヘキコトト規定シアレトモ是レ單ニ選舉事務執行ノ便宜ニ資スル爲記載セシムルニ過キスシテ番號記載ノ脱漏ニ依リ選舉人名簿ノ無効ヲ惹起スルモノニ非スト解スルヲ相當トス (同上)

六 衆選法第一八條ノ期間起算點(第十八條參照)

衆議院議員選舉法第十八條ニ「總選舉ハ解散ノ日ヨリ三十日以内ニ之ヲ行フ」トアルハ解散ノ翌日ヨリ起算シテ三十日以内ニ總選舉ヲ行フヘキコト即右期間ニハ解散ノ當日ヲ算入セス其ノ翌日ヨリ起等シテ前掲期間内ニ之ヲ行フヘキコトヲ明ニシタルモノニシテ右ノ法意ハ同法第七十八條ニハ特ニ「總選舉ノ日ヨリ起算ス」ト規定シ以テ同條規定ノ期間ノ計算ニ付テハ總選舉當日ヲ算入スヘキコトヲ示シタルト對比シテ之ヲ考フルモ寸毫ノ疑ヲ挾ムヘキ餘地ナキモノトス (昭和五(フ)第四號、五、五、二四、大民三) [第二二九號、二二九頁]

七 總選舉期日ノ起算點(同上)

衆議院議員選舉法第十八條「總選舉ハ解散ノ日ヨリ三十日以内ニ之ヲ行フ」トアルハ解散ノ翌日ヨリ起算シテ三十日以内ニ總選舉ヲ行フヘキコト即右期間ニハ解散ノ當日ヲ算入セス其ノ翌日ヨリ起算シテ三十日以内ニ之ヲ行フコトヲ明ニシタルモノニシテ右ノ法意ハ同法第七十八條ニハ特ニ「總選舉ノ期日ヨリ起算ス」ト規定シ以テ同條規定ノ期間ノ計算ニ付テハ總選舉當日

ヲ算入スヘキコトヲ示シタルニ對比シテ之ヲ考フルモ寸毫ノ疑ヲ挾ム餘地ナキモノトス (昭和五(フ)第一三號、五、六、一、大民四) (第二二四號、一三〇頁)

八 投票時刻ノ遅延ト選舉ノ效力 (第二十三條參照)

衆議院議員選舉法第二十三條ニハ投票所ハ午前七時ニ開キ午後六時ニ閉ツト規定セルヲ以テ投票所開所時刻ノ遅延ハ一見同條ニ違反スルモノナルカ如キ觀アリ然レトモ法カ右ノ如ク規定セル所以ノモノハ選舉人ヲシテ右期間内各其ノ便宜トスル時ニ於テ投票スルコトヲ得セシメ以テ成ル可ク投票ヲ爲サシメント企圖シタルモノニ外ナラサルカ故ニ何等カ爲ニスル所アリテ故意ニ投票時間ヲ伸長短縮スルカ如キ選舉ノ自由公正ヲ阻害シタル場合ハ同條ノ違反タルヘキモ何等選舉ノ自由公正ヲ阻害シタル事實ナキニ於テハ縱令投票所ノ開始時刻カ多少遅延シタレハトテ之カ爲ニ直ニ同條ニ違反セルモノトシテ之ニ基ク選舉ヲ無効ト爲スヘキニ非スト解スヘキモノトス (昭和三(フ)第九號、三、一、二九、大民二) (第一七八號、五二三頁)

九 投票立會人ノ數 (第二十四條參照)

衆議院議員選舉法第二十四條第一項ハ議員候補者ハ各投票區ニ於ケル選舉人名簿ニ記載セラレタル者ノ中ヨリ本人ノ許諾ヲ得テ投票立會人一人ヲ定メ投票管理者ニ届出ツルコトヲ得ルモノト爲スカ故ニ投票立會人ノ數ハ議員候補者ノ數ト其ノ届出ノ有無トニヨリ左右セラレ必スシモ一定スルモノニ非サレトモ投票立會人餘リニ寡少ナルトキハ選舉ノ公正ヲ維持スル能ハサル虞ナキニ非サルヲ以テ同條第二項ハ「前項ノ規定ニ依ル投票立會人三人ニ達セサルトキ若ハ三人

ニ達セサルニ至リタルトキ又ハ投票立會人ニシテ參會スル者投票所ヲ開クヘキ時刻ニ至リ三人ニ達セサルニ至リタルトキハ投票管理者ハ其ノ投票區ニ於ケル選舉人名簿ニ記載セラレタル者ノ中ヨリ三人ニ達スル迄ノ投票立會人ヲ選任シ直ニ之ヲ本人ニ通知シ投票ニ立會ハシムヘシト規定シタルモノナリ故ニ此ノ規定ハ投票立會人ノ數ハ少クトモ三人アルコトヲ要スル旨ヲ定メタルモノト解スルヲ至當トシ投票立會人ノ數三人ヲ超過スルモ其ノ超過僅少ナル場合ニハ超過ノ一事ニ依リ此ノ規定ニ違反スルモノト爲ステ得ス (昭和三(フ)第一八號、三、一〇、九、大民二) (第一七二號、〇九頁)

一〇 投票立會人ト議員候補者本人ノ立會 (同上)

衆議院議員選舉法第二十四條第一項ニ於テ議員候補者ハ各投票區ニ於ケル選舉人名簿ニ記載セラレタル者ノ中ヨリ本人ノ承諾ヲ得テ投票立會人一名ヲ定メ得ヘシト爲ス所以ハ當ニ一般ニ選舉ノ自由公正ヲ期スルニ止ラス一面投票ニ關シ最モ利害關係ヲ有スル議員候補者ヲシテ投票立會人ニ依リ投票事務ヲ監視セシメ以テ其ノ利益ヲ保護セシムルノ趣旨ニ出ツルモノナルコトハ同條第一項但書ニ於テ議員候補者死亡シ又ハ議員候補者タルコトヲ辭シタルトキハ其ノ届出テタル投票立會人ハ其ノ職ヲ失フ旨規定セルニ徴シ之ヲ認ムルニ難カラサル所ニシテ既ニ然ル以上同條ハ議員候補者本人ニ於テ自身投票立會人タルコトヲ許ササルモノト云フヘカラス、且議員候補者本人ニ於テ投票ニ立會スルコトニ依リ當然選舉ノ自由公正ヲ阻害スルニ至ルヘキコトハ之ヲ認メ難キノミナラス衆議院議員選舉法中ノ他ノ規定又ハ關係法規中議員候補者ノ立會ニ關シ禁止規定ト認ムヘキモノ存在セス (昭和五(フ)第一五號、五九、一二、大民二) (第二三九號、四

一一 衆議院議員選舉法第三十七條ニ所謂天災其ノ他避クヘカラサル事故ノ意義 (第三十七條參照)

衆議院議員選舉法第三十七條ニ所謂天災其ノ他避クヘカラサル事故ニ因リ投票ヲ行フ事ヲ得サルトキトハ例ヘハ暴風雨ノ爲不時ニ出水シ又ハ降雪等ノ爲投票區内ノ村落ト投票所トノ交通カ杜絶シ之カ爲選舉人ノ大部分カ投票ヲ爲スコトヲ得サルカ如キ場合ヲ指稱スルモノト解スルヲ相當トス (昭和三(フ)第一七號、三、一〇、一五、大民一) (第一七三號、四二九頁)

一二 開票立會人ノ開票録署名義務ト開票管理者ノ權限 (第五十一條參照)

開票管理者カ投票ノ效力ニ付開票立會人ノ意見ト反對ノ決定ヲ爲シタルヲ不當トシテ投票ノ封緘後ニ於テ更ニ投票ノ調査ヲ要求シ其ノ容レラレサルヲ理由トシ開票録ニ署名スルコトヲ拒絕シタル行爲ハ開票立會人トシテ開票録ニ署名ヲ拒絕スル正當ノ事由トナラサルヤ疑ヲ容レス何トナレハ投票ノ效力ハ開票管理者ニ於テ之ヲ決定スヘキモノニシテ開票立會人ノ意見ニ拘束セラルルモノニ非サルヲ以テ開票管理者ニ於テ投票ノ效力ニ付開票立會人ノ意見ト異ナル決定ヲ爲シタルハトテ之ヲ不當ト云フコトヲ得サルト同時ニ開票管理者ハ開票ニ關スル事務ヲ指揮統轄シ投票ヲ整理スル職務權限ヲ有スルモノナレハ既ニ開票立會人ノ意見ヲ聽キテ投票ノ效力ヲ決定シ其ノ點檢ヲ終リ而モ封印ヲ施シタル後ナル以上開票立會人カ其ノ決定ノ自己ノ意見ニ反スルヲ理由トシテ更ニ投票ノ調査ヲ要求スルモノ之ニ應スルト否トハ開票管理者ノ職權ニ屬シ斯

ル要求ヲ拒絕スルハ違法ニ非レハソノ拒絕ハ開票立會人ノ開票録ニ署名スル義務ヲ免脱スヘキ正當ノ事由ナラサルコト勿論ナレハナリ (昭和三(レ)第一五九二號、三、一一、八、大刑二) (第一七四號、四四八頁)

一三 黒點ノ表示ト衆議院第五二條第一項第五號ニ所謂他事ノ記載 (第五十二條參照)

一ノ文字ノ右側ニ黒點ヲ加ヘタル投票カ筆勢又ハ筆癖等ノ爲ニ非ス若ハ句點ノ類ニ非スシテ何等カノ意義ヲ表示スル爲ニ故意ニ記入セラレタルモノナル場合ハ即衆議院議員選舉法第五十二條第一項第五號ニ所謂議員候補者ノ氏名ノ外他事ヲ記載シタルモノトアルニ該當スルモノト認ムルヲ相當トス (昭和三(フ)第一號、四、七、二五、大民一) (第一九三號、二三四頁)

一四 衆議院選舉法第六四條支出簿ノ記載事項 (第六十四條參照)

選舉運動ノ爲財産上ノ義務ヲ負擔シ又ハ金錢以外ノ財産上ノ利益ヲ利用シ若ハ費消シタル場合其ノ義務又ハ利益ヲ時價ニ見積リ其ノ金額ヲ以テ選舉運動ノ費用ト看做スコトハ衆議院議員選舉法第三十三條ノ規定スル所ニシテ同法施行令第六十四條ニハ(一)選舉事務長金錢ヲ以テ選舉運動ノ費用ノ支出ヲ爲シタルトキ(二)選舉事務長第五十九條第一項又ハ第六十條ニ依リ金錢ノ支出ニ關スル精算書ヲ作成シタルトキ(三)選舉事務長第六十二條第三項ノ規定ニ依リ金錢ノ支出ニ關スル承諾簿ノ記載ヲ爲シタルトキ(四)選舉事務長前條ノ規定ニ依リ評價簿ノ記載ヲ爲シタルトキハ直ニ支出金額其ノ用途ノ大要、支出先及支出年月日ヲ支出簿ニ記載スヘキ旨ヲ規定シ

又同法第六十二條及第六十三條ニ依レハ承諾簿又ハ評價簿ニハ財産上ノ義務ノ負擔又ハ金錢以外ノ財産上ノ利益ノ使用若ハ費消ニ付夫々記載ヲ爲スヘキ旨ノ規定アリ而シテ右第六十四條ハ前叙(三)及(四)ノ如ク夫々右第六十二條及第六十三條ニ依リ記載ヲ爲シタルトキハ支出簿ニモ其ノ旨ノ記載ヲ爲スヘキ旨ノ規定アルヨリ之ヲ考覈スレハ右第六十四條ノ支出簿ニハ當ニ現金ヲ以テ費用ノ支出ヲ爲シタル場合ノミナラス財産上ノ義務ヲ負擔セル場合ニモ之カ費用ヲ支出シタルモノト記載ヲ爲スヘキモノト解スルヲ安當トス (昭和三(九)第二九八號、三、四、一八、大刑三) [第一六一號、二三二頁]

一五 選舉無效ノ判決ト其ノ要件 (第八十二條參照)

裁判所カ選舉ノ全部又ハ一部ノ無效ヲ判決スルニハ當ニ選舉ノ規定ニ違背シ選舉手續ニ瑕疵アルノミヲ以テ足レリトセス更ニ之カ爲ニ選舉ノ結果ニ異動ヲ及ホス虞アル場合ナラサルヘカヲサルコトハ選舉法ノ規定ニ照ラシ明ナルトコロナリ加之選舉ノ規定ニ違背スルコトアルモ常ニ必スシモ同一投票所ニ行ハレタル選舉手續全部ヲ通シテ瑕疵アル者ト爲スノ理ナク(例之一時制規ノ投票立會人ノ立會ヲ缺クモ爾餘ノ適法ナル立會ノ下ニ行ハレタル選舉マテ常ニ必スシモ瑕疵アルモノトハ斷シ難シ)瑕疵アル選舉手續ノ下ニ行ハレタル投票數ト適法ナル選舉手續ノ下ニ於ケル投票數トカ判別シ得ルニ於テハ瑕疵アル選舉手續ノ下ニ於ケル投票ノミヲ無効トシテ選舉ノ結果ニ異動ヲ生スル虞アルヤ否ヲ判斷スヘキコトモ亦多言ヲ要セサルヘシ (昭和三(七)第七號、三、一一、一、大民三) [第一六八號、三四二頁]

一六 選舉事務長ト選舉事務員ノ兼務 (第八十八條參照)

市制第三十九條ノ三ニ依リ準用セララルル衆議院議員選舉法ノ規定ニハ選舉事務長カ選舉事務員ヲ兼ヌルコトヲ得ヘキコトヲ定メタルモノナキヲ以テ選舉事務長ハ選舉事務員ヲ兼ヌルコト能ハサルモノト解釋セサルヘカラス、蓋選舉事務員ハ選舉委員ト共ニ選舉事務長ニ依リ選任セララルモノニシテ其ノ選舉委員トノ差別ハ單ニ報酬ヲ受ケルコトヲ得ルト否トニ存シ法律上其ノ執ルヘキ事務ノ實質ニ於テ兩名ノ間ニ何等差別ヲ設ケルコトナシト雖法カ時ニ選舉事務員ノ制度ヲ認メタル所以ノモノハ元來選舉運動ニ從事スル者ハ其ノ運動ニ付報酬ヲ受ケサルヲ本則トスルモ總テ無報酬トスルトキハ計算簿記ノ如キ特段ノ技能ヲ要スル事務又ハ諸般ノ雜務ニ從事スル如キ者ヲ得難キ虞アルカ故ニ此等ノ實際上ノ利便ヲ顧慮シ特ニ報酬ヲ受ケ得ル運動者トシテ選舉事務員ヲ選任シ得ヘキコトヲ認メタルモノニ外ナラサルヲ以テ選舉事務長ノ如キ議員候補者ノ爲ニ選舉運動ノ樞軸ヲ握リ萬般ノ組織的選舉運動ヲ統制スル任ニ在ル者カ選舉事務員ヲ兼タルカ如キハ法ノ豫想セサル處ナリト謂フヘク又之ヲ選舉事務長ノ選任ニ關スル衆議院議員選舉法第八十八條ノ規定ト比較スルモ選舉事務長ノ選任ニアリテハ特ニ其ノ選任者タル議員候補者又ハ推薦届出者カ自ラ選舉事務長タルコトヲ得ヘキ規定ヲ設ケルニ反シ之ト同様ノ法律關係ヲ規定セル選舉委員選舉事務員ノ選任ニ付テハ選任者タル選舉事務長自ラ選舉委員選舉事務員ト爲リ得ヘキ旨ヲ規定セス又議員候補者又ハ推薦届出者自ラ選舉事務長ト爲ル場合カ特ニ之ヲ選任ト謂ハサルニ徴スルトキハ選舉事務長ハ自己ヲ選舉委員又ハ選舉事務員トシテ選任スルコトヲ得サルモノト論斷セサルヘカラサレハナリ (昭和四(九)第一六〇五號、五、三、三、大刑五) [第二二三號、一一六頁]

一七 選舉委員及事務員ノ區別及其ノ資格發生消滅ノ時期（第八十九條參照）

選舉委員及選舉事務員ハ孰レモ選舉事務長ニ選任セラレ其ノ指揮ノ下ニ諸般ノ選舉事務ニ從事スル者ニシテ職務權限ニハ法律上差別ナク兩者區別ノ標準ハ畢竟スルニ選舉事務長カ選舉委員トシテ選任シタルヤ又ハ選舉事務員トシテ選任シタルヤノ形式ニ存シ選舉事務員トシテ選任セラレタルトキハ選舉運動ヲ爲スニ付報酬ヲ受クルコトヲ得ルモノト謂ハサルヘカラス

衆議院議員選舉法第八十九條第二項第三項ニ於テ選舉事務長ハ文書ヲ以テ通知スルコトニ依リ選舉委員又ハ選舉事務員ヲ解任スルコトヲ得、選舉委員又ハ選舉事務員ハ文書ヲ以テ選舉事務長ニ通知スルコトニ依リ辭任スルコトヲ得、選舉委員又ハ選舉事務員ハ一方的意思表示ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得ルニ徴スルトキハ右資格ノ發生消滅ハ一ニ叙上選任解任及辭任ノ意思表示ニ因ルモノニシテ警察官署ニ對スル之カ届出ハ法定選舉運動者タル資格ノ發生及消滅ノ成立要件ニ非サルヲ知ルニ足ルヘシ、而シテ選舉委員又ハ選舉事務員タル資格ヲ得タル以上ハ反對ノ規定ナキヲ以テ直チニ選舉運動ヲ爲スヲ得ヘシトスルヲ當然トス（昭和三（九）第一六二號、三、三、二二、大刑二）〔第一五二號、一〇二頁〕

一八 選舉運動員選任ノ效力發生時期ト届出ノ效力（同上）

衆議院議員選舉法第八十九條第四項ニ選舉委員若ハ選舉事務員ヲ選任シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ警察官署ニ届出ツヘシト規定シタルハ選舉事務長ニ於テ選舉委員若ハ選舉事務員ヲ選任スルヤ否ヤ直ニ之カ届出ノ手續ニ着手シ之ニ要スル相當ナル時間内ニ警察署ニ届出ヲ完了スヘキコト命シタルモノト解セサルヘカラス、何トナレハ選舉事務長カ本條ノ届出ヲ爲スニハ届出ヲ爲

スニ缺クヘカラサル準備選舉事務所警察官署間ノ距離等ニ應シ相當ナル時間ヲ必要トスルト共ニ選舉委員若ハ選舉事務員ハ届出手續ノ完了ヲ俟ツコトナク選任ト同時ニ法定ノ選舉運動者トシテ選舉運動ヲ爲スコトヲ得ルモノナルニ依リ選舉取締ノ目的ヲ達成スルカ爲速ニ届出ヲ爲サシムヘキ必要存スルコト明ニシテ元來届出ナルモノハ届出義務者ノ一方行爲ニシテ其ノ届出ヲ受クヘキ官公署ニ到達セシムルヲ以テ足り必スシモ處理權限アル者ニ直接交付スルヲ要スルモノニアラス且届出カ休日若ハ官公署ノ執務時間外ニ爲サレタルノ故ヲ以テ之ヲ無効ト爲スヘキ理據ナキニ依リ該届出ハ書類カ當該官署ニ到達スルニ依リ完了スルモノト解スヘキモノトス（昭和五（九）第九五三號、五、七、一九、大刑三）〔第二三九號、四二七頁〕

一九 選舉運動員選任ノ性質（同上）

衆議院議員選舉法第八十九條第一項ハ選舉事務長ニ非サレハ選舉委員若ハ選舉事務員ヲ選任スルヲ得スト規定シタルニ過キスシテ其ノ選任ノ形式ニ付何等定ムル所ナシト雖被選者ノ承諾ナクシテ選舉委員若ハ選舉事務員タルノ責ヲ負擔セシムルハ不當ナルヲ以テ選任ハ之ヲ合意ナリト解スヘク苟モ選舉事務長ト選舉委員若ハ選舉事務員タルヘキ相手方トノ間ハ選舉運動ヲ爲スニ付テノ明示若ハ默示ノ合意成立スルニ於テハ選舉事務長ノ選舉委員若ハ選舉事務員ノ選任ハ奚ニ完了スト云フヘキナリ（同上）

二〇 新聞號外ニ依ル經過報道ト推薦狀（第九十六條參照）

府縣制第四十條ニ依リ準用セララルヘキ衆議院議員選舉法第九十六條ニ所謂推薦狀トハ特定又ハ

不特定ノ選舉人ニ對シ特定人ヲ議員候補者トシテ推薦スル趣旨ヲ記載シタル文書ニシテ特定又ハ不特定ノ選舉人ニ對シ個別的ニ到達セシメ其ノ受ケタル者ニ於テ推薦者ノ何人タルヤヲ知ルコトヲ得ヘキモノヲ指稱スルモノナルヲ以テ新聞ノ號外ヲ以テ立候補ノ經過其他ノ事項ヲ掲載頒布スルモ前示法條ニ所謂推薦狀ニ該當スヘキモノニ非ス (昭和三(九)第一七九號、三、三、一六、大刑四)〔第一五〇號、七〇頁〕

二二 衆議院選舉法第九十六條ニ所謂推薦狀ト新聞廣告並ニ立看板張札(同上)

府縣制第四十條ニ依リ準用セラルヘキ衆議院議員選舉法第九十六條但書ニ所謂推薦狀トハ特定又ハ不特定ノ選舉人ニ到達セシムル目的ヲ以テ特定人ヲ議員候補者トシテ推薦スル趣旨ヲ記載シタル文書ニシテ之ヲ受ケタル者ニ於テ推薦者ノ何人ナルヤヲ知ルヲ得ヘキモノヲ謂フ故ニ同條但書ノ推薦狀ニ依ル選舉運動ニハ特定人ヲ議員候補者トシテ推薦スル旨ノ書簡ヲ選舉人ニ到達スルヲ以テ通常ノ方法ト爲スモ新聞紙上ニ掲載スル推薦廣告ニ依リ其ノ新聞紙ヲ選舉人ニ送達セシムルカ如キモ亦之ヲ推薦狀ニ依ル選舉運動ト認ムルニ妨ナシ、然レトモ之ト異リ立看板張札ノ類ニ特定人ヲ議員候補者トシテ推薦スル旨ヲ記載シタルモノノ如キハ縱令之ニ推薦者ノ住所氏名ヲ掲ケ且前ノ選舉人ニ對シテ推薦スル趣旨ナルコトハ自ラ了解シ得ラルルモ其ノ文書ハ同條但書ノ推薦狀ニ非ス、從テ如上ノ立看板張札ノ使用ニ依ル選舉運動ハ其ノ推薦狀ニ依ル選舉運動ニ該當セサルモノトス (昭和三(九)第三一號、三、三、二七、大刑一)〔第一五〇號、六七頁〕

二三 候補者ノ意見ヲ掲載シタル新聞號外ト推薦狀(同上)

議員候補者ノ地方問題ニ對スル意見ヲ掲載シタル新聞號外ヲ頒布シテ投票ヲ誘導シタル場合該行爲カ議員候補者ノ當選ヲ得シムルノ目的ヲ以テ同候補者ノ談話ヲ藉リテ該地方ノ選舉人ニ特殊ノ直接利害關係ヲ有スル新聞號外ニ掲載シテ廣ク之ヲ同地ノ選舉人ニ頒布シ以テ同候補者ノ爲ニスル選舉運動ニ利用シ選舉人ヲ誘導シタルモノナルトキハ該新聞ノ記載事項ヲ目シテ衆議院議員選舉法ニ所謂推薦狀ナリト謂フヲ得ス (昭和二(九)第一八七六號、三、四、四、大刑三)〔第一五二號、一〇三頁〕

二四 衆議院議員選舉法第九十六條ニ所謂選舉運動ト推薦狀加名ノ勸誘(同上)

府縣制第四十條ニ依リ準用セラルル衆議院議員選舉法第九十六條ニ所謂選舉運動トハ一定ノ議員選舉ニ付一定ノ議員候補者ヲ當選セシムヘク投票ヲ得若クハ得シムルニ付直接又ハ間接ニ必要且有利ナル周旋勸誘若クハ誘導其ノ他諸般ノ行爲ヲ爲スコトヲ汎稱シ直接ニ投票ヲ得又ハ得シムル目的ヲ以テ周旋、勸誘等ヲ爲ス行爲ニ局限セス、故ニ法定選舉運動者ニ非サル者カ投票ヲ得又ハ得シムル目的ヲ以テ選舉人ニ對シ或人ヲ議員候補者トシテ推薦センコトヲ依頼スル行爲ハ右法條ニ該當スルコト論ヲ俟タス然レトモ推薦狀ニ依ル選舉運動ハ議員候補者、選舉事務長、選舉委員又ハ選舉事務員ニ非サル者ト雖之ヲ爲スコトヲ得ヘキコト前記法條ノ明定スル所ナレハ或人ヲ議員候補者トシテ推薦スルニ際リ單ニ推薦者トシテ推薦狀ニ加名センコトヲ勸誘スルハ法ノ禁スル所ニ非スト解スルヲ正當トス (昭和三(九)第三四九號、三、四、二〇、大刑四)〔第一五三號、一一六頁〕

二四 推薦狀加名運動ト運動者ノ責任(同上)

府縣制第三十九條第四十條ニ依リ準用セラルル衆議院議員選舉法第九十六條ニハ議員候補者、選舉事務長、選舉委員又ハ選舉事務員ニ非サレハ選舉運動ヲ爲スコトヲ得サルコトヲ規定シナカラ演說又ハ推薦狀ニ依ル選舉運動ニ付除外例ノ設アルヲ以テ推薦狀ニ依ル選舉運動ハ選舉ノ自由公正ヲ保持スルニ關シ取締上實害ナキヲ以テ之ヲ不問ニ附スル法意ナルコト蓋シ疑ヲ容レス故ニ推薦狀ヲ配布スルニ先チ之ヲ作成スル行爲ノ如キハ論ナク特定ノ人ヲ議員候補者トシテ推薦スルニ付他人ニ對シ單ニ推薦狀ニ加名センコトヲ勸誘スル行爲ノ如キモ亦推薦狀ニ依ル選舉運動ヲ爲スニ至ルヘキ準備行爲ニ屬シ縱令之ヲ進展セシムルモ結局推薦狀ニ依ル選舉運動ヲ爲スニ至ルニ過キサルモノナルカ故ニ均シク法ニ於テ之ヲ不問ニ付スルモノト解スルヲ正當トス故ニ他ニ投票ヲ得ル目的ヲ有シ如上ノ勸誘ヲ利用シテ之ヲ其ノ目的ヲ達スル手段ニ供スルニ非サル限其ノ勸誘ハ同法第九十六條ノ禁止ノ範圍外ニ在ルモノト謂フヘク勸誘力立候補ノ届出以後ニ在ルト其ノ前ニ在ルトニ依リ論定ヲ異ニスルコトナキモノトス (昭和三(九)第六六號、三、六、一九、大刑一) (第一五五號、一四一頁)

二五 演說ニ依ル選舉運動トシテノ演說會場借入ト衆選法第九六條(同上)

演說ニ依ル選舉運動ハ議員候補者選舉事務長選舉委員又ハ選舉事務員ニ非サル者ト雖其ノ之ヲ爲シ得ヘキモノナルコト衆議院議員選舉法第九十六條但書ノ明規スル所ニシテ同條但書ニ所謂演說ニ依ル選舉運動トハ單ニ演說ヲ爲スノ行爲夫レ自體ノミヲ謂フモノニ非スシテ其ノ演說ヲ爲スニ付必要ナル演說會場ノ借入其ノ他準備ヲ爲スカ如キ行爲ハ是亦等シク演說ニ依ル選舉運動中ニ包含スルモノトシ法ノ禁スル所ニ非スト解スルヲ正當トス蓋シ演說ノ方法ニ依リテ選舉

運動ヲ爲サントスルニ際シテハ通常演說會場ヲ選定シ其ノ借入レ其ノ他ノ準備ヲ要スヘキハ當然ニシテ其ノ必要ナル準備行爲ヲ不法ナリト論スルハ法ノ精神ニ非サレハナリ (昭和三(九)第一〇二八號、三、七、一四、大刑三) (第一七〇號、三七三頁)

二六 演說又ハ推薦狀ニ依ル組織的且繼續的運動ト衆選法第九六條(同上)

衆議院議員選舉法第九十六條ハ演說又ハ推薦狀ニ依ル選舉運動ニ付テハ議員候補者選舉事務長選舉委員又ハ選舉事務員ハ勿論是等法定ノ選舉運動者ニ非サル所謂第三者ト雖之ヲ爲スコトヲ得ル旨ヲ規定シタルニ止マリ組織的且繼續的ニ之ヲ爲スコトヲ禁シタル趣旨ノ見ルヘキモノナキヲ以テ第三者カ組織的且繼續的ニ之ヲ爲シタルトキト雖同條規定ニ違背スルモノトシテ同法第二百二十九條ニ依リ之ヲ處罰スルコトヲ得サルモノトス蓋シ第三者カ組織的且繼續的ニ演說又ハ推薦狀ニ依ル選舉運動ヲ爲スニ當リテ或ハ選舉事務所ヲ設置シ或ハ事實上選舉委員又ハ選舉事務員ト同一ノ者ヲ選任シ其ノ他法律ノ禁止スル行爲ヲ爲スコトアルヘキハ想像スルニ難カラスト雖斯ル場合ニ於テハ夫レ夫レ當該罰條(例ヘハ衆議院議員選舉法第八十九條第一項第三百三十一條)ニ依リ處罰スルハ格別其ノ選舉運動カ單ニ組織的且繼續的ナルノ故ヲ以テ之ヲ同法第九十六條ニ違反スルモノトシテ同法第二百二十九條ニ依リ處罰スルハ演說又ハ推薦狀ニ依ル選舉運動ヲ汎ク何人ニモ爲スコトヲ許シタル同法ノ精神ニ反スルモノト謂ハサルヲ得サレハナリ (昭和三(九)第一一二七號、三、八、三〇、大刑) (第一七七號、五〇三頁)

二七 選舉事務員トシテノ臨時雇ト服務規律(同上)

北海道炭礦汽船株式會社ノ事務員カ在職ノ儘夕張町臨時雇ヲ命セラレ選舉事務員トシテ同事務ニ從事シタリトスルモ市町村行政事務監督ニ關スル明治二十五年內務省訓令第三百四十八號ノ各條項ニ照シ本件ニ於ケルカ如キ臨時雇ノ選任カ同訓令ニ反スルコトヲ認ムヘキモノナキノミナラス北海道廳令第五十八號服務紀律ハ昭和二年十月一日施行ノ內務省令第三十九號北海道一級町村及北海道二級町村吏員服務紀律ニ依リ當然廢減ニ歸シタルモノニシテ而シテ右內務省令カ北海道一級町村及北海道二級町村吏員ニ準用スヘキモノトセル市町村吏員服務規律(明治四十四年內務省令第六號)ハ本件ノ如キ市町村吏員ニ非サル臨時雇ヲ妨クヘキ何等ノ規定存セサルカ故ニ本件臨時雇ノ選任カ前記內務省訓令並服務規律ニ反シ違法ナリトノ故ヲ以テ選舉ノ無效ヲ主張スルハ失當ナリ (昭和三(七)第一八號、三、一〇、九、大民二) (第一七二號、五〇九頁)

二八 宣傳用張紙ノ貼付場所ヲ自ラ選定スル行爲ト選舉運動(同上)

特定ノ議員候補者ノ爲メ其ノ宣傳用張紙ヲ宣傳ニ有利ナル場所ナルヤ否ヤヲ自ラ考慮シテ適當ト認メタル場所ニ貼付スル行爲ハ單ニ他人ヨリ命セラレタル場所ニ貼付スル行爲ト異リ機械的勞務ノ範圍ヲ超越セルモノニシテ特定ノ議員候補者ヲ當選セシムヘク投票ヲ得シムル目的ヲ以テ之ニ必要且有利ナル行爲ヲ自ラ制定實行スルモノニ外ナラス而シテ特定ノ議員候補者ノ爲メ投票ヲ得シムルニ付必要且有利ナル行爲ヲ爲シタル以上ハ組織的且繼續的ノモノニ非ストスルモ之ヲ選舉運動ニ非スト爲スヘキ理由ナキカ故ニ叙上ノ如ク議員候補者ノ宣傳用張紙ヲ宣傳ニ適當ナル場所ヲ選定シテ貼付スル行爲ハ縱令組織的ニ爲サレタルモノニ非ス又一時的ノモノナリトスルモ仍ホ衆議院議員選舉法ニ所謂選舉運動タルヲ失ハサルモノトス (昭和三(九)第一三

五五號、三、一〇、二九、大刑五) (第一七四號、四四七頁)

二九 選舉運動無資格者ノ供與ト處罰規定ノ法性及罪數(同上)

衆議院議員選舉法第九十六條及第二百二十九條所定ノ犯罪ト同法第一百十二條所定ノ犯罪トハ各別異ノ構成要素ヲ有シ前者ノ處罰規定ト後者ノ處罰規定トハ相互ノ間ニ普通法規特別法規ノ關係又ハ基本法規補充法規ノ關係ヲ有スルコトナシ故ニ選舉運動ヲ爲スコトヲ得ル法定ノ資格ヲ有セサル者カ選舉人又ハ選舉運動者ニ金錢ヲ供與スルカ如キ行爲ヲ爲スニ於テハ同法第一百十二條違反罪ト第二百二十九條違反罪トノ所謂想像的競合罪ヲ構成スルヤ論ヲ俟タス (昭和三(九)第一八二號、四、一、二五、大刑一) (第一七七號、五〇五頁)

三〇 町村助役ト衆選法第九六條第二項(同上)

町村制第七十九條ニ依レハ助役ハ町村長ノ事務ヲ補助シ町村長故障アルトキ之ヲ代理スル權限ヲ有スルモノニシテ右ノ權限ハ町村長ト助役トノ間ニ事務ノ分掌ヲ定メタルト否トニ依リテ消長ト來スモノニアラス、而シテ町村制第三十六條ノ二ニ依リ準用セララルル衆議院議員選舉法第九十九條第二項ニ所謂町村會議員ノ選舉事務ニ關係アル官吏吏員トハ必スシモ現實ニ其ノ事務ニ從事スルモノニ限ルコトナク本來其ノ事務ニ從事シ得ル權限ヲ有シ必要ニ應シテ其ノ事務ニ從事シ得ル官吏ヲモ指稱スルモノナルヲ以テ既ニ町村長カ町村會議員選舉ニ付各般ノ選舉事務ニ從事スルモノナル以上法律上其ノ事務ヲ補助シ町村長故障アル場合之ヲ代理スル權限ヲ有スル町村助役ハ同選舉事務ニ關係アル吏員ト謂フヘク町村長ト町村助役トノ間ニ於テ選舉事務ヲ

町村長ノ分掌事務ト定メタルコトハ右判斷ニ影響ヲ及ホサス (昭和四(レ)第一三六〇號、四、一二、一九、大刑五) (第二一五號、六二三頁)

三一 選舉運動者ニ非サル者ト推薦狀ノ配付(同上)

府縣制第四十條ニヨリ準用セラルヘキ衆議院議員選舉法第九十六條ニ依レハ議員候補者選舉委員又ハ選舉事務員ニ非サレハ選舉運動ヲ爲スコトヲ得ス演說又ハ推薦狀ニ依ル選舉運動ハ此ノ限ニ在ラスト在リ然ルニ同法ハ地方ニ於テ戸別訪問ヲ禁止シ其ノ他特種ノ運動方法ヲ禁止若ハ制限シアルニ反シ推薦狀ニ依リテ爲ス選舉運動ノ形式方法ニ付テ何等制限の規定ヲ設ケサルニヨリ之ヲ觀レハ推薦者ノ意思ニ基キタル以上推薦狀ノ起草ハ勿論之カ配布ニ付テモ其ノ推薦者タルト否トヲ問ハス之ヲ自由ナラシメタルモノト稱スルヲ安當トス (昭和四(レ)第一五〇八號、五、三、二九、大刑三) (第二二三號、一一五頁)

三二 法定ノ選舉運動者ニ非サル者ノ演說ニ依ル運動(同上)

衆議院選舉法第九十六條但書ニ所謂演說ニ依ル選舉運動トハ特定ノ議員選舉ニ付特定ノ議員候補者ヲシテ當選ヲ得シムルノ目的ヲ以テ多衆集會ノ場所ニ於テ其ノ多衆ニ對シ直接同時ニ口頭ヲ以テ一定ノ事項ヲ講談論議シ其ノ候補者ノ當選ヲ斡旋スル一切ノ行爲ヲ汎稱スルモノニシテ此ノ方法ニ依ル選舉運動ハ議員候補者、選舉事務長、選舉委員又ハ選舉事務員タル法定ノ資格ヲ有セサル者即チ所謂第三者ト雖一般ニ適法ニ之ヲ爲シ得ヘキモノナルコト同法第九十六條但書ノ明規スル所ニシテ演說ニ依ル選舉運動ナルモノハ選舉法ノ廣ク何人ニモ許容スル所ニ係リ

其ノ選舉運動ヲ目シテ不法性ヲ有スルモノト論スルヲ許ササルナリ、蓋シ選舉法ハ選舉運動ヲ爲スヘキ者ニ一定ノ制限ヲ加ヘ選舉運動ニ隨伴シテ生スヘキ弊害ノ防止ニ努ムト雖元來選舉運動ハ言論文章ヲ以テ其ノ主義政見ヲ發表シ特定候補者ニ對スル當選ヲ斡旋セシムヘキモノナルコト選舉法ノ精神トスル所ニシテ斯ル手段方法ニ依ル選舉運動ハ選舉ノ自由公正ヲ害セスシテ克ク選舉ノ目的ヲ達シ得ヘキカ故ニ法定ノ選舉運動者ニ非サル一般ノ者ニ對シテモ之カ選舉運動ヲ許容シタルモノト解スルヲ相當トスレハナリ (昭和五(レ)第一一五號、五、五、二九、大刑五) (第二三二號、二八七頁)

三三 候補者ノ挨拶狀又ハ推薦狀ヲ掲載スルハ新聞記者ノ選舉運動ナリ(同上)

議員候補者ノ政見ヲ新聞紙ニ掲載シテ購讀者ニ紹介スルカ如キ事實ノ報道ヲ爲スコトハ新聞記者ノ正當ナル業務上ノ行爲ニシテ固ヨリ選舉法違反行爲ニ非スト雖右ノ如キ報道ヲ爲スニ止マラス議員候補者ヲシテ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ候補者ノ挨拶狀又ハ推薦狀ヲ新聞紙ニ廣告トシテ掲載頒布シ之ニ因テ該議員候補者ニ投票スヘク選舉人ヲ誘導スルカ如キハ固ヨリ選舉運動ニ外ナラサルヲ以テ假令新聞記者ト雖法定ノ選舉運動者ニ非サル以上選舉違反ノ罪責ヲ免ルルコトヲ得サルモノトス (昭和五(レ)第六二二號、五、六、一七、大刑一) (第二三五號、三五〇頁)

三四 選舉運動無資者ト立候補届出前ノ法第九六條但書ノ運動(同上)

衆議院議員選舉法第九十六條本文ハ立候補届出以後ニ於ケル法定ノ選舉運動者ニ非サル者ノ選舉運動ノミヲ禁止スルモノニ非スシテ立候補届出ノ前後ヲ問ハス廣ク法定ノ選舉運動者ニ非サ

ル者ノ選舉運動ヲ禁止スルノ趣旨ナリト云フヘク且同法第九十六條但書ニ於テ演說又ハ推薦狀ニ依ル選舉運動ハ此ノ限ニ在ラスト規定シタル所以ハ法方此ノ種ノ方法ニ依ル選舉運動ヲ以テ選舉ノ自由公正ヲ保持シ選舉ノ取締ヲ爲スニ害ナキコトヲ認メタルカ爲ニ外ナラサルカ故ニ同條本文ヲ承ケタル但書ハ演說又ハ推薦狀ニ依ル選舉運動ニ付本文所定ノ禁止ヲ解キ法定ノ選舉運動者ニ非サル者ニ對シ立候補届出ノ前後ヲ問ハス廣ク此ノ種ノ方法ニ依ル選舉運動ヲ許容シタルモノト解セサルヘカラス (昭和五(九)第七〇八號、五、七、一、大刑三) (第二三七號、三八六頁)

三五 推薦狀ニ依ル選舉運動ノ適法性(同上)

推薦狀ニ依ル選舉運動ハ議員候補者、選舉事務長、選舉委員又ハ選舉事務員ニ非サル者ト雖之ヲ爲シ得ヘキモノナルコトハ衆議院議員選舉法第九十六條但書ニ明記スル所ナレハ選舉人ニ對シ特定ノ候補者ヲ推薦スル趣旨ヲ印刷シタル官製葉書ヲ使用シ各自ノ名義ヲ以テ親戚知己ニ發送方ヲ依頼スルカ如キハ法ノ禁スル所ニ非スト解スルヲ妥當トス (昭和五(九)第八四二號、五、九二二、大刑二) (第二四五號、六二一頁)

三六 選舉人集會席上ニ於ケル言明ト個々ニ對スル意見及面接(第九十八條參照)

選舉運動員カ選舉人十數人ノ集會ニ臨ミ集會者一同ニ對シ同時ニ「當郡ヨリハ立候補者二名アリ其ノ内孰レノ候補者ニ賛成スヘキカ當地ニハ黨員五十八名アルニ依リ黨員ハ一糸亂レサルヤウ」トノ挨拶及言明ヲ爲シ集會者一同ヲシテ選舉運動員ノ意見ニ賛成シテ其候補者ニ投票スヘク決意セシメタリトスルモ右ハ集會者個々ニ對シ意見ヲ求メ面接シタルモノニ非サルヲ以テ衆

議院議員選舉法第九十八條第二項ニ違背シタルモノト謂フヲ得ス (昭和三(九)第一〇二號、三、五、大刑二) (第一五〇號、六八頁)

三七 衆選法第九八條第一項違反罪ノ既遂ノ時期(同上)

衆議院議員選舉法第九十八條第一項違反罪ハ投票ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサル目的ヲ以テ選舉人ノ邸宅ニ立入り面會ヲ求ムル行爲ヲ爲スニ因リ直ニ既遂トナルモノニシテ被訪問者ニ對シ現實ニ其ノ來意ヲ通シ若ハ被訪問者ニ於テ諾否ヲ表スルヲ俟テ始メテ既遂トナルモノニ非ス (昭和三(九)第九五六號、三、八、三、大刑一) (第一七七號、五〇二頁)

三八 衆選法第九八條ニ所謂戸別訪問ト事務所又ハ事務室(同上)

衆議院議員選舉法第九十八條ニ所謂戸別訪問ハ投票ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサルノ目的ヲ以テ選舉人ヲ其ノ居宅ニ訪問スル場合ノ外叙上ノ目的ヲ以テ選舉人ヲ其ノ事務所若ハ事務室ニ訪問スル場合ヲモ包含スルモノトス蓋シ事務所又ハ事務室ハ特定人カ其ノ擔當セル公若ハ私ノ事務ヲ處理スル爲ニ設置セラレ其ノ目的ニ於テ當時出入スル場所ニシテ社會通念上各人ノ居宅ニ準スルヲ相當ト爲スヘキモノナレハナリ (昭和三(九)第一一三〇號、三、一〇、二二、大刑五) (第一七二號、四一四頁)

三九 不特定多數者ト戸別訪問(同上)

衆議院議員選舉法第九十八條ニ所謂戸別訪問ニハ不特定多數者訪問ハ其ノ條件ニアラス (昭和三(九)第一七五一號、三、一一、二二、大刑一) (第一八五號、七七頁)

四〇 推薦狀ノ撒布ト個々ノ面接(同上)

衆議院議員選舉法第九十八條第二項ニ所謂個々ノ面接ニ付テハ必スシモ或者ノ爲ニ投票ヲ得タキ旨ノ明示默示ノ意思ヲ選舉人ニ疏通スルコトヲ必要トスヘキ理由ナシ、故ニ村會議員選舉ニ付工場ヨリ歸途ニ在リシ多數職工ニ對シ各別ニ自己ノ考案ニ出テタル候補者ノ推薦狀ヲ手交シタル場合ニ於テハ其ノ交付ハ即チ默示的ニ被選舉人ニ對シ投票ヲ得タキ意思ヲ通シタルモノナリト解スルニ妨ケナキモノトス (昭和四(九)第一六一號、五、二、七、大刑一) (第二二〇號、五三頁)

四一 戸別訪問及個々ノ面接ノ累行ト罪數(同上)

衆議院議員選舉法第九十八條ノ規定ニ依レハ其ノ戸別訪問ノ行爲ト個々面接ノ行爲トハ本來同一法條ニ屬スル同一性質ノ犯罪タルノミナラス何レモ選舉ノ自由公平ナル單一ノ公共的利益ヲ以テ其ノ法益トナシ選舉ニ關スル選舉人等ノ個別的利益ヲ法益トナスモノニアラサルカ故ニ同一意思發動ノ下ニ右兩行爲ヲ反覆累行シタル場合ニ於テハ之ヲ包括的ニ觀察シテ單純一罪ナリト認ムルヲ妥當トス (昭和五(九)第一〇九一號、五、九、九、大刑四) (第二四九號、六一一頁)

四二 選舉法第九十九條第二項ニ所謂關係地區内ノ意義(第九十九條參照)

衆議院議員選舉法第九十九條第二項ニ所謂其ノ關係區域内ニ於ケル選舉運動トハ選舉運動ノ行ハルル地域ヲ限定スルノ意ニ非スシテ其ノ選舉運動ノ效果カ當該區域内ニ其ノ發生ヲ見ルヘキ總テノ選舉運動ヲ汎稱スルモノト解スヘキモノトス蓋シ同條項ニハ關係區域内ニ於ケルトアリテ關係區域内ニ於テト規定シアラサルノミナラス其ノ區域内ニ於テ爲ス選舉運動ト雖尙ホ其ノ

運動ニシテ當該關係區域内ノ當選ヲ得若ハ得シメ又ハ得セシメサル爲選舉ニ影響ヲ及ホス一切ノ運動行爲ハ當該區域内ニ於テ爲ス選舉運動ト選舉ノ公正ヲ害スル虞アル點ニ於テ逕庭ナケレハナリ (昭和五(九)第一五九二號、五、一〇、二七、大刑二) (第二四八號、五九二頁)

四三 單ナル妨害ト選舉法第一〇〇條(第百條參照)

衆議院議員選舉法第百條ハ選舉運動ノ爲頒布シ又ハ揭示スル文書圖畫ニ關スル規定ニシテ選舉運動トハ一定ノ議員選舉ニ付一定ノ議員候補者ヲ當選セシムヘク投票ヲ得若ハ得シムルニ付直接又ハ間接ニ必要且有利ナル諸般ノ行爲ヲ爲スコトヲ汎稱スルモ單ニ議員候補者ノ當選ヲ得シメサル目的ノミヲ以テ選舉ニ關シ不正ノ方法ニ依リ選舉ノ自由ヲ妨害スルカ如キ行爲ハ之ヲ以テ選舉運動ナリト稱スルヲ得ス (昭和五(九)第一一八四號、五、九、二二、大刑四) (第二四九號、六一〇頁)

四四 概括的費用ノ支出ト選舉事務長ノ承諾書(第百一條參照)

選舉事務員カ單純ナル勞務ヲ供スルニ過キサレ場合ニハ選舉事務長ノ文書ニ依ル承諾ヲ要セサルヤ論ナシト雖苟モ選舉運動ノ費用ノ支出ニシテ選舉事務員ノ支出ト認メ得ヘキ限ハ選舉事務員カ選舉事務長ヨリ概括的ニ選舉運動ニ關スル費途ヲ定メ其ノ費用ヲ支拂フ爲ニ豫メ交付ヲ受ケタル金圓ノ支出タルト選舉事務員カ選舉運動費ノ立替支拂ヲ爲ストヲ問ハス等シク選舉事務長ノ文書ニ依ル承諾ヲ要スルモノトス (昭和二(九)第一八六四號、三、三、六、大刑一) (第一五〇號、七〇頁)

四五 選舉費用請求ノ相手方(同上)

衆議院議員選舉法第一百一條第一項ニ立候補準備ノ爲ニ要スル費用ヲ除クノ外選舉運動ノ費用ハ選舉事務長ニ非サレハ之ヲ支出スルコトヲ得スト規定シアルハ主トシテ選舉運動ノ費用支出ノ方法ヲ統一シ選舉事務長ヲシテ其ノ支出ヲ節制セシメ以テ法定ノ金額ニ超過セサラシメントコトヲ目的トシタルモノナリト雖其ノ規定ノ趣旨ニ由リテ之ヲ觀レハ又選舉運動費用ノ負擔者ヲ定メタルモノト解スルニ難カラス何トナレハ選舉運動ノ費用ハ選舉事務長ニ非サレハ之ヲ支出スルコトヲ得サルヲ以テ選舉運動ニ付必要ナル取引ハ選舉事務長又ハ其ノ委任ヲ受ケタル代理人ニ於テ之ヲ爲スカ又ハ議員候補者選舉委員若ハ選舉事務員等ニ於テ選舉事務長ノ承諾ヲ得テ之ヲ爲スコトヲ要スルモノト謂ハサルヘカラス故ニ取引ノ相手方ハ議員候補者ヨリモ寧選舉事務長ニ著眼シ之ヲ信賴シテ取引ヲ爲スヘク相手方カ取引ニ因リ物品ヲ供給スヘキトキハ議員候補者ノ私宅ニ於テセスシテ選舉事務長ノ統轄スル選舉事務所ニ之ヲ納入スルヲ通常ト爲スヘク從テ其ノ取引ニ基ク金錢支拂ハ選舉事務長ニ於テ之ヲ爲ササルヲ得サレハナリ、而シテ選舉事務長カ取引ノ相手方ニ對スル責任者ナル以上ハ議員候補者ノ委任ニ因リテ其ノ取引ヲ爲シタルト否トニヨリテ其ノ責任ニ軒輕スル所アルヘカラス故ニ取引ノ相手方ハ議員候補者ニ對シ取引ヨリ生スル債務ノ履行ヲ請求スヘキモノニ非スシテ選舉事務長ニ對シ其ノ履行ヲ請求スヘキモノトス(昭和五(オ)第四一九號、五、一一、二〇、大民一)〔第二四九號、六〇三頁〕

四六 所謂選舉運動ノ費用ノ意義ト選舉法第一百一條(同上)

衆議院選舉法第五條第六條ニ所謂選舉運動ノ費用トハ同法カ設ケタル運動方法ノ制限内ニ

於ケル適法ノ選舉運動ニ付當然要スルトコロノ費用ヲ指稱スト解スルヲ妥當トス、而シテ同法第一百一條ノ選舉運動ノ費用モ亦之ト異ナルヘキ理由アルコトナシ故ニ法定ノ運動者ニアラスシテ他人ニ投票賣收費及運動ノ報酬金ヲ供與シタル場合ハ右金員ハ適法ナル運動費用ト爲スヘキニ非サレハ之ヲ以テ同法第一百一條カ禁止スル選舉運動ノ費用ノ支出ナリト謂フヘカラス(昭和五(レ)第一四九四號、五、一一、二八、大刑四)〔第二四七號、五七二頁〕

四七 買收費ト選舉運動費ノ加算(第三條參照)

衆議院議員選舉法第三條第四條ノ趣旨ハ假令買收費ノ如キモノモ苟モ選舉ノ爲支出シタルモノナル以上之ヲ選舉運動ノ費用ト看做スヘキコト當然ナリ(昭和三(フ)第一三號、四、一二、二三、大民一)〔第二一〇號、四八五頁〕

四八 衆選法第一一條ニ所謂詐欺ノ範圍(第一百十一條參照)

衆議院議員選舉法第一百十一條ニ所謂詐欺ノ方法トハ積極的ノ策略ヲ弄スル場合即チ詐術ヲ用ユル場合ヲ包含スヘキハ勿論ナリト雖或ハ選舉資格ニ付キ當該吏員ノ取調ヲ受クルニ當リ口頭ヲ以テ虚偽ノ申告ヲ爲スカ如キ特別ナル詐術ヲ用キサル場合ニ於テモ苟モ自己ノ申告ニ因リテ選舉人名簿ニ登錄セラレルコトノ認識アリテ虚偽ノ申告ヲ爲シタル以上ハ等シク詐欺ノ方法ヲ行ヒタルモノニ該當スルモノト云ハサルヘカラス(昭和三(レ)第八六八號、三、七、四、大刑三)〔第一六六號、三一四頁〕

四九 所謂選舉運動者ト届出サル選舉運動者(第一百十二條參照)

衆議院議員選舉法第十二條第一號ニ所謂選舉運動者トハ必スシモ其ノ届出アリタルモノニ限
ラス其ノ届出ナキモ事實ニ於テ選舉運動ニ從事スルモノハ等シク之ヲ含ムモノト解スルヲ相當
トス (昭和二(九)第一七六號、三、二、一七、大刑一) [第一五〇號、七〇頁]

五〇 直接地方的利害關係利用ノ意義 (同上)

府縣會議員候補者カ當選ヲ得ル目的ヲ以テ選舉人ニ對シ主義政見ヲ發表シ又ハ抱負ヲ披瀝スル
場合ニ於テ其ノ事項カ之ヲ客觀的ニ觀察シ主トシテ國家又ハ府縣一般ノ政策ニ關スルモノナル
トキハ縱令延テ市町村等地方的利害ニ影響ヲ及ホスコトアリトスルモ選舉法違反ヲ以テ論スヘ
キモノニ非ス之ニ反シ若シ其ノ事項カ特ニ市町村等直接地方的利害ニ關スルモノナルトキハ縱
令延テ國家又ハ府縣全般ノ利害ニ多少ノ影響ヲ及ホスコトアリトスルモ府縣制第四十條ニ依リ
準用セラルル衆議院議員選舉法第十二條第二號ニ所謂特殊ノ直接利害關係ヲ利用シテ選舉人
ヲ誘導シタルモノニ該當スルモノト謂ハサルヘカラス

府縣制第四十條ニ依リ準用セラルル衆議院議員選舉法第十二條第二號ニハ當選ヲ得若クハ得
シメ (中略) 其ノ他特殊ノ直接利害關係ヲ利用シテ誘導ヲ爲シタルトキトアリテ該法條ノ違反
罪タルニハ一定ノ特殊ノ直接利害關係ヲ利用シテ誘導ヲ爲スコトヲ要スト雖モ其ノ利用スル利
害關係ハ其ノ内容カ具體的ニ實現スルト否トヲ問ハス又其ノ内容ヲ實現スルニ付議員候補者自
ラ其ノ權能ヲ有スルト否トヲ論セス苟モ選舉人ヲシテ事實上特殊ノ直接利害ヲ感セシムヘキ事
情存在シ其ノ事情ハ克ク選舉人ノ意思ヲ動カスノ力アリト認メラルル以上之ヲ以テ足レリト爲
ササルヘカラス

凡ソ一市町村ニ敷設スル上水道又ハ下水道ノ如キ之ヲ利用シテ直接其ノ便益ニ浴スル者ハ特ニ
其ノ市町村ニ於ケル住民ニ限定セラレ國家又ハ府縣全般ノ利害ニ影響ヲ及ホスヘキ者ニ非サレ
ハ一定ノ市町村ニ上水道及下水道ヲ敷設スル事業ノ如キハ其ノ利害ノ關係タルヤ主トシテ地方
的利害ニ限局セラレ其ノ市町村ニ於ケル住民ニ對シ特殊ノ直接ノ利害ヲ及ホスヘキモノナルヲ
以テ府縣制第四十條ニ依リ準用セラルル衆議院議員選舉法第十二條第二號ニ所謂特殊ノ直接
利害關係ニ該當スルモノト論定スルヲ相當トス (昭和三(九)第二六四號、三、四、一〇、大刑四) [第
一五二號、一〇〇頁]

五一 特殊且直接利害關係ノ範圍 (同上)

或町ノ改修國道ト同町トヲ連絡スル道路カ縣費開設ニ係リ又同町々立學校ノ縣移管ノ實現カ同
町ト特殊且直接ノ利害關係ヲ有スルコト明ナル場合ニ縣會議員ノ選舉ニ際シ其ノ議員候補者ト
ナリタル者カ當選ノ上ハ右連絡道路ノ縣費開設並學校移管ノ實現ニ盡力スル旨演說シ投票ヲ勸
誘スルカ如キハ同町ニ特殊且直接ナル利害關係ヲ利用シテ同町ノ選舉人ヲ誘導シタルモノニ外
ナラサルヲ以テ該行爲ハ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第十二條第二號ニ該當スルモノト
ス (昭和三(九)第四六號、三、五、四、大刑一) [第一六一號、二三四頁]

五二 選舉期日告示前ノ誘導ト衆選法第一一二條第二項 (同上)

衆議院議員選舉法第十二條第二號ノ犯罪ハ將來行ハルヘキ選舉ニ付當選ヲ得又ハ得シメサル
ノ目的ヲ以テ同號所定ノ行爲ヲ爲スニ因リテ成立シ而シテ選舉期日ノ公布又ハ告示ノ如キハ犯

罪構成要件ヲラサルハ勿論其ノ處罰條件ニモ非サルヲ以テ苟モ右所定ノ行爲アルニ於テハ該罪ハ直ニ成立シ其ノ行爲カ選舉期日ノ公布又ハ告示前ニ行ハレタルト否トヲ問フコトナシ (昭和三年(九)第五七六號、三、五、二二、大刑一) (第一六一號、二三四頁)

五三 市制第四十條ト衆選法ノ罰則(同上)

刑事訴訟法第四百三十四條第二項ニ基キ原判決ニ於ケル法令ノ適用ノ當否ニ付按スルニ市制(明治四十四年法律第五十八號)第四十條ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル勅令ニ依リ設置スル議會ノ議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉ニ關スル罰則ヲ準用スト規定シ其ノ罰則ニ付テハ法規ノ名稱若クハ法條ヲ擧ケテ之ヲ特定セサルノミナラス同規定ハ衆議院議員選舉法中議員選舉ニ關スル罰則カ市制施行後ニ於テ數次改正セラレタルニ拘ラス大正十年法律第五十八號ヲ以テセル市制中改正ニ於テモ同十五年法律第七十四號ヲ以テセル同改正ニ於テモ變改セラレタルコトナキ事實ニ徴スルトキハ市制第四十條ニ於ケル右規定ハ同條所定ノ議員選舉ニ付キ現在及將來ヲ問ハス其ノ選舉時ニ施行セラルル衆議院議員選舉ニ關スル罰則ヲ準用セントスルノ律意ナリト解セサルヘカラス從テ市會議員選舉ニ關スル罰則ハ市制第四十條ノ廢止セラレサル限り衆議院議員選舉ニ關スル罰則ト終始シ其ノ後者ノ改正ハ同時ニ前者ノ改正タルヘキ關係ニアルヲ以テ市會議員ノ選舉罰則違反事件ヲ審判スルニ當リ其ノ經過ニ於テ犯罪時ト判決時トニ依リ適用スヘキ罰則ヲ異ニスルコトアルトキハ刑法第六條ニ從ヒ處斷スヘキヤ當然ナリ (昭和三年(九)第五八四號、三、五、二九、大刑四) (第一六一號、二三三頁)

五四 新聞紙法違反事件ト衆議院議員選舉罰則(同上)

新聞紙法違反ノ行爲ニ付テハ發行人編輯人若ハ印刷人ヲ處罰スヘキモノナルコト新聞紙法ノ明定スル所ナリト雖衆議院議員選舉ニ際シ偶々新聞紙ノ記事ヲ利用シテ爲シタル選舉運動カ衆議院議員選舉罰則ニ觸ルル場合ニ在テハ專ラ其ノ實質ニ顧ミ衆議院議員選舉法所定ノ罰條ヲ以テ臨ムヘク新聞紙ノ發行人編輯人若ハ印刷人ニ於テ當然其ノ責ニ任スヘキモノニ非ス (昭和三年(九)第九八四號、三、七、一〇、大刑四) (第一六五號、二九八頁)

五五 公職ニ就クヘキ資格不明ノ場合ト職務供與罪ノ成否(同上)

水害豫防組合ハ水利組合法ニヨリ成立セル法人ニシテ組員ヲ以テ組織セラルル以上其ノ組合ノ殘務整理委員ハ同組員ノ選任スルモノナルコト之ヲ推知スルニ難カラス然レハ被告人カ豫テ判示水利豫防組合殘務整理委員タランコトヲ希望シ居ル某ノ爲ニ盡力シ其ノ當選ヲ實現セシムルカ如キハ被告人ト該組合トノ關係及委員選舉ニ關スル被告人ノ資格如何ニ拘ラス必スシモ不可能事ニ屬セス其ノ盡力ハ報償的價值ヲ有スルコト勿論ナルヲ以テ被告人ノ行爲ハ衆議院議員候補者ニ當選ヲ得シムルノ目的ヲ以テ選舉有權者ニ對シ職務供與ノ約束ヲ爲シタルモノト云フヘシ (昭和三年(九)第八七九號、三、七、一〇、大刑四) (第一七三號、四三〇頁)

五六 實害ナキ選舉運動員以外ノ投票勸誘(同上)

衆議院議員選舉法カ議員候補者選舉事務長選舉委員又ハ選舉事務員ニ非サル者ニ對シ選舉運動ヲ爲スコトヲ禁シ之ヲ犯ス者ヲ處罰セル所以ノモノハ一ニ選舉ノ自由公正ヲ保護セントスルニ在リ而シテ投票ヲ依頼シ又ハ勸誘スルカ如キ選舉運動ニ在リテハ苟モ投票ノ依頼又ハ勸誘ノ意

思テ以テ一定ノ行爲ニ出ツルトキハ其ノ行爲ノミヲ以テ直ニ犯罪成立シ敢テ之ニ因リテ選舉ノ自由公正ニ對スル實害ノ發生シタルコトヲ要セサルハ勿論之カ具體的危險ノ發生ヲモ必要トセサルナリ故ニ或人カ候補者ニ投票センコトヲ依頼シタル有權者ニ於テ業已ニ候補ニ投票センコトヲ決意シ居タリシトスルモ犯罪ノ成否ニ何等ノ影響ナキモノト謂ハサルヘカラス (昭和三年(れ)第一〇〇一號、三、七、一三、大刑一) (第一七六號、四八八頁)

五七 戶別訪問ノ一例 (同上)

衆議院議員選舉法ニ所謂戶別訪問タルニハ必シモ被訪問者何某ノ居室ニ就キ之ヲ訪フ場合ニ限ラサルヲ以テ苟モ社會通念上其ノ往訪シタル場合ニシテ被訪問者ノ何某ナリト解セラルルニ於テハ其ノ居室ナルト否トヲ問ハス之ヲ訪問ト解シテ何等妨ナキモノト謂フヘシ (同上)

五八 運動員以外ノ者ノ買收行爲ト擬律 (同上)

議員候補者ヲ當選セシムル目的ヲ以テ選舉有權者ニ對シ投票ヲ求メントスル行爲ハ其ノ行爲ノ適法ナルト違法ナルトニ論ナク總テ之ヲ選舉運動ト謂フヘク從テ法定ノ選舉運動員ニ非スシテ選舉有權者ニ對スル投票ノ買收及投票ノ勸誘ヲ爲スカキハ固リ選舉運動ニ外ナラサレハ右事實ニ對シ衆議院議員選舉法第百十二條第一號第三號ノ外同法第百二十九條第九十六條刑法第五十四條第一項前段ヲ適用處斷スルハ正當ナリ (昭和三年(れ)第一五七一號、三、一〇、三〇、大刑一) (第一七九號、五四四頁)

五九 利害關係誘導罪ノ成立要件 (同上)

衆議院議員選舉法第百十二條第二號所定ノ利害關係ノ誘導罪ハ利害關係ヲ利用シテ誘導ノ申込ヲ爲シタルトキハ相手方ニ於テ之ニ應シタルト否トヲ問ハス其ノ申込ト同時ニ成立シ偶相手方ニ於テ之ニ應シタルトキハ其相手方ニ付キ誘導ニ應シタルノ罪ハ成立スルニ過キスシテ其之ニ應セサルトキモ誘導罪ノ成立ニ影響ナク從テ亦相手方ニ於テ豫メ其ノ誘導ニ應スルノ決意アリタルモノト否トヲ問フヲ要セサルモノトス (昭和四年(れ)第一〇四七號、四、一〇、三一、大刑二) (第一二二號、六一二頁)

六〇 金錢物品其他ノ利益ヲ受ケタル者カ選舉權ヲ行使セサル場合ト罰則 (同上)

町村制第三十七條ノ規定ニ依リ町村會議員選舉ニ準用セラルル衆議院議員選舉法第百十二條第一號ノ罰則ハ當選ヲ得ル目的ヲ以テ選舉人ニ對シ金錢物品其他ノ財産上ノ利益ヲ供與シタル場合ニ適用セラレ其ノ供與ヲ受ケタル選舉人カ其ノ有スル選舉權ヲ現實ニ行使シ得ルヤ否ヤハ敢テ問ハサルモノナリト解スヘキモノトス (昭和四年(れ)第一五三一號、五、一、二四、大刑一) (第一二八號、一九頁)

六一 選舉運動ノ請託者ト運動員ニ對スル罰則 (同上)

選舉運動ニ從事センコトノ請託アリタル以上其ノ請託ヲ受クル者ハ之ヲ請託者ノ方面ヨリ觀察スレハ選舉運動者ニ外ナラサルカ故ニ或被告人等ノ饗應行爲ヲ市制第四十條衆議院議員選舉法第百十二條第一號ニ問擬スルハ正當ナリト云フヘク又受託者ノ方面ヨリ觀察スルモ叙上請託ヲ受ケタル者カ請託ニ因ル饗應ナルコトノ情ヲ知りテ之ヲ受クルカ如キハ即其ノ請託ニ對シ承諾

ヲ爲シタルモノト解スヘキカ故ニ之ヲ選舉運動者ト云フヲ妨ケス (昭和四(九)第一五六九號、五、二、二五、大刑四) (第二二二號、七五頁)

六二 立候補未確定ト選舉運動 (同上)

將來議員選舉アルヘキコトヲ豫期シ特定人ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ演說又ハ推薦狀ニ依ルコトナク選舉運動ヲ爲ス行爲ハ其ノ特定人ノ立候補確定前ト雖亦タ選舉ノ公正ヲ害スルモノニシテ法ニ觸ルルコト勿論ナリ (同上)

六三 投票函閉鎖後ト選舉法條一一二條第三號ノ適用範圍 (同上)

衆議院議員選舉法第十二條第三號ハ選舉投票函閉鎖ニ至ルマテノ投票又ハ選舉運動ヲ爲シタル選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ報酬ヲ與フル行爲ヲ處罰スル規定ナルコト文理上極メテ明白ナリ而シテ投票函閉鎖間際ニ至ルマテノ投票又ハ選舉運動ヲ爲シタル者ニ對スル報酬供與ノ行爲ハ場合ニヨリ投票函閉鎖後ニモ行ハルルコトアリ得ヘキカ故ニ該規定ハ所謂選舉終了後ナルト否トヲ問ハス選舉人タリシ者又ハ選舉運動者タリシ者ニ對シ報酬ヲ供與スル行爲ヲモ處罰スル法意ヲ有スルモノト解スヘク從テ同法第十三條第二號ノ如キ過去ノ行爲ノミニ對スル報酬ヲ供與スル行爲ヲ處罰スル目的ヲ以テ議員候補者タリシ者議員候補者タラントシタル者又ハ當選人タリシ者ト規定シタルモノト對照シ前掲第十二條第三號規定ノ選舉人又ハ選舉運動中ニハ選舉人タリシ者又ハ選舉運動者タリシ者ヲ包含セスト解スルコトヲ得サルモノトス若シ又右第一百十二條第三號ノ規定ハ選舉ニ際シ投票ヲ爲シ又ハ選舉運動ヲ爲シタル者ニ對シ選舉終了後ニ

報酬ヲ供與スル行爲ニ對シ適用ナキモノト解センカ報酬ノ豫約ハナキモ選舉終了後ニ於ケル報酬ヲ豫期シテ投票又ハ選舉運動ヲ爲ス者ヲ生シ之亦選舉ノ公正ヲ害スルニ至ル虞アルヲ免レサルヲ以テ右第一百十二條第三號ニ規定スル選舉人又ハ選舉運動者中ニハ投票ヲ爲シタル者又ハ選舉運動ヲ爲シタル者ヲモ包含スヘク從テ同號ニハ此等ノ者ニ對スル報酬ノ供與カ選舉終了後ナルト否トヲ問ハス之ヲ處罰スルモノト解釋スルヲ相當トス (昭和五(九)第五五〇號、大刑五) (第二三二號、二八九頁)

六四 議會解散前ノ運動ト選舉法第一一二條 (同上)

苟モ將來行ハルヘキ選舉ニ付當選ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサル目的ヲ以テ衆議院議員選舉法第一百十二條所定ノ行爲ヲ爲シタルトキハ直ニ犯罪成立スヘク從テ議會開會中ナリトスルモ諸般ノ事情ニ照シ解散ヲ免レサル形勢アルニ當リ解散ヲ豫想シ次テ行ハルヘキ總選舉ニ際シ立候補スヘキコト明カナル場合ニハ解散前ト雖豫メ叙上ノ行爲アリタルトキハ犯罪ノ成立スヘキコト疑テ容レス (昭和五(九)第九二四號、五、七、一、大刑一) (第二三七號、三八六頁)

六五 國家ノ政策ト地方的利害ノ觀點 (同上)

衆議院議員候補者ニ投票ヲ得シムル目的ヲ以テ推薦演說ヲ爲シ其ノ演說中ニ於テ候補者ノ主義政見ヲ發表スル場合ニ其ノ事項カ之ヲ客觀的ニ觀察シテ直接國家ノ政策ニ關スルモノナルトキハ假令間接ニ地方ノ特殊利害ニ影響ヲ及ホスコトアリトスルモ衆議院議員選舉法違反ヲ以テ問擬スヘキニ非ス、之ニ反シテ其ノ事項カ直接ニ地方的利害ニ關スルモノナルトキハ假令國家全

般ノ利害ニ影響スルモノナリトスルモ同法第十二條第二號ニ所謂特殊ノ直接利害關係ヲ利用シテ選舉人又ハ選舉運動者ヲ誘導シタルモノニ該當ス (昭和五(九)第一一八三號、五、一〇、四、大刑三) (第二四二號、四七三頁)

六六 公示前ノ運動ト運動資格 (同上)

衆議院選舉法ハ議員候補者、選舉事務長、選舉委員、選舉事務員ノ資格ヲ定メ演說又ハ推薦狀ニ依ル以外ノ一切ノ選舉運動ハ此ノ資格アル者ニシテ始メテ之ヲ爲シ得ヘキモノト限定シ從テ斯ル選舉運動ハ右資格ナキモノニシテ絶對ニ之ヲ爲サシメサルノ趣旨ヲ定メタルモノト解スヘキカ故ニ假令選舉期日ノ公布又ハ告示前ニ於テ未タ議員候補者ノ届出ヲ爲スニ由ナク從テ右資格者ノ存在シ得サル時期ト雖右ノ如キ選舉運動ハ之ヲ何人ニモ許スヘキニアラス (昭和五(九)第一四三五號、五、一〇、六、大刑五) (第二四七號、五七三頁)

六七 公示前ノ違反行爲ト選舉法第一一二條 (同上)

衆議院議員選舉法第十二條ノ犯罪ハ特定ノ選舉ニ付爲サルコトヲ要スト雖苟モ特定ノ選舉ニ付爲サル以上其ノ犯罪ノ時力選舉期日ノ公示又ハ告示ノ前タルト後タルトハ毫モ之ヲ問フコトナキモノトス (昭和五(九)第一四三五號、五、一〇、六、大刑五) (第二四七號、五七三頁)

六八 買收請負ノ對價要求ト選舉法第一一二條第四號 (同上)

選舉人又ハ選舉運動者カ特定ノ候補者ノ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ定數ノ投票ノ買收ヲ請負フニ付其ノ對價トシテ金錢ノ供與ヲ要求シタルトキハ衆議院議員選舉法第十二條第四號ニ該當

スル犯罪ヲ構成スルモノトス (昭和五(九)第一三四五號、五、一〇、一三、大刑五) (第二四六號、五五二頁)

六九 非選舉運動員ト報酬供與罪 (同上)

法定ノ選舉運動員ニ非シテ一定ノ候補者ノ爲各派候補者ノ運動員ノ動靜ノ見張方ヲ他人ニ依頼シ其ノ報酬トシテ金五圓ヲ供與シタル行爲ハ自己ノ推薦スル候補者ノ選舉運動ヲ有利ニ展開セシメ得ヘキコト勿論ニシテ是亦選舉運動ニ外ナラサルヲ以テ右行爲ニ選舉運動ニ對スル報酬供與罪成立スルモノトス (昭和五(九)第一七五三號、五、一二、二〇、大刑三) (第二五〇號、六三〇頁)

七〇 買收ニ因ル沒收ト刑法第一九條 (第一百十四條參照)

衆議院議員選舉法第十二條及同法第十三條ノ犯罪ニ關シ沒收ノ言渡ヲ爲スニハ同法第十四條ノ規定ニ依ルヘキモノニシテ刑法第十九條ヲ適用スヘキモノニ非ス何トナレハ右第十四條ハ沒收ニ關スル特別規定ニシテ沒收ノ一般規定ヲ除外シタルモノト解スルヲ至當トスヘケレハナリ (昭和五(九)第一一三八號、五、一〇、一、大刑三) (第二四九號、六一〇頁)

七一 選舉法第一一四條ト供與物返還ノ場合ノ沒收若ハ追徴 (同上)

衆議院議員選舉法第十四條ハ同法第十二條ニ規定シタル選舉運動又ハ投票ニ對スル報酬トシテ或ル利益ノ授受アリタル場合ニ於テ其利益カ被供與者ノ手裡ニ存スルトキハ其ノ者ヨリ之ヲ沒收シ若シ沒收ヲ爲ス能ハサル場合ニ於テハ同人ヨリ其ノ價額ノ追徴ヲ爲スヘキハ勿論該利

益カ被供與者ヨリ供與者ニ返還セラレタル場合ニ於テハ其ノ供與者ヨリ右ト同様沒收又ハ價格ノ追徴ヲ爲スヘキ趣旨ノ規定ナリト解スヘキモノトス (昭和五(九)第一五四六號・五、一〇、三一、大刑一) (第二四八號、五九三頁)

七二 衆議院議員選舉法第一一五條ニ所謂選舉ニ關シテノ意義 (第百十五條參照)

衆議院議員選舉法第百十五條ノ所謂「選舉ニ關シ」トハ之ヲ狹ク選舉期日ニ於ケル投票終了前ニノミ限ルヘキモノト解スヘキモノニ非シテ投票終了後ト雖尠クトモ其ノ開票終了ニ至ルマテハ同法條ノ所謂選舉ニ關スルモノト解スヘク從テ選舉人ノ意義モ亦投票ヲ爲サントスル人ノミナラス既ニ投票ヲ爲シタル人即チ選舉ヲ爲シタル人ヲモ包含スト解スヘキモノトス (昭和三(九)第三七〇號、三、四、一二、大刑五) (第一五三號、一一五頁)

七三 型紙使用ノ投票ト衆選法第一二七條第二項 (第百二十七條參照)

衆議院議員選舉法第三十條第二項ニ依レハ自ラ議員候補者ノ氏名ヲ書スルコト能ハサル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得サルモノナルカ故ニ自書スルコト能ハサル者カ型紙ヲ使用シ墨汁ヲ塗リテ候補者ノ氏名ヲ投票用紙ニ顯出セシメ恰モ自書シタルカ如ク裝ヒテ投票ヲ爲シタルトキハ其ノ所爲ハ同法第百二十七條第二項ニ所謂詐欺ノ方法ヲ以テ投票ヲ爲シタルモノニ該當スルモノトス (昭和三(九)第五一一號、三、五、八、大刑一) (第一六一號、二三六頁)

七四 無効投票ト投票偽造罪 (同上)

凡ソ衆議院議員選舉法第百二十七條第三項及第四項ノ罪ハ選舉人ノ投票ノ適正ヲ保護スルト共

ニ其ノ投票ノ結果ノ真正ヲ確保スルヲ目的トシ現實行ハレタル投票ニ符合セサル事態ノ發生ヲ防止セントスルニ在ルカ故ニ此ノ種ノ罪ハ上記ノ事態ヲ發生セシメ得ル間ハ之ヲ行フコトヲ得ルモノニシテ投票偽造罪ニ付テハ投票終了前ニ之ヲ偽造シタ投票函ニ之ヲ投入シタル場合ナルト投票函閉鎖後ニ於テ之ヲ偽造シタル場合ナルトヲ區別セス其ノ罪ノ成立ヲ見ルモノトス、而シテ苟モ投票ヲ偽造シタル以上ハ無効ノ投票ナルトキト雖投票偽造罪ヲ構成スルコト疑ヲ容レズ何トナレハ投票ノ真正及不正ト投票ノ有效及無効トハ全然別個ノ觀念ニシテ相容レサルモノニ非サレカ故ニ無効且偽造ノ投票存シ得ヘク是レ選舉人ノ意思ヲ現實ニ表現セシメサルトキハ偽造タルコトヲ免レサルヲ以テナリ故ニ有效投票ヲ増加シ又ハ減少スルノミヲ以テ偽造ナリト爲スコトヲ得ス (昭和四(九)第六二五號、四、一二、九、大刑二) (第三五號、六二二頁)

七五 選舉運動費用ノ概算前渡ノ未拂ト第一三四條ノ犯罪 (第百三十四條參照)

衆議院議員選舉法第百一條ニ依レハ立候補準備ノ爲ニ要スル費用ヲ除クノ外選舉運動ノ費用ハ選舉事務長ニ非サレハ之ヲ支出スルコトヲ得サルヲ原則トシ選舉委員及選舉事務員ハ勿論議員候補者ト雖選舉事務長ノ書面ニ依ル承諾ヲ得ルニ非サレハ選舉運動ノ費用ヲ支出スルコトヲ得サル旨規定シタル立法ノ精神ヨリ考察スレハ選舉委員カ選舉運動ノ費用トシテ一定ノ金員ヲ支出スルニ當リテハ(一)、現實ニ要シタル費用ノ支拂ヲ爲ス場合ナルト(二)、將來要スヘキ選舉運動費用ニ充ツル爲概算額ヲ選舉運動員ニ交付スル場合ナルトヲ問ハス何レモ選舉事務長ノ文書ニ依ル承諾ヲ得ルコトヲ要スル趣旨ナリト解セサルヘカラス從テ(一)、ノ場合ト雖選舉委員カ選舉事務長ノ書面ニ依ル承諾ナクシテ金員ヲ選舉運動員ニ交付シタルトキハ其ノ運動員カ未

タ之ヲ以テ現實ニ要シタル費用ノ支辨ヲ爲ササルモ同條第一項ニ違反シ同法第三百三十四條ノ犯罪ヲ構成スルモノト謂ハサルヘカラス、蓋シ(一)ノ場合ニ於テ概算渡ノ當時ニ選舉事務長ノ承諾ヲ得ルコトヲ要セス現實ノ支拂ニ際シ承諾ヲ得レハ足ルトセンカ取締頗ル困難ニシテ費用濫出ノ虞アリ法カ選舉運動ノ費用ヲ制限シ資力ニ依ル選舉競争ヲ避ケ以テ選舉ノ公正ヲ期スルト同時ニ投票買収其ノ他財産ニ關スル選舉犯罪ヲ未然ニ防止セントスル趣旨ヲ察ルモノト謂フヘク前記法條ハ斯ル弊害ヲ除去スル爲設ケラレタルモノト解セサルヲ得サレハナリ (昭和五(九)第六〇六號、五、六、三、大刑一) (第二二七號、一九四頁)

七六 恩赦ニ因ル刑ノ言渡ノ效力消滅ト衆選法第一三六條(第三百三十六條參照)

衆議院議員選舉法第三百三十六條ニ於テ議員候補者自ラ其ノ選舉ニ關シ同法所掲ノ罪ヲ犯シ若クハ選舉事務長カ所謂投票買収ヲ犯シ刑ニ處セラレタルトキハ當選スルトモ其ノ當選ヲ無効トナス所以ハ選舉ニ關シ斯ル罪ノ犯サレタル以上其ノ選舉カ公正ニ行ハレタルモノト認ムヘカラサルカ故ニシテ該條ニ所謂罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタルトキハ畢竟有罪判決ノ確定セルトキト云フ義ニ外ナラス、然ルニ有罪判決確定以後特赦ノ恩典ニ浴シ刑ノ言渡ノ效力消滅セル者ハ主刑附加刑ヲ科セラルルコトナク又公權ヲ剝奪セララルル等ノコトナキモ元來刑事裁判ハ犯罪行為ノ認定ト之ニ基ク刑ノ言渡トノ二者ヨリ成立スルモノナレハ一旦刑事裁判カ爲サレ犯罪行為ヲ認定ト同時ニ刑ノ言渡アル以上假令特赦ノ結果刑ノ言渡カ效力ヲ失フトモ刑事裁判所ニヨリ犯罪行為ノ認定ヲ受ケタル事實ハ決シテ消滅スヘキニ非サルカ故ニ斯ノ如ク犯罪行為ノ認定存スル以上候補者ノ選舉事務長カ投票買収ノ罪ヲ行ヒ偶刑ノ言渡ノ效力消滅セリトテ之ヲ以テ直ニ衆議

院議員選舉法第三百三十六條ニ所謂罪ヲ犯シ刑ニ處セラレルトキトアルニ該當セサルモノト解シ有罪判決ノ確定セルニ拘ラス當選ニ影響スル所ナシトナスカ如キハ立法ノ精神ヲ沒却スルモノト謂ハサルヘカラス (昭和三(七)第五一號、五、一、一一、大刑三) (第二一五號、六一七頁)

七七 選舉權及被選舉權ノ停止ト裁判所ノ裁量(第三百三十七條參照)

衆議院議員選舉法第三十七條第一項ハ同法第十二章ニ掲クル罪ヲ犯シタル者ニ對シテハ一定ノ期間選舉ニ付衆議院議員及同章罰則ヲ準用スル議會ノ議員ノ選舉權及被選舉權ヲ有セシメサルコト第二項ハ叙上ノ罪ヲ犯シタル者ト雖情狀ニ因リ裁判所ニ於テ刑ノ言渡ト同時ニ前項ノ規定ヲ適用セス又ハ其ノ期間ヲ短縮スル旨ノ宣言ヲ爲スコトヲ得ルコトヲ規定シタリ故ニ裁判所ハ情狀ニヨリ刑ノ言渡ト同時ニ五年以内任意ノ期間選舉權及被選舉權ヲ保有セシメ得ヘキニ事致ニ出テスシテ期間ノ短縮ニ付特ニ明文ヲ置キタル趣旨ヨリ推考スルモ右第二項ニ所謂前項ノ規定ヲ適用セス又ハ其期間ヲ短縮スル旨ノ宣告ハ各種ノ選舉權及被選舉權ニ通シテ之ヲ不可分のニ爲スヘキモノト解スルヲ克ク法ノ精神ニ適スルモノト謂ハサルヘカラス (昭和二(九)第一五九一號、三、二、四、大刑三) (第一四六號、八頁)

七八 選舉權及被選舉權ノ停止ト所謂刑ノ量定(同上)

衆議院議員選舉法第三十七條第二項ニ依リ同條第一項ヲ適用セサル旨ノ宣告即チ選舉權及被選舉權ヲ停止セサル旨ノ宣告ハ刑ニ對スルモノニ非スト雖刑事訴訟法第四百十二條ノ上告理由

ハ必スシモ刑其ノモノニ對スルモノニ限ラサルノミナラス選舉權及被選舉權ノ停止ハ刑ノ言渡ニ基ク效果ニシテ刑ト同様恩赦令ノ對象トナルモノナルト同時ニ之ヲ停止セサル旨ノ宣告ヲ爲スト否トハ裁判所カ犯罪ノ情狀ニ依リ裁量シ得ヘキ處分ニ屬スルコト衆議院議員選舉法第三百十七條第二項ノ規定ニ徴シ明ナレハ其ノ宣告ノ有無ハ刑事訴訟法第四百十二條ニ所謂刑ノ量定中ニ包含スルモノト解スルヲ妥當トス (昭和二(九)第一七六五號、三、三、五、大刑二) (第一五〇號、六九頁)

七九 輕微ナル選舉違反罪ト衆議院議員選舉法第一三七條第一項適用ノ當否(同上)

輕微ナル衆議院議員選舉法違反罪ニ於テ同法第三百十七條第一項ヲ適用セサル旨ノ宣告ヲ爲ササレハトテ該判決ハ甚シク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由アルモノト認メ難シ (昭和三(九)第一二八一號、三、一〇、二、大刑一) (第一六三號、二六四頁)

八〇 選舉法第一三七條第一項ノ宣告ト一部上訴(同上)

衆議院議員選舉法違反事件ニ於テ刑ノ言渡ト同時ニ爲サレタル衆議院議員選舉法第三百十七條第一項ヲ適用セサル旨即チ選舉權及被選舉權ヲ停止セサル旨ノ宣告ハ刑ノ言渡ニ從屬スルモノナルヲ以テ刑ノ言渡ト選舉權及被選舉權ヲ停止セサル旨ノ宣告トハ五二一部ト訴ヲ爲スコトヲ得サルモノトス (昭和五(九)第一四四五號、五、一〇、九、大刑五) (第二四六號、五五二頁)

治安警察法

一 治安警察法第五條第一項第三號ト基督教宣教師(第五條參照)

明治三十三年三月十日法律第三十六號ヲ以テ公布セラレタル治安警察法第五條第一項第三號ニ神官神職僧侶其ノ他諸宗教師トアル所謂諸宗教師ハ宗教ノ宣布ニ從事スル者ヲ包含スルコト疑ナケレハ基督教ノ牧師モ亦同條ノ諸宗教師ニ該當スルコト論ヲ俟タス但基督教ハ未タ我國ニ於テ公認セラレタルモノニ非サルヲ以テ明治三十二年內務省令第四十一號神佛道以外ノ宗教宣布並堂宇會堂ニ關スル規程第一條ニハ宗教ノ宣布ニ從事セントスル者ハ左記事項ヲ具シ履歷書ヲ添ヘ其住所ナキトキハ居所ヲ管轄スル地方長官ニ届出ヘシ一、宗教ノ名稱二、布教ノ方法云々第七條ニハ本令ハ明治三十二年八月四日ヨリ施行ストアリ又同年七月二十七日社寺局通牒秘甲第二九號省令第四十一號ニ依ル願届書式ノ件ニハ今般宗務ニ關シ本省令第四十一號發布相成候處右ハ神佛道以外ノ宗教ニ關シテハ從來何等ノ規定無之ニ付現在ノ事實ニ對シ必要ノ事項ヲ規定シタルモノニシテ一般ノ法規ト相俟テ此等宗教ヲ取締ラルル儀ニ有之候其旨御諒知相成度尙右省令ニ關スル出願書及届書ニ付テハ別紙雛形及送付候間可成之ニ依ラシメラルル様致度云々トアリテ其別紙雛形中基督教ニ關スル願届書式ノ定メアルニ徴スレハ基督教ノ牧師ハ治安警察法ノ公布前ニ於テ已ニ行政上宗教ノ宣布ニ從事スル者トシテ遇セラレ居ルコト明白ナレハ公認宗教ナラサルノ故ヲ以テ治安警察法ニ所謂諸宗教師ニ非スト云フヲ得ス (昭和四(九)第一二四三號、四、一、二、一八、大刑三) (第二一四號、六六八頁)

二 基督教宣教師ト政治結社加入(同上)

衆議院議員選舉法ニ於テ舊法ニ於ケル議員資格制限ノ規定ヲ削除シ神官神職僧侶其ノ他諸宗教

師ニ對シ議員ノ被選舉權ヲ附與シタルコト及同選舉法並ニ府縣制市町村等ニ於テモ議員ノ選舉權及被選舉權ニ關スル制限ヲ撤廢シ若ハ舊法ニ比シ著シク其ノ資格ヲ擴張セラレタリト雖是等ノ者ニ選舉權若ハ被選舉權ヲ附與スルコトト保安警察上ノ見地ヨリ政事上ノ結社ニ加入スルコトヲ禁止スルコトトハ全ク別個ノ問題ニシテ從來ト雖小學校以外ノ官公私立學校ノ教員ハ衆議院議員ノ選舉權及被選舉權ハ孰レモ之ヲ有シタルニ拘ラス政治上ノ結社ニ加入スルコトハ治安警察法第五條第一項第四號ニ於テ之ヲ禁セルニ徴スレハ單ニ前記各法制ニ於テ從來規定シアリタル議員選舉權及被選舉權ニ關スル制限ヲ撤廢シ若ハ其ノ資格ヲ擴張シタルノ一事ニ依リ神官神職僧侶其ノ他諸宗教師ノ政治上ノ結社加入ヲ禁止シタル治安警察法第五條第一項第三號ノ規定力廢法ニ歸シタルモノト速斷スルヲ得ス (同上)

三 警察犯處罰令ト治安警察法ノ適用方法 (第十二條參照)

警察犯處罰令第二條第十一號ハ公衆ノ自由ニ交通シ得ル場所ニ於テ喧噪シタル者ヲ處罰スルモノニシテ右喧噪行爲カ個人單獨ノ行爲ナルト團體的ニ又ハ多數一團ト爲ツテ爲サレタルトテ事ナシ唯若シ右ノ如キ喧噪行爲カ多衆運動ニ際シテ爲サレ其ノ態樣ニ於テ安寧秩序ヲ紊ス程度ニ及ヒ且警官ノ制止ヲ受ケテ之ニ從ハサルニ於テハ之ニ對シ治安警察法第十二條第二十六條ノ適用アルヘク又若シ右行爲カ文書詩歌ノ朗讀放吟其ノ他ノ作爲ニ依リテ一定ノ意思表示ヲ爲スヲ内容トシ其ノ態樣ニ於テ安寧秩序ヲ紊シ若クハ風俗ヲ害スル程度ニ及ヒ且警官ノ禁止命令ヲ受ケテ之ニ違背スルニ於テハ之ニ對シ治安警察法第十六條第二十九條ノ適用アルヘシト雖モ右ノ各要件ヲ具ヘサル喧噪行爲ニ對シテハ前記警察犯處罰令ノ規定ノ適用アルモノト謂ハサ

ルヘカラス (昭和五(九)第一六四〇號、五、一一、二〇、大刑五) (第二四五號、六二〇頁)

治安維持法

一 私有財産制度ノ破壞ト治安維持法第一條第一項 (第一條參照)

私有財産制度ヲ根本的ニ破壞スルヲ目的トスルハ大正十四年法律第四十六號治安維持法第一條第一項ニ所謂私有財産制度ヲ否認スルヲ目的トスルモノニ該當スルモノトス (昭和四(九)第一一一號、四、三〇、大刑一) (第一八七號、一一四頁)

二 私有財産制度否認ト其ノ發現ノ態樣 (同上)

現在ノ社會制度ニ缺陷アリ之レ有産支配階級カ無産階級ヲ壓迫搾取シ勞働ニ對スル賃金ヲ正當ニ支給セサルニ基因ス之ヲ防止スル手段トシテハ生産機關ヲ公有ニ歸セシメ分配ハ社會ノ手ニ依リテ勞働ノ價值ニ相當シテ分配スルノ要アリ而シテ現在ノ資本的組織ヲ破壞シ共產主義的社會ヲ建設スル爲ニハ其ノ實現運動ヲ爲ス機關トシテ政治行爲ヲ有ス結社ヲ組織スルコト急務ナルニ依リ吾々ハ共產主義者(コンミュニスト)トシテ前衛分子(ケルン)ヲ以テ新藝術協會ノ上ニ立ツ集産黨ト稱スル結社ヲ組織スヘク其ノ黨ノ目的ハマルクス主義ヲ實行シ我國ニ於ケル私有財産制度ヲ否認シ産業機關ヲ社會公有ニ移シ以テ共產制度ヲ實現スルニアル場合ハ結局我國ノ私有財産制度ヲ否認シ共產制社會ヲ實現スル目的ヲ以テ集産黨ト名ツクル結社ヲ組織シタルモノニ係リ其ノ生産機關ヲ公有ニ歸セシメ共產主義的社會ヲ建設スル爲ト云ヒ又ハ目的ハ産

業機關ヲ社會公有ニ移シ共產制度ヲ實現スルニ在リト云フカ如キハ要スルニ私有財産制度ヲ根本的ニ破壊スルコトヲ目的トスルモノニシテ即チ治安維持法第一條第一項ノ私有財産制度ヲ否認スルコトヲ目的トスルモノニ外ナラス (同上)

三 秘密結社トスローガンノ掲載事項 (同上)

スローガンハ假令政綱政策ト異ルモノナリトスルモ該スローガンカ根本目的ヲ有スル秘密結社日本共產黨組織後發表セラレタルモノニ係リ之ニ掲クル(一)乃至(十三)項ノ主張カ同黨ノ政綱ナリヤ將タ所謂一時の相言葉ニ過キササルヤハ治安維持法ニ於ケル秘密結社組織罪ノ構成ニ影響ナキモノトス (昭和四(九)第三八四號、四、五、三一、大刑四) (第一八八號、一三八頁)

四 組織關係ナキ運動ト治安維持法第一條 (同上)

苟モ團體ノ變革又ハ私有財産制度ノ否認ヲ目的トスル結社ノ存在スルコトヲ知り該結社ヲ支持シ其ノ擴大強化ヲ圖ル行爲ヲ爲シタル者ハ同結社ト組織關係ヲ有セス又ハ其ノ機關ノ統制指揮ヲ受クルコトナキモ治安維持法第一條ノ所謂結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル者ニ該當スルモノトス蓋シ結社ヲ支持シ其ノ擴大強化ヲ圖ル行爲ハ畢竟結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ニ外ナラサレハナリ (昭和五(九)第一四六五號、五、一一、一七、大刑五) (第二四六號、五五〇頁)

五 結社未加入ト治安維持法第二條ニ所謂事情ノ實行ニ關ルス協議(第二條參照)

團體ヲ變革又ハ私有財産制度ヲ否認スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織スルコト情ヲ知リテ結社

ニ加入スルコト及叙上ノ目的ヲ以テ其ノ目的タル事項ノ實行ニ關シ協議ヲ爲スコトハ固ヨリ別箇ノ觀念ナリト雖叙上ノ目的ヲ遂行スル爲他人ニ對シテ結社加入ノ勸誘ヲ爲シ又ハ他人ヨリ結社加入ノ勸誘ヲ受ケ叙上ノ目的遂行ノ爲其ノ加入ヲ承諾スルモ未タ結社ニ對シテ加入ノ申込ヲ爲シタルモノト認メ得ラレサル程度ノモノナルニ於テハ其ノ行爲ハ治安維持法第二條ニ所謂前示目的タル事情ノ實行ニ關シ協議ヲ爲シタルモノト解セサルヘカラス蓋シ團體ヲ變革シ私有財産制度ヲ目的トスル結社ニ加入スルコトハ右ノ目的事項ヲ實行スル手段ナルコト勿論ナレハ其ノ加入ノ勸誘及承諾ハ叙上ノ目的事項ノ實行ニ關シ協議ヲ爲シタルモノニ外ナラサレハナリ (昭和四(九)第七二九號、四、一〇、二二、大刑一) (第二〇八號、四六八頁)

六 舊法時未タ結社ニ加入セサル者ト改正後ノ治安維持法(第二條參照)

改正前ノ舊治安維持法第二條第三條ニ該當スル行爲カ團體ヲ變革シ又ハ私有財産制度ヲ否認スルコトヲ目的トスル結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ナルニ於テハ未タ結社ニ加入セサル者ナルトキト雖改正後ノ治安維持法ニ在リテハ其ノ第一條第一項後段及第二項ニ該當スルモノトス、蓋シ斯ノ如キ行爲カ結社目的遂行ニ資スルコトハ結社加入ノ行爲ナルト未加入者ノ行爲ナルトニ依リ毫モ差異アルコトナク其ノ第二條第三條ハ結社ノ目的遂行ノ爲ニスルタルニ非スシテ單ニ團體ノ變革又ハ私有財産制度ノ否認ヲ目的トシ其ノ目的遂行ノ爲ニスルタル場合ニ適用スヘキモノナルヲ以テナリ (昭和四(九)第一三二四號、五、二、二一、大刑四) (第二一九號、四一頁)

警察犯處罰令

一 密賣淫容止罪ノ成立要件（第一條參照）

密賣淫容止ノ罪ハ苟モ密賣淫ヲ爲スノ情ヲ知テ豫メ賣淫者ニ房室其ノ他ノ場所ヲ給與スルコトヲ約シ後ニ其ノ者ニ於テ該場所ヲ使用シテ密賣淫ノ行爲ヲ爲シタルトキハ直チニ成立シ容止ヲ爲ス者カ個々ノ密賣淫行爲ニ付一々認容シタルコトヲ必要トセス（昭和三（れ）第二五一號、三、四六、大刑一）〔第一五三號、一一七頁〕

二 警察犯處罰令第二條第九號ニ所謂祭事ノ意義（同上）

警察犯處罰令第二條第九號ニ所謂祭事トハ儀ヲ整ヘ具ヲ供シテ神佛其他ノ靈位ニ奉仕シ敬虔ノ誠ヲ致スノ式事ヲ汎稱シ而シテ本號ノ規定ハ專ラ敬神崇佛等信教ニ關スル良俗ヲ保護シ之カ妨害ヲ排除スルノ趣旨ニ出テタルコト寔ニ明確ナルカ故ニ其ノ祭事ノ起原出所カ法令ニ依ルト舊慣ニ基クト分タサルハ勿論其ノ舉行ノ場所ノ如キモ必スシモ神祠佛堂等ノ境域内ニ限ラサルモノト解スルヲ相當トス從テ郷社ノ例祭ニ當リ其ノ祭儀ニ伴ヒ社域外氏子居住區内ノ地點ニ掲張スル恒例ノ注連飾若ハ古來我邦都鄙一般ニ行ハルル稻荷神社ノ初午祭ニ際シ古例ニ遵ヒ路傍一樹立スル旗幟ノ如キモ亦當該祭事ノ一部ヲ成スモノト謂フヘク其ノ結果トシテ故ナクシテ之等ノ施設ヲ撤去スルカ如キハ即チ本號ニ所謂祭事ニ對シテ妨害ヲ爲スニ外ナラスト斷定セサルヘカラス（昭和三（れ）第一九一三號、四、三、六、大刑三）〔第一八二號、一七頁〕

三 警察犯處罰令第二條第七號ニ所謂強テ申込ヲ求メタル者ノ意義（同上）

警察犯處罰令第二條第七號ニ所謂強テ其ノ申込ヲ求メタルモノトハ申込ノ要求カ強迫ニ近キ程

度ニ強談的ナルコトヲ必要トセス相手方ニ於テ數回謝絶ノ意思ヲ表示シ其ノ申込ヲ爲スヲ欲セサルコト既ニ明白ナルニ拘ラス尙執拗ニ勸誘ヲ繼續シ其ノ本意ヲ曲ケテ申込ヲ爲サシメントスル場合ノ如キモ亦之ニ該當スルモノトス（昭和四（れ）第四七五號、四、六、二〇、大刑五）〔第二〇〇號、三五九頁〕

四 電柱ノ無斷貼紙、警察犯處罰令第三條第一五號（第三條參照）

路上ニ設置セル電柱ニ所有者ノ承諾ヲ得シテ宣傳ボスターヲ貼布シタル以上ハ縱令其ノ貼紙ニシテ一時的ノモノニ係ルトスルモ正當ノ理由ナクシテ之カ貼布ヲ爲シタルモノニ外ナラザレハ其ノ行爲ハ警察犯處罰令第三條第十五號ニ所謂濫リニ他人ノ工作物ニ貼紙ヲ爲シタルモノニ該當スルモノトス（昭和四（れ）第五七九號、四、七、五、大刑四）〔第一九三號、二三七頁〕

少年法

一 少年法第八條ト確定期刑ノ言渡（第八條參照）

第二審判決當時十八歳未満ナルニ因リ少年法第八條ヲ適用スヘキトキハ刑ノ執行猶隊ノ言渡ヲ爲スヘキ場合ノ外不定期刑ヲ言渡スヘク確定期刑ヲ言渡スヘキモノニ非ス（昭和五（れ）第九五八號、五、九、六、大刑三）〔第二四九號、六〇九頁〕

出版法

一 出版法ニ所謂頒布ノ意義（第一條參照）

出版物ヲ多數者ニ頒布タル場合ニ於テハ其ノ多數者ノ特定セルト否トヲ問ハス出版法第一條ニ所謂頒布ニ該當スルモノナレハ頒布サレタル者ハ特定ノ人ヲナリトスルモ其ノ多數ニ係ルトキハ所謂頒布ト謂ハサルヘカラス（昭和四（九）第五二八號、四、六、二二、大刑三）〔第一九二號、二一三頁〕

二 出版法第二條ト謄寫版印刷ノ文書（第二條參照）

出版法第三條ニ依リ内務省ニ届出ヲ爲スヘキ文書圖書ノ印刷物中ニハ同法第九條所定ノ印刷物ノ如キ之ヲ包含セサルヲ以テ其ノ届出ヲ爲ササルコトニ因リ成立スル同法第二十二條ノ罪ヲ判示スルニ當リテハ先ツ印刷物カ文書ナリヤ將タ圖書ナリヤヲ明ニシテ且ツ印刷物カ同法第三條ノ適用ヲ受クヘキモノナルコトヲ知ラシムルニ足ル程度ニ於テ其ノ内容ヲ指示スルニ非サレハ其ノ理由ニ於テ缺クルトコロアリト云ハサルヘカラス（昭和三（九）第五四九號、三、五、二二、大刑四）〔第一六〇號、二一八頁〕

三 出版法第三號ト第九條トノ差異（第三條參照）

謄寫版ヲ用ヒ官廳並ニ資本家ニ對スル勞働者ノ反抗ヲ懲罰スルカ如キ文書ヲ掲載頒布スルカ如キハ其ノ文書タルヤ店舗ノ開設商品ノ賣價其ノ他ノ事項ヲ廣ク世間ニ告知シテ取引ヲ誘發シ若クハ選舉ニ關シ投票ヲ勸誘スル等ノ文詞ヲ掲載シタルモノト其ノ性質ヲ異ニスルモノニ外ナラサレハ出版法第九條ノ引札ニ非シテ同法第三條ノ文書ニ該當スルモノナルコト論ヲ俟タス（昭和四（九）第一七一號、四、四、三〇、大刑一）〔第一八七號、二一八頁〕

四 出版法第九條ノ法意及ヒ出版法ニ所謂頒布ノ意義（第九條參照）

出版法第九條ニ掲クル印刷物ハ通常ノ取引各交際其他平常ノ生活ニ用キラレルモノニ限ルモノトス
出版法ニ所謂頒布トハ出版物ヲ多數者ニ頒布シ義ナレハ苟モ出版物カ多數者間ニ配布セララルニ於テハ其ノ特定人ナルト否トヲ問ハス頒布アリタリトスルニ妨ケナシ（昭和二（九）第一五五六號、三、二、二五、大刑三）〔第一四九號、五七頁〕

五 出版法第二十四條ノ發行人ノ資格（第二十四條參照）

出版法第二十四條ニ發行人印刷人ノ氏名ハ發行ヲ爲シ印刷ヲ爲ス自然人ノ氏名ヲ云フモノナレハ發行者印刷者北海道勞働者農民協議會準備會十勝支部トノ記載ハ同條ニ所謂發行人印刷人ノ氏名ヲ記載シタルモノト云フコトヲ得ス（昭和四（九）第一七一號、四、四、三〇、大刑一）〔第一八七號、一一八頁〕

新聞紙法

一 新聞紙法第一九條ト危險ノ認識（第十九條參照）

苟モ檢事ノ差止メタル捜査ニ關スル事項ナルコトヲ知リテ之ヲ新聞紙ニ掲載スルニ於テハ新聞紙法第十九條ノ違反トナリ犯罪ハ成立シ犯人ニ於テ掲載ノ結果司法權行使ヲ妨害シ若ハ妨害スル危險ヲ齎ス事ノ認識ノ有無ハ犯罪ノ成否ニ影響ナキモノトス（昭和五（九）第一一〇四號、五、九

郵便法

一 郵便法第七條ニ所謂差押ノ意義（第七條參照）

郵便法第七條ニ所謂差押トハ民事訴訟法第六百十八條ノ規定ト同シク金錢債權ニ付テノ強制執行印債務名義ノ内容カ金錢ノ支拂ヲ目的トスル請求ニ付テノ強制執行ノ目的ト爲ラサルコトヲ規定シタルモノト解スヘク而シテ同法第七百五十五條ニ所謂假處分ハ金錢ノ給付ヲ目的トセサル請求ニ關シ係争物ノ現状ノ變更ニヨリ權利ノ實行不能ト爲リ又ハ之ヲ實行スルニ付著シキ困難ヲ生スル虞アル場合ニ於テ其執行保全ノ爲メ必要ナル處分ヲ命スルモノナルヲ以テ假處分ノ手續ニハ假差押ノ手續ヲ準用セラルト雖モ其性質ハ之ト異ニスルモノト謂フヘク郵便法ニ所謂差押ニハ民事訴訟法ニ所謂假處分ハ包含スルモノニ非スト解スルヲ相當トス（昭和四（ホ）第六八二號、五、六、二三、東控民三）〔第二二六號、一七四頁〕

二 居所ニ宛タル郵便物ト名宛人ノ受取義務（第十二條參照）

郵便法第十二條ニ郵便物ハ命令ヲ以テ定ムル場所ヲ除クノ外其ノ宛所ニ配達ストアルニ因リ郵便物ハ特ニ命令ヲ以テ定ムル場合ニ該當セサル限り差出人カ之ニ記載シタル宛所ニ配達スヘキモノナルコト明ナリ而シテ其ノ宛所ノ記載カ詳カナラサルトキ例之町村内ノ大字名ヲ記載シ番地ヲ掲ケサルカ如キ場合ニ其ノ記載ハ同地域内ニ存スル受取人ノ住所ノミナラス居所ヲモ宛所ト爲シタル趣旨ト解スルヲ相當トス蓋居所ハ受取人カ繼續シテ現在スル場所ニシテ配達セラレ

タル郵便物ヲ同人又ハ其ノ代人ニ於テ受取ル機會尠少ナラサレハナリ隨テ叙上ノ郵便物ニシテ法令上宛所ニ配達スヘキモノニ係リ郵便料ノ完納アリテ受取人ノ居所ニ配達セラレタルトキハ受取人ハ同法第二十三條第一項ニ依リ之カ受取ヲ拒ムコトヲ得ス若シ之ヲ拒ムトキハ同條違反ノ制裁ヲ免ルルコトヲ得サルモノトス（昭和三（九）第一八〇九號、四、二、八、大刑四）〔第一八一號、七頁〕

電信法

一 自己ニ宛テタル虚偽ノ電信ト電信法第三三條第一項（第三十三條參照）

電信法第三十三條第一項ハ自己若ハ他人ノ利益ヲ圖ルカ爲又ハ他人ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ電信若ハ電話ニ依リ虚偽ノ通信ヲ發スル一切ノ行爲ヲ禁遏スルノ法意ナリト解スヘク而シテ電信ト電話トハ共ニ電氣作用ニ依ル通信裝置タル點ニ於テハ相類似セリト雖電話ハ通話者間ニ言語自體ヲ傳送スル裝置ナルカ故ニ苟モ一人カ同時ニ離タル二個所ニ存在スルコトヲ得サルモノナル以上自己ニ對シテ電話ニ依ル通信ヲ爲シ得ヘカラサルヤ極メテ明白ノ事項ナルモ電信ハ之ト異リテ發信者カ電信官署ニ對シ賴信紙ニ依リ發信ヲ依託シ受信者ハ其ノ送達紙ノ配達ヲ受クルモノニシテ其ノ通信ハ電話ノ如ク直接ナラス且發信ノ依託ト配達トハ當然或ル時間ノ間隔ヲ伴フノミナラス發信及受信共ニ文書ヲ要スル點ニ於テ郵便ニ依ル通信ニ近似シ爲ニ事實上一人カ自己ニ宛テタル電信ヲ差出シ且之カ配達ヲ受クルハ決シテ不可能事ニアラサルコト何等疑ヲ挿ムノ餘地ナク而シテ或ル者カ電信設備ヲ悪用シテ自己ニ宛テタル虚偽ノ通信ヲ爲シ然カモ其

行爲カ自他ノ不正ナル利益ヲ圖リ又ハ他人ニ損害ヲ加フル目的ニ出テタル以上ハ之ヲ禁遏スヘキ理由ハ他人ニ宛テタル不正ナル通信ノ場合ニ比シ毫モ軒輊ナキカ故ニ該行爲ハ當然前示法條ニ該當スルモノト謂ハサルヘカラス、電話ニ於ケル對話者間ノ關係ニ拘ハリ之ヲ基本トシテ電信ニ依ル自己ニ宛テタル虚偽ノ通信ハ無罪ナリトスル論ハ其當ヲ得ス (昭和四(九)第一三一號、五、五、一七、大刑三) (第二二七號、一九一頁)

電話規則

一 電話加入權差押ノ讓渡ト國ノ書換義務 (第四十五條參照)

債權者カ債務者ノ電話加入權ニ付強制執行保全ノ爲假差押ヲ爲シ次テ該加入權ヲ支拂ニ代ヘ債權者ニ讓渡セラレ該命令カ電話局ニ送達セラレタルニ先是債務者ハ該加入權ヲ第三者ニ讓渡シタリトテ之カ名義書換ヲ請求シ電話局ハ之ニ應シタリ、而シテ右債權者ノ爲シタル假差押ハ讓渡禁止期間中ニ爲サレタリト雖右禁止期間内ノミ其效力ノ發生ヲ停止スルニ止マリ該期間ヲ經過スルト同時ニ其ノ效力ヲ生スルモノナルヲ以テ該命令ノ取消ナキ以上ハ債務者ハ該加入權ヲ他人ニ讓渡スルコトヲ得サルト同時ニ假令之ヲ他人ニ讓渡シタリトシテ讓受人ト共ニ電話規則第四十五條第二項ノ手續ヲ履踐シテ之カ名義書換ヲ爲スモ電話官署ハ之ヲ書換ヲ爲スコトヲ得サルハ言ヲ俟タサル所ナリトス、此ノ場合ニ於テ債權者ハ電話加入權ヲ有效ニ取得シタルモノナルヲ以テ第三取得者ニ對シテ之カ加入名義ノ變更請求權ヲ行使スルコトヲ得ヘキハ勿論電話局ニ依リ代表セラレ國ニ對シテモ亦之カ請求ヲ爲スコトヲ得ヘク國ハ之ニ應スヘキ義務アリ

ト謂ハサルヘカラス (昭和四(オ)第一二二五號、五、三、二七、大民一) (第二二六號、一六六頁)

二 電話規則第七十六條ノ趣旨 (第七十六條參照)

電話規則第七十六條ハ加入權者カ報酬ヲ受ケ其使用ニ供スル電話權ヲ他人ノ用ニ供シ又ハ報酬ヲ受クル者ニ賃與スルコトヲ禁止シタルニ止マリ電話加入權其ノモノノ賃貸借ヲ禁止シタルモノニアラスト解スルヲ相當トス (大正一五(レ)第八六九號、昭和三、三、三一、東地民一三) (第一五四號、一三五頁)

至急電話開通規則

一 電話至急開通規則ニ依ル五年未經過ノ加入權ト強制執行 (第十六條參照)

電話規則第十二條電話至急開通規則第十六條ニ依レハ電話規則第十一條第五號ニ依リテ開通シタル電話ハ所轄通信局長ニ於テ已ムヲ得サルモノト認メ特ニ許可シタル場合ヲ除ク外開通後五年ヲ經過スルニ非サレハ其ノ如入名義ヲ變更スルコトヲ得サルモノナルカ故ニ斯ル電話加入權ハ開通後五年間ハ右ノ許可ナキ限り強制執行ニ因ルモ現ニ之ヲ讓渡スルヲ得サルコト勿論ナリト雖其ノ加入權ハ右五年ノ經過ヲ待チテ之ヲ讓渡シ得ルノミナラス其ノ經過前ト雖所轄通信局長カ已ムヲ得サルモノト認メテ特ニ加入名義ノ變更ヲ許可スルトキハ之ヲ讓渡スルヲ得ルモノナルヲ以テ其ノ加入權タルヤ本來ノ性質上絕對ニ讓渡性ヲ缺クモノニアラス唯一時讓渡ヲ停止セラレタルモノニ外ナラス凡ソ讓渡ニ適セサル權利ニ付原則トシテ差押ヲ許ササル所以ノモノ

ハ假令強制執行ニ依ルモ之ニ讓渡性ヲ附與スルコトヲ得サルヲ以テ他人ニ移轉シ又ハ換價スルコトヲ得サル可ク強制執行ハ遂ニ其目的ヲ達スルコト能ハサルカ爲ナリ左レハ電話加入權ノ如ク本來ノ性質上讓渡性ヲ缺クルモノニアラス只特種ノ理由ニヨリ一時讓渡ノ停止セラレアルニ過キサルモノニ付テハ之ニ對シ差押ヲ爲サシメテ執行行爲ヲ許容スルモ其ノ時期ハ別問題トシテ強制執行ハ其ノ目的ヲ達シ得ラレサルニアラサルカ故ニ唯現ニ讓渡ノ停止セラレアルノ一事ヲ以テ直ニ電話加入權ハ差押ノ目的タルヲ得サルモノト爲ステ得ス (昭和三(ク)第六九五號、五、二、一四、大民二) (第二一九號、三二頁)

二 電話至急開通規則ニ依ル電話ト強制執行 (同上)

抑モ電話規則第十二條電話至急開通規則第十六條ニ依レハ電話規則第十一條第五號ニ依リテ開通シタル電話ハ所轄遞信局長ニ於テ特ニ許可シタル場合ヲ除ク外開通後五年ヲ經過スルニ非サレハ其ノ加入名義ヲ變更スルコトヲ得サルモノナルカ故ニ斯ル電話加入權ハ開通後五年間ハ右ノ許可ナキ限り強制執行ニ依ルモ現ニ之ヲ讓渡シ得サルコト勿論ナリト雖其ノ加入權ハ右五年ノ經過ヲ待テ之ヲ讓渡シ得ルノミナラス其ノ經過前ト雖所轄遞信局長カ特ニ加入名義ノ變更ヲ許可スルトキハ之ヲ讓渡シ得ルモノナルカ故ニ其ノ加入權タルヤ本來ノ性質上絕對ニ讓渡性ヲ缺クモノト云フヲ得ス唯一時讓渡ヲ停止セラレアルモノニ外ナラサルナリ凡ソ讓渡ニ適セサル權利ニ付原則トシテ差押ヲ許ササル所以ノモノハ縱令強制執行ニ依ルモ之ニ讓渡性ヲ附與スルコトヲ得サルヲ以テ他人ニ移轉シ又ハ換價スルコトヲ得サルヘク強制執行ハ遂ニ其ノ目的ヲ達スルコト能ハサルカ爲メニ外ナラス左レハ電話加入權ノ如ク本來ノ性質上讓渡性ヲ缺クモノ

ニアラス特殊ノ理由ニ依リ一時讓渡ノ停止セラレアルニ過キサルモノニ付テハ之ニ對シ差押ヲ爲サシメテ執行行爲ヲ許容スルモ其ノ時期ハ別問題トシテ強制執行ハ其ノ目的ヲ達シ得ラレサルニアラサルカ故ニ唯現ニ讓渡ノ停止セラレアルノ一事ヲ以テ直ニ電話加入權ハ差押ノ目的タルヲ得サルモノト爲スニ當ラス從テ電話開通後未タ五年ヲ經過セサル間ニ發セラレタル差押命令ニ依リ差押ヲ爲スモ違法ニ非ス (昭和四(ク)第八二〇號、五、三、一、大民三) (第二一八號、九頁)

放送用私設無線電話規則

一 放送局トラヂオ設置者ノ契約解除ト遞信局長ノ許可ノ効力(第十五條參照)

聽取無線電話施設ニ付遞信局長ノ許可ヲ受ケ居レル者カ無線電話放送施設者トノ間ノ聽取契約ニ違反シタル爲該契約ヲ解除セラレタルトキハ右許可モ當然其ノ効力ヲ失フヘキコトハ大正十二年遞信省令第九十八號放送用私設無線電話規則第十五條ノ二ノ明定スル所ナレハ該契約解除セラレタル以上ハ遞信局長ノ許可ハ當然其ノ効力ヲ失フコト言フ俟タス (昭和五(レ)第八〇號、五、六、三〇、大刑五) (第二三〇號、二五〇頁)

關 稅 法

一 禁制品ヲ租借地ヨリ青島ニ廻送スル行爲ト輸入行爲(第一條參照)

旅順大連ノ租借ニ對シテハ支那國ノ統治權ハ之ニ及ハス其ノ關稅關係ニ付テモ商品カ大連ニ輸入セラルルモ支那國ニ對スル輸入トナラス日本國租借地ノ境界ヲ越エ支那國內地ニ輸入セラレタル時ニ初メテ支那國ニ對スル輸入トナルモノニシテ此ノ關係ニ於テハ租借地ハ支那國以外ト認めラルヘキモノナルコト我國ト支那國トノ間ニ於ケル滿洲ニ關スル條約南滿洲及東部內蒙古ニ關スル條約並大連海關稅設置ニ關スル協定ノ規定上之ヲ解スルニ難カラサルヲ以テ鹽酸ヘロインヲ大連ヨリ青島ニ運搬陸揚シタル行爲ハ支那國以外ト認めラルヘキ租借地ヨリ支那國ニ輸入シタルモノト謂フヘク支那國內ニ於テ廻送シタルモノト稱スヘキニ非ス (昭和四(九)第一四〇七號、五、一、二〇、大刑二) (第二一六號、六四三頁)

二 關稅法ニ於ケル懷中時計ト腕卷時計(同上)

關稅法第一條ノ内容ヲ成セル別表ヲ案スルニ同法ハ懷中時計置時計掛時計電氣時計等及其ノ部分品ニ付課稅スルノ趣旨ニシテ時計若ハ其ノ部分品中ノ如何ナルモノモ課稅ノ目的ヲラサルモノナキコト明文上疑ナク同表ノ五二七號ニハ單ニ懷中時計部分品トノミアリテ腕卷時計ニ關スル明文ナキモ此ノ兩者ハ所持者ニ於テ携帯スル方法ヲ同シクセサルニ止マリ其ノ用途效用ハ畢竟何等異ル所ナク課稅ノ趣旨ニ照シ懷中時計ニ課稅シテ腕卷時計ニ課稅セサル理由ナキカ故ニ腕卷時計ノ機械ハ同號ノ懷中時計部分品ノ二ノ乙ノ「其ノ他」ニ包含スルモノト解スルヲ以テ克ク關稅法立法ノ趣旨ニ適シタルモノト謂ハサルヘカラス (昭和五(九)第六五三號、五、七、五、大刑五) (第二三四號、三二八頁)

三 關稅法ニ於ケル懷中時計ト腕時計(同上)

關稅定率法第一條ノ内容ヲ成セル別表五二七號懷中時計部分品ノ二ノ乙「其ノ他」トアルハ腕卷時計ノ機械ヲ又同號中五「文字板」トアルハ腕卷時計ノ文字板ヲ包含スルモノト解スヘキヲ以テ腕卷時計ノ機械及同文字板ノ關稅通脫行爲ニ對シ關稅法第七十五條第八十三條ヲ適用シ罰金追徴及沒收ノ言渡ヲ爲スハ固ヨリ正當ナリ (昭和五(九)第八八三號、五、七、一九、大刑二) (第二三一號、二六八頁)

四 他人ノ名義ヲ使用スル稅關貨物取扱人ト關稅法ノ直接責任(第八十二條參照)

稅關貨物取扱人タルノ免許ヲ受ケタル者カ其ノ免許ヲ有スル者ノ名義ヲ使用シ自己ノ計算ニ於テ輸入貨物取扱業ヲ經營シ其ノ業務ヲ執行スル際關稅ヲ遺脫シタルトキハ其ノ行爲ハ關稅法第七十五條ニ依リ處罰セラレヘキモノトス縱令其ノ名義ノ使用ニ付免許者ノ承諾ヲ得タル場合ト雖名義使用者カ免許者ノ業務ニ關シ其ノ代理人雇人其ノ他ノ從業者トシテ關稅遺脫ノ行爲ヲ爲シタルトキニ非サレハ關稅法第八十二條ノ二第二項ノ適用アルヘキモノニ非ス (昭和四(九)第三二四號、四、五、一四、大刑四) (第一八九號、一五八頁)

五 關稅通脫罪ノ成立要件及沒收ノ限度(第八十三條參照)

凡ソ外國貨物ヲ輸入スルニハ之ニ對シテ課セラレタル關稅ヲ納付スルカ若クハ特ニ稅關ノ認許ヲ得テ之ニ代ルヘキ納稅ノ擔保ヲ供セサルヘカラス、否ラサル限リ該貨物ヲ國內ニ引取り輸入スルコトヲ得サルモノナルカ故ニ苟モ關稅未納ノ貨物ナルコトヲ認識シナカラ稅關ノ認許ヲ受クサシテ不正ニ之ヲ引取り輸入シタルトキハ常ニ關稅通脫ノ意思アルモノニシテ其ノ行爲ハ關

税法第七十五條ノ犯罪ヲ構成ス其ノ者カ事後ニ於テ該關稅ヲ納付スル意思ヲ有シタリシヤ否ヤハ該犯罪ノ成否ニ影響ナキモノトス
關稅違脫犯ハ其ノ何人ナルヲ問ハス苟モ關稅未納ノ貨物ナルコトヲ認識シナカラ稅關ノ認許ヲ受ケスシテ不正ニ該貨物ヲ引取り輸入ヲ爲スニ因リテ成立スルモノナレハ其ノ者カ該貨物ニ付豫メ關稅法上ノ納稅義務者タルヘキ地位ニ在リタルヲ必要トセサルハ勿論他人カ該貨物ノ輸入申告者トシテ關稅ヲ納付スヘキ地位ニ在リタリヤ否ヤハ該犯罪ノ成否ニ何等ノ影響ヲ及ボササルモノトス

關稅法第八十三條ハ沒收スヘキ貨物カ犯罪者以外ノ者ニ屬シ又ハ其ノ他ノ事由ニ依リ沒收不能ナルトキ若シ共同犯罪者數名アル場合ニハ各犯罪者ヲシテ各獨立シテ同條所定ノ金額ヲ納付セシムル法意ナリ、唯國家ハ沒收ニ代ルヘキ追徵ニ依リ沒收セラルヘキ貨物ノ價額以上ヲ利得スヘカラサルコト勿論ナルカ故ニ共犯者中ノ一人カ其ノ全部又ハ一部ヲ納付シタルトキハ其ノ部分ニ付テハ更ニ他ノ者ニ對シ重ネテ之ヲ追徵スルコトヲ得サルノミ (昭和二(九)第一〇八八號、三、二、三、大刑二) (第一四六號、九頁)

六 關稅法ト罰金課刑方法ノ明示 (第九十四條參照)

關稅法第九十四條ニハ稅關長ハ犯罪事件ノ調査ニ依リ犯罪ノ心證ヲ得タルトキハ其ノ理由ヲ明示シ罰金若ハ科料ニ相當スル金額沒收ニ該當スル物品若ハ徵收金ニ相當スル金額ヲ稅關ニ納付スヘキ旨ヲ通告スヘシトアリ而シテ關稅違脫ノ場合ニ於ケル罰金ハ關稅定率法第一條ノ内容ヲ爲セル別表ニ基キ算定シ關稅法第七十五條ニ依リ違稅税金ノ三倍ニ相當スルモノナルコト勿論

ナルモ通告書ニハ其ノ通告スル罰金額ノ依テ生スル直接ノ理由ヲ示スヲ以テ足り其ノ算定ノ根據タル稅率ハ必スシモ通告書ニ明示スルノ要ナキコト言テ俟タス (昭和五(九)第六五三號、五、七、五、大刑五) (第二三四號三二八頁)

大正九年內務省令第四十一號 (輸入禁制品ノ關稅)

一 輸入禁制品ノ關稅ト大正八年內務省令 (第四十一號參照)

輸入禁制品ノ輸入ハ貨物ノ陸揚行爲ニ依リテ完了シ其ノ通關手續ハ輸入事後ノ行爲ニ屬スルカ故ニ貨物ノ稅率ニ相當スル關稅ヲ納付セスシテ通關セシメタル罪ヲ內務省令違反罪中ニ包含セシメテ不問ニ付スルコトヲ許サス (昭和三(九)第一〇六八號、三、六、二五、大刑五) (第一五七號、一七一頁)

船 員 法

一 刑法第一二九條及二一一條ト船員法第七三條 (第七十三條參照)

船員法ノ實施後ニ制定實施セラレタル現行刑法第二百二十九條ニ於テハ船舶ノ業務ニ從事スル者船舶ノ覆没若ハ破壊ヲ致シタルト又同第二百一十一條ニ於テハ業務上必要ナル注意ヲ怠リ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ヲ各三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處スル旨ヲ規定シ船員法第七十三條ノ規定ヲ存置シタル以上船員法第七十三條ハ其ノ明示スル如ク船員カ著シク其ノ職務ヲ怠

少因テ船舶ヲ毀損覆没及ハ人ヲ死傷ニ致シタル場合ニ於テ一月以上五年以下ノ懲役又ハ十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ船員カ其ノ他ノ過失ニ因リ船舶ヲ覆没若ハ破壊シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル場合ハ刑法第二百九條第二十一條ヲ適用シ處斷スル法意ヲ有スルモノト解スヘク即チ船員法第七十三條ハ船員カ著シク其ノ職務ヲ怠リタル事實ヲ條件トシテ前掲刑法ノ規定ヨリモ重ク處罰スル特別規定ノ性質ヲ有スルモノト解スルヲ相當トス (昭和五(九)第九八〇號、五、八、七、大刑五) (第二三九號、四二六頁)

海上衝突豫防法

一 海上衝突豫防法第二一條但書ト其ノ適用範圍 (第三十一條參照)

海上衝突豫防法第二十一條但書ハ天氣密濛其ノ他ノ事故ニヨリ義務船ノ處置ノミニテハ衝突ヲ避クル能ハサル程兩船接近シタルコトヲ認ムルトキハ權利船モ亦自ラ衝突ヲ避クル爲メ至當ノ處置ヲ爲スヘキコトヲ規定スト雖モ這ハ同條本文ニ於テ義務船カ避讓シタル場合權利船カ其針路及速力ヲ保ツヘキコトヲ規定シタルト相俟ツテ遺漏ナキヲ期シタル規定ユシテ權利船ノ行動トシテハ原則ハ飽迄モ本文ニ從フコトヲ要シ之ヲ以テハ到底急ニ應スル體ハサルカ如キ極メテ特殊ナル例外的場合ニ於テノミ右但書ノ適用ヲ見ルモノト解釋スルヲ相當トス (大正一〇(ノ)第二〇一九號、昭和三、七、九、東地民四) (第一八二號、二四頁)

二 船舶カ互ニ航過スル場合ト海上衝突豫防法ノ規定 (同上)

船舶カ互ニ航過スル場合ニ於テ各自對船ノ行動ヲ付度シ避讓ノ手段ヲ講スヘキトキハ却テ危險ナルモノナルカ故ニ此場合一船(受働船)ハ他船(能働船)ノ行動ヲ容易ナラシムル爲メ積極的手段ニ出テ以テ能働船ヲシテ受働船ノ態度ニ安シテ之カ避讓ノ手段ヲ採ラシムヘキモノナルコトハ吾人ノ經驗則ニ於テ然ルノミナラス航海上一般ニ認メラルル法則ニシテ海上衝突豫防法第二十一條ニ於テモ亦受働船ハ能働船ニ對シ其針路及速力ヲ保ツヘキコトヲ本則トスル旨規定セリ然リ而シテ同條後段ニハ受働船ニ於テ能働船ノ處置ノミニ因リテハ衝突ヲ避ケ能ハサル程兩船接近シタルコトヲ認ムルトキハ自ラ臨機ノ處置ヲ爲スヘキ旨規定シ同法第二十七條ニハ本法ヲ履行スルコト能ハサル特殊ノ場合ニ於テ受働船ハ臨機ノ處置ヲ爲スコトニ注意スヘキ旨規定セリ之即能働船ノ行動ノミニテハ到底危險ヲ避クヘカラサル場合ニ於テハ例外トシテ受働船ハ之ニ對シ臨機ノ處置ヲ爲スヘキモノナリトノ趣旨ニ外ナラス而シテ同法ハ海上ニ於テ起リ得ヘキ衝突防止ノ規定ナレハ港ノ内外ヲ問ハス一般ノ場合ニ適用アルモノト謂フヘシ (大正一二(ネ)第四五八號、昭和三、一二、二七、東控民四) (第一七九號、五四六頁)

三 海上衝突豫防法第二一條但書ノ規定ノ趣旨 (同上)

海上衝突豫防法第二十一條但書ノ規定 (同法第二十七條第二十九條ノ規定モ同趣旨ナリ) ハ衝突ノ危險切迫シ針路ト速力ヲ保持スヘキ船カ同條本文ノ規定ヲ墨守セハ却テ危險ニ瀕スルカ如キ場合ニ立至リタルトキハ針路速力保持ノ束縛ヲ脱却シ手段ノ如何ヲ擇ハス避讓ノ目的ヲ斷行セシメントスルモノニシテ若シ該船ノ行動カ早キニ失センカ該船ヲ避ケンカ爲メニ他船ニ於テ採ラントスル行動トノ間ニ行違ヲ生シ却テ衝突ノ結果ヲ招來スルコトアルヘク然レハトテ該船

カ臨機ノ處置ヲ爲スヘキ時期ハ結局到來スヘキカ故ニ針路ト速力ヲ保持スヘキ船カ其本分ヲ拋棄セサルヘカラサル精確ナル點ハ之ヲ決定スルコト極メテ困難ナレハナリ (大正一一(ワ)第四六四七號昭和五、四、二五、東地民四) (第二二六號、一七六頁)

府 縣 制

一 府縣制第一三條ノ二ト届出前ノ運動 (第十三條ノ二參照)

府縣制第十三條ノ二ニ依レハ議員候補者タラムトスル者ハ所定ノ期日マテニ其ノ旨ヲ選舉長ニ届出ツヘキモノニシテ立候補ノ届出ニ依リ議員候補者タル資格ヲ取得スルコト明ナルモ議員候補者タラムトスル者カ未タ立候補ノ届出ヲ爲ササル以前ト雖其ノ届出ヲ豫期シテ其ノ者ノ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ他人ニ對シ選舉運動ヲ依頼シ其ノ報酬トシテ金錢ヲ供與シタルトキハ府縣制第三十九條第四十條ニ依リ府縣會議員ノ選舉ニ付準用スヘキ衆議院議員選舉法第九十六條第二百二十九條ノ罪名ニ觸ルルト同時ニ同法第一百二十二條第一號ノ罪名ニ觸ルルコト言テ俟タス (昭和三(九)第五四七號、三、五、一四、大刑二) (第一六一號、二三五頁)

二 實費ノ供與ト衆選法ノ罰則 (第四十條參照)

府縣制四十條ニヨリ府縣會議員ノ選舉ニ付準用セララルル衆議院議員選舉法第一百二十二條ニ依レハ當選ヲ得若クハ得シムル目的ヲ以テ選舉人ニ對シ金錢供與ノ約束ヲ爲シ若クハ其ノ供與ノ申込ヲ承諾シタルトキハ處罰セララルヘク又同様ノ目的ヲ以テ法定ノ選舉運動者又ハ演說若クハ推薦

狀ニ依ル選舉運動者ニ非サル選舉運動者ニ對シ金錢供與ノ約束ヲ爲シ又ハ其ノ供與ノ申込ヲ承諾シタルトキハ縱令其ノ金錢ハ實費トシテ供與セララル場合ト雖同條ニヨリ處罰セルヘキモノトス (昭和三(九)第一〇三五號、三、九、二一、大刑二) (第一七三號、四三二頁)

三 選舉運動者タルヲ拒絕シタル者ト罰則違反 (同上)

府縣制第四十條ニ依リ縣會議員選舉罰則トシテ準用セララルル衆議院議員選舉法第一百二十二條第一號ニ所謂選舉運動者トハ獨リ現ニ選舉運動ニ從事シ若ハ選舉運動ヲ爲サンコトノ請託ヲ受ケ之ヲ承諾シタル者ノミナラス其ノ請託ヲ受ケ之ヲ拒絕シタル者ヲモ指稱スト解スヘキヲ正當トス (昭和四(九)第五〇九號、四、六、二一、大刑四) (第二〇〇號、三五八頁)

町 村 制

一 町村會議員選舉ト選舉事務員ノ制度 (第三十七條參照)

町村會議員ノ選舉ニ付テハ町村制第三十六條ノ二ニ依リ衆議院議員選舉法第九十一條、第九十八條、第九十九條第二項、第一百條、第一百四十二條ヲ準用スルニ止マリ同第九十六條第九十七條第九十九條第一項等選舉事務員ニ關スル規定ヲ準用セサルカ故ニ町村會議員ノ選舉ニ付テハ選舉事務員ナルモノハ法ノ公認セサルモノト解スヘク從テ被告人カ縱令選舉事務員ナル名稱ノ下ニ選舉運動ニ從事シタルトスルモ單純ナル選舉運動者ニ外ナラスト謂フヘク苟モ選舉運動ニ對スル報酬ヲ收受シタル以上町村制三十七條衆議院議員選舉法第一百二十二條第四項第一號ノ犯罪ヲ

構成スルモノトス (昭和五(九)第一一七七號、五、二二、一、大刑二) (第二五二號、六七三頁)

八〇六

二 寄附金ノ受領ト村會ノ決議 (第四十條七號參照)

村ノ基本財産設置ニハ村會ノ決議ヲ要スルコトハ町村制第四十條第七號ノ規定ニ徴シ明白ナリト雖モ基本財産設置後ノ寄附受領カ基本財産ノ設置ト異ルコトハ論ナク又當該寄附金ヲ以テ初メテ基本財産ヲ設置スル場合ニ在リテモ寄附受領ト基本財産ノ設置トハ之ヲ同一視スルコトヲ得サルカ故ニ先ツ寄附ヲ受領シタル後基本財産ヲ設置スルヲ妨ケサルモノト謂ハサルヘカラス而シテ村カ他ヨリ寄附金ヲ受領スルニ付村會ノ決議ヲ要スル旨ノ規定存セサルヲ以テ村長ノ寄附ノ受領ハ定ニ有效ナリト謂ハサルヲ得ス (昭和三(カ)第一八三〇號、四、四、二二、東地民三) (第一八九號、一六七頁)

三 町村ノ基本財産ト其ノ管理責任者 (第六十二條參照)

町村制第七十二條第二項第二號ニ依レハ村長ハ村ノ基本財産ハ勿論其ノ他ノ財産ヲ管理スル職務權限ヲ有スルコト明ニシテ基本財産ノ存スル以上其ノ保管ハ當然村長ニ於テ之ヲ爲スヘク町村制第八十條ニ收入役ノ事務トシテ規定セル町村ノ出納其ノ他ノ會計事務トアルハ町村ノ歳入出豫算ニ屬スル現金ノ收支及町村ニ屬スル物品ノ出納其ノ他町村長ノ管理ニ屬セサル町村一切ノ收入支出ノ事務ヲ指セルモノニシテ町村ノ基本財産ノ管理ニ付テハ收入役ニ其ノ權限ナキモノトス (昭和五(九)第七三二號、五、七、七、大刑二) (第二三六號、三七〇頁)

土地收用法

一 國ノ事務ト自治體ノ事務トヲ區別スル標準

國ノ事務ナリヤ地方自治體ノ事務ナリヤハ事務ノ性質ニ依リ決セラルヘキモノニシテ其費用負擔カ何レニアリヤラ標準トシテ決スヘキモノニアラス費用ハ場合ニ依リ國ノ事務ニシテ尙且地方自治體ヲシテ之ヲ負擔セシメ或ハ地方自治體ノ事務ニシテ尙國カ其一部ヲ補助スルコトアルモノトス (昭和三(ホ)第二〇一號、四、五、三一、東地民一) (第一八九號、一六〇頁)

二 國有財産法ニヨル境界査定ノ効力

國有財産法ニヨル境界査定ハ國家カ一方的ニ國有地ノ境界ヲ審査決定スル行政處分ニシテ認定的ノ効力ヲ有シ一旦其ノ處分確定スルヤ爾後正當權限アル官廳ニヨリ適法ニ取消サレサル限り何人モ査定ノ趣旨ニ反スル主張ヲ爲シ能ハサルモノトス (昭和四(ア)第三四一號、五、九、一七、長崎控民二) (第二三四號、三三三頁)

三 土地收用ニ關スル意見書ノ不提出ト出訴權 (第二十五條參照)

土地收用法同法第二十五條ニ於テ土地所有者ノ意見書ヲ提出スルコトヲ得セシメタルハ收用ノ採決ニ先立チ土地所有者ノ意見ヲ徵シ以テ收用審査會ヲシテ妥當ナル裁決ヲ得セシムル趣旨ト解スルヲ相當トスヘク同法第四十一條又收用審査會ノ裁決ハ起業者土地所有者及關係人ノ申

立たる範圍ヲ起ユルコトヲ得スト規定スルニ止マルヲ以テ同條ハ單ニ收用審査會ノ損失補償ノ裁決ヲ爲スニ當リ遵守スヘキ標準ヲ定メタルニ過キササルモノト解スヘク而シテ審査會ノ裁決中補償金額ノ決定ニ對スル不服ノ訴ヲ規定シタル同法第八十二條ニハ單ニ補償金額ノ決定ニ對シ不服アル者ハ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得ト規定シ何等ノ制限ヲ爲ササルヲ以テ意見書ノ不提出ハ毫モ同條ノ訴提期ノ妨ケト爲ルヘキモノニアラス(昭和三(ホ)第六九七號同(ホ)第七五九號四、九、二七、東控民三)〔第二一〇號、四八八頁〕

四 土地收用法第二五條第五〇條ノ趣旨並土地收用ノ性質(同上)

土地收用法第二十五條ノ規定カ一定ノ期間内ニ土地所有者及關係人ニ意見書ノ提出ヲ爲シ得ヘキコトヲ規定シタルハ之等ノモノヲシテ裁決前收用土地ニ付キ自己ノ利益ヲ主張スル機會ヲ與ヘタルニ過キスシテ意見書ヲ提出スルト否トハ固ヨリ之等ノモノノ自由ニ屬ス從テ之カ提出ナキ場合ト雖モ收用審査會ノ自カラ正當ナリト信スル所ニ從ヒ裁決ヲ爲スヘキモノナルト同時ニ該裁決ニ不服アルモノハ同法第八十二條ノ規定ニヨリ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得ヘク而モ同條ニ依レハ右不服ノ訴ヲ提起シ得ルモノニ關シ前記意見書ノ提出ヲ爲サザリシ者ヲ除外シタリト認ムルヲ得サルヲ以テ此者ト雖モ右不服ノ訴ヲ提起シ得ルモノト解スルヲ相當トス
土地收用法第五十條ハ殘地部分ニ關スル收用擴張請求權ヲ認メタル規定ニシテ其權利ノ行使ハ收用審査會ノ裁決ノ時迄ニ之ヲ爲スヘク而テ若シ當事者間ニ於テ收用ニ付協議調ハサルトキハ收用審査會ノ裁決ヲ俟テ始メテ收用ノ效果ヲ生セシムルコトヲ得ルモノト謂フヘク更ニ該裁決ノ補償金額ニ對シ不服アル場合ニ於テハ同法第八十二條ノ規定ニヨリ通常裁判所ニ出訴スルコ

トヲ得ルモノト解スヘキコトハ同法第四章及第七章等ノ規定ニ照シ明カナリトス土地收用ハ公共事業ノ爲メ私人ノ土地所有權ヲ剝奪シテ之ヲ其事業ノ起業者ニ賦與スル國家ノ行政處分ニ外ナラサルヲ以テ假令起業者ニ於テ之ニヨリ營業上ノ利益ヲ擧ケント欲シ該收用ノ申請ヲ爲シタレハトテ右土地收用者ハ商行爲ナリト謂フコトヲ得サルハ言ヲ俟タス(昭和四(ホ)第一〇六四號、五、六、二六、東控民二)〔第二四九號、六一二頁〕

五 土地收用ニ對スル意見書ノ不提出ト出訴權(第四十一條參照)

土地收用法第四十一條ハ收用審査會ノ爲シ得ヘキ審査裁決ノ範圍ヲ限定シタルモノニ外ナラス即土地所有者及關係人ヨリ同法第二十五條ノ規定ニ基キ意見書ノ提出アリタル場合ニハ收用審査會ハ損失補償額裁決ノ關係ニ於テハ一面起業者ノ申立ニ拘束セラレ其ノ申立タル額ヲドルコトヲ得サルト同時ニ他面土地所有者及關係人ノ申立ニ羈束セラレ其ノ申立タル額ヲ超エサル範圍ニ於テノミ適當ト認ムル損失補償額ヲ裁決シ得ル旨規定シタルモノト解スヘキモノトス、此故ニ損失補償額ニ付起業者ノミノ申立アリテ土地所有者及關係人ヨリ申立之ナキ場合ニハ起業者ノ申立タル額ヲ下ラサル限り收用審査會ハ其ノ適當ト思料スル額ニ於テ裁決シ得ルモノト謂フヘク從テ又同裁決ニ對シテ不服アルトキハ起業者ヨリハ勿論土地所有者及關係人ヨリモ常ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得ヘク同法第二十五條ノ意見書ヲ提出セサルコトハ敢テ右ノ出訴ヲ爲スノ妨ケトナラサルモノトス此ノコトハ同條ノ規定ハ土地所有者及關係人ニ對シ意見書提出ノ權能ヲ與ヘタルニ止マリ其ノ不提出ニ對シ何等失權ノ效果ヲ生セシムルノ趣旨ニ非ルコト文理上明ナルノミナラス同法第八十二條カ廣ク收用審査會ノ損失補償額決定ニ對シ不服アル

者ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ許シ毫モ第二十五條ノ意見書ヲ提出セサル土地所有者及關係人ノ出訴ヲ制限スルトコロナキニ徴シ疑ヲ容レズ (昭和四(オ)第一九二九號、五、五、二八、大民三) [第二二八號、二〇八頁]

六 土地收用ニ因ル損失補償義務ノ發生(第四十七條參照)

土地收用法第四十七條第四十八條ニ依レハ起業者ハ收用土地ノ相當價格ニ依リ其土地所有者ノ受クル損失ヲ補償スヘキモノニシテ該相當價格ニ依ル補償義務ハ右收用審査會ノ裁決ヲ俟タスシテ既ニ存在スルモノナルコト同法第二十三條第四十七條第四十八條等ニ依リ疑ヲ容レサルコトコロナリトス (昭和四(ネ)第一三七號、四、八、二四、東控民四) [第一九七號、三一九頁]

七 土地區劃整理ニ因ル移轉ト其損害ノ補償(同上)

行政廳又ハ公共團體カ土地區劃整理ヲ施行スル場合ニハ必要ニ從ヒ換地豫定地ヲ指定シテ土地區劃整理施行區内ニ存スル建物其他ノ工作物ノ所有者ニ對シ其移轉ヲ命スルコトヲ得ルモノニシテ此場合所有者又ハ占有者カ其移轉ニヨリ損害ヲ受ケタルトキハ其通常受クヘキ損害ニ限リ補償スヘク其損害ハ補償審査會ノ決定ヲ俟ツ迄モナク又補償ヲ受クル者カ其場所ヨリ退去シタルヤ否ヲ問ハス前記移轉命令ノアリタルトキハ直チニ發生スルモノト看ルヲ相當トス (昭和二(ワ)第一八三一號、五、五、二三、東地民七) [第二三一號、二六八頁]

八 土地收用後ノ價格ノ低落ト土地收用法第六十四條(第六十四條參照)

土地收用ニ付收用審査會ノ裁決アリタル時ヨリ收用ノ時期ニ至ル迄ノ間ニ收用地ノ價格ニ變動

ヲ生シタル場合ニ於ケル收用ノ損失補償額ハ收用ノ時期ニ於ケル收用地ノ價格ヲ標準トシテ之ヲ定ムヘキモノナリ、而シテ土地收用法第六十四條ハ收用審査會裁決ノ後收用又ハ使用スヘキ土地物件カ滅失又ハ毀損シタル場合ニ關スル規定ニシテ收用審査會ノ裁決後ニ於テ收用地ノ價格カ低落シタルニ過キササル場合ニ適用スヘキモノニ非ス

土地收用法第四十一條ハ收用審査會カ裁決ヲ與フルニ當リ遵守スヘキ規定タルニ過キスシテ同法第八十二條ニ依ル訴ニ付其ノ不服申立ノ範圍ヲ制限シタル規定ニ非スト解スヘキモノトス (昭和三(オ)第三四五號、三、六、四、大民一) [第一六六號、三一二頁]

九 土地收用審査會ノ補助金額決定ニ對スル訴ト其ノ相手方(第八十二條參照)

土地收用法第八十二條ハ收用審査會ノ採決中補償金額ノ決定ニ對シテ不服アル者ハ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得ヘキ旨及該訴訟ハ收用審査會ニ對シテ之ヲ提起スルコトヲ得サル旨ヲ定メタルニ止リ其ノ所謂不服者トシテ右訴訟ヲ提起シ得ヘキ者ハ何人ナリヤ及該訴訟ニ於テハ何人ヲ以テ被告ト爲スヘキモノナリヤヲ明示セス、適子之ヲ明示セスト雖當該收用ニ於ケル被收用地所有者カ該訴訟ヲ提起シ得ヘキコトハ固ヨリ疑ナク其ノ被收用地所有者カ原告タル場合ニ於ケル該訴訟ノ被告カ之ニ對スル補償金支拂義務者タルヘキコトモ亦多ク論スルヲ須ヒス、蓋前叙決定ニ付被收用地所有者ト相反ノ利害ヲ有スル者ハ之ヲ措テ他ニ復タ在ルコト無キヲ以テナ

リ
而シテ道路法第十一條第十七條第二十條ニ依レハ國道ハ國ノ營造物ニシテ國ノ行政機關タル府縣知事之カ管理者ト爲リ其ノ新設改築維持修繕ヲ爲スヘキモノナルコト明ナルヲ以テ國道ニ關

スル事業ノ爲ニ土地ヲ收用セムトスル場合ニ於テハ右資格ニ於ケル府縣知事其ノ起業者タルヘキコト勿論ニシテ從テ該資格ニ於ケル府縣知事ハ被收用地所有者其ノ他關係人ノ受ケタル損失ヲ補償スヘキモノナルコト土地收用法第二條第四十七條第六十二條第六十二條等ニ依リ明ナリトス、然レトモ主トシテ軍事ノ目的ヲ有スル國道其ノ他主務大臣ノ指定スル國道ノ新設又ハ改築ニ要スルモノノ外國道ニ關スル費用ハ當該道路ノ管理者タル行政廳ノ統轄スル公共團體ノ負擔トスルコトハ道路法第三十三條第二項ノ明定スルトココナルト共ニ國道ノ管理者カ府縣知事ナルコトハ前叙ノ如クナルヲ以テ前掲特殊ノモノヲ除クノ外國道ニ關スル費用ハ當該府縣ノ負擔タルヘキコト言テ俟タス、而シテ右規定ニ所謂公共團體ノ負擔トストハ公共團體ヲ以テ費用金ノ支拂ヲ受クヘキ權利者ニ對スル直接ノ支拂義務者ト爲スノ趣旨ニシテ之ヲ以テ管理者タル府縣知事即之ニ依リテ代表セラルル國ニ對スル義務者ト爲シ一旦公共團體ヨリ國ニ支拂ヲ爲サシメ更ニ國ヨリ如ト權利者ニ對シテ支拂ヲ爲スコトヲ要スルカ如キ關係ヲ認メタルモノニ非スト解スルヲ相當トス

又右規定ハ國道ニ關スル事業ノ爲ニスル土地收用法上ノ起業者ノ補償金支拂義務ヲ排除スルノ趣旨ニアラサルコト勿論ナレハ國道ニ關スル事業ノ爲ノ土地收用法ニ依リ土地ヲ收用スル場合ニ於テハ起業者タル府縣知事即之ニ依リテ代表セラルル國カ被收用地所有者ニ對スル補償金支拂義務者タルハ勿論公共團體タル府縣モ亦同様義務者ナリト謂ハサルヲ得サルト共ニ前叙訴訟ニ於テ是等義務者ヲ總テ共同被告ト爲スコトヲ要スト爲スノ理由存セサルヲ以テ被收用地所有者ヨリ前叙訴訟ヲ提起スルニ當リテハ起業者タル國ノ行政機關タル府縣知事ヲ以テ被告ト爲スノ不可無キカ如ク公共團體タル府縣ヲ以テ被告ト爲スモ亦固ヨリ不可アルコト

ト無シ必スシモ前者ヲ以テ被告ト爲スヲ要セス又兩者ヲ以テ共同被告ト爲スノ要アルモノニ非ス (昭昭二(オ)第六八七號、五、一、二九、大民聯合) (第二一六號、六三三頁)

道 路 法

一 土地收用補償金ニ對スル不服ノ訴ト相手方 (第十一條參照)

國道擴張改修事業ノ爲ニスル土地收用法ニヨル收用ノ場合ノ起業者ハ道路法第十一條第十七條第二十條ニヨリ國ノ行政機關タル府縣知事タルコト極メテ明瞭ナリ又主トシテ軍事ノ目的ヲ有スル國道其ノ他主務大臣ノ指定スル國道ノ新設又ハ改築ニ當セサル國道ニ關スル費用ハ當該道路ノ管理者タル行政廳ノ統轄スル公共團體ノ負擔タルヘキコトハ道路法第三十三條第二項ノ定ムル所ナリトス、而シテ右ノ如ク土地收用法ニ依リ收用ノ場合ニ起業者ト費用ノ負擔トカ各別ニ存スルトキハ收用補償金額ニ對スル不服ノ訴ハ其ノ起業者タル府縣知事又ハ費用ノ負擔者タル當該府縣ノ何レヲ相手方ト爲スモ妨ナキモノトス (昭和三(オ)第一三五四號、五、五、二七、大民二) (第二三一號、二六一頁)

二 道路法第三十三條第二項ニ所謂道路ニ關スル費用ノ意義 (第三十三條參照)

道路法第三十三條第二項ニ所謂道路ニ關スル費用トハ單ニ該道路ノ管理者タル行政官廳カ道路ノ新設改築維持修繕等ヲ爲スニ付要シタル費用ヲ指稱シ損害賠償ノ如キハ之ヲ包含セサルモノト解スヘキモノトス (昭四(ウ)第二四四二號、四、一、二〇、東地民三) (第二〇四號、四四四頁)

地方鐵道法

八一四

一 地方鐵道法第一四條及一九條ノ法意(第十四條參照)

地方鐵道法第十九法第一項第一號ハ地方鐵道業者カ任意ニ工事施行ノ認可ヲ申請スヘキ期限迄ニ認可ヲ申請セサル場合ニノミ之ヲ適用スヘキモノニシテ地方鐵道業者カ同法第四條ニ依リ工事施行ノ認可申請期限內ニ申請期限ノ伸長ヲ申請シタル場合ハ其ノ申請ノ許否ナキ以上其ノ適用ヲ見サルモノト解スルヲ相當トス

地方鐵道法第十四條ニ於テ「地方鐵道業者ハ天災事變其ノ他己ムコトヲ得サル事由アル場合ニ限リ第十二條第二項ノ規定ニ依リ附セラレタル期限ノ伸長ヲ申請スルコトヲ得」ト規定シタルニ一面ニ於テ天災事變其ノ他己ムコトヲ得サル事由カ原因トナリ同法第十二條第二項ニヨリ免許ニ附スル期限內ニ監督官廳ニ對シ同法第十三條所定ノ書類及ヒ圖面ヲ提出シ工事施行認可ノ申請ヲ爲スコト能ハサルニ至リタル場合ニ限リ鐵道業者ニ期限伸長ノ申請權ヲ與フルト共ニ他面ニ於テハ苟モ右ノ因果關係ノ存スルトキハ其ノ申請ヲ許容シ期限ヲ相當ニ伸長スヘキ義務ヲ監督官廳ニ課シタルモノナリ故ニ此ノ場合ニ於ケル監督官廳ノ許否處分ハ孰レモ違法處分ニシテ自由裁量ノ處分ニアラス (大正一三、第一五八號、昭和四、二、二〇、行政裁一) (第一八五號、八五頁)

都市計畫法

一 都市計畫事業ノ主體ト補償義務者及執行費用負擔者(第三條參照)

都市計畫法第三條乃至第五條大正八年十一月二十八日勅令第四百八十二號都市計畫法施行令第一條乃至第七條同日勅令第四百八十三號都市計畫委員會官制ノ規定等ニ依レハ行政廳タル市長カ都市計畫事業ヲ執行スル場合ニ在リテモ其ノ事業ノ主體ハ即國ニシテ市ニ非サルコト明白ナリ乃テ市長ハ國ノ行政機關トシテ其事業ヲ執行スルモノトス而シテ都市計畫法第十六條第十八條ニ依レハ道路ニ關スル都市計畫事業ニシテ內閣ノ認可ヲ受ケタルモノニ必要ナル土地ノ收用ニ付テハ同法ニ特別ノ定アル場合ヲ除クノ外土地收用法ヲ適用スヘキモノナルカ故ニ同法ヲ適用スルニ當リテハ國ノ行政機關タル市長カ其ノ資格ニ於テ同法ニ所謂起業者ニシテ市カ其ノ起業者ニ非サルコト謂フヲ俟タス、然レトモ土地收用法第八十二條ニハ收用審査會ノ裁決中補償金額ノ決定ニ對シテ不服アル者ハ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得ヘキ旨定メタルニ止マリ其ノ所謂不服者トシテ右訴訟ヲ提起シ得ヘキ者ハ何人ナリヤ及該訴訟ニ於テハ何人ヲ以テ被告ト爲スヘキモノナリヤヲ明示セス適チ之ヲ明示セスト雖當該被收用地所有者カ該訴訟ヲ提起シ得ヘキコトハ固ヨリ疑ナク此ノ場合ニ於ケル被告カ補償金支拂義務者タルヘキコトモ亦多ク論スルヲ須ヒス蓋前叙決定ニ付被收用地所有者ト相反ノ利害ヲ有スル者ハ之ヲ措テ他ニ復在ルコトナキヲ以テナリ、而シテ國ノ行政機關タル市長カ其ノ資格ニ於テ起業者タルコトハ前叙ノ如クナルカ故ニ該資格ニ於ケル市長ハ被收用地所有者其ノ他關係人ノ受ケタル損失ヲ補償スヘキモノナルコト土地收用法第二條第十二條第四十七條第六十條第六十二條等ニ依リ明ナリトス、然レトモ都市計畫事業ノ執行ニ要スル費用ハ公共團體ヲ統轄スル行政廳之ヲ執行スル場合ニ在リテハ其公共團體ノ負擔トスルコトハ都市計畫法第六條第一項ノ明定スル所ニシテ都市計畫事業カ公共團體タル市ヲ統轄スル行政廳タル場合ニ於テハ市長之ヲ執行スル場合ナルカ故ニ其ノ執行

八一五

ニ要スル費用ハ市ノ負擔タルヘキコト言フヲ俟タス (昭和三(オ)第四一〇號、五、二、二五、大民二)
〔第二一三號、六四六頁〕

耕地整理法

一 耕地整理組合決議ノ効力發生時期 (第五十條參照)

耕地整理組合ヲ設立セント欲スル者ハ規約其ノ他ノ事項ヲ定メテ地方長官ノ認可ヲ受クヘキモノニシテ組合ハ此ノ認可ニ因リテ成立スルモノナルコトハ耕地整理法第五十條第五十一條ノ規定スル所ナルノミナラス同法第五十四條ニハ規約ヲ變更セントスルトキハ總會ノ決議ヲ經テ地方長官ノ認可ヲ受クヘキ旨規定シアルニ依リテ之ヲ觀レハ縱令組合ノ總會カ規約變更ノ決議ヲ爲スモ未タ地方長官ノ認可ナキ間ハ規約變更ノ効力ヲ生セサルモノニシテ從テ其ノ決議事項ニ贊成セサリシ者ハ勿論之ニ贊成シタル者ト雖組合ニ關スル權利義務ノ關係ハ一ニ從前ノ規約ニ從フヘキヤ明カナリ (昭和四(オ)第一〇八一號、五、二、一五、大民三) 〔第二一九號、三五頁〕

産業組合法

一 組合出資求請權ノ讓渡 (第十八條參照)

産業組合法第十八條ニ於テ組合員ハ組合ニ拂込ムヘキ出資額ニ付相殺ヲ以テ組合ニ對抗スル

コトヲ得スト規定セルハ組合ノ資力ノ充實ヲ保護センカ爲ニシテ組合カ其ノ出資請求ノ債權ヲ無償ニテ又ハ額面未滿ノ對價ヲ得テ讓渡スルカ如キハ明ニ同法ノ精神ニ反シ許スヘキモノニ非ス、其ノ他同法第十六條ノ二、第十六條ノ四、第十六條ノ五第二號、第二十九條第一項、第二十九條ノ二第三號ノ各規定ニ徵スルモ亦同様ニ解スヘキモノトス、唯出資請求ノ債權ヲ例ヘハ其ノ額ト同額又ハ其ノ以上ノ代金ノ支拂ヲ現實ニ受ケテ讓渡スルカ如キ場合ニ如リテハ、恰モ全額ノ拂込アリタルト同一視スルコトヲ得ヘク敢テ組合資力ノ充實ヲ保護セントスル法律ノ精神ニ反スルコトナク有效ニ之ヲ爲シ得ヘキモノナルモ凡ソ債權ノ讓渡ヲ受クルニ當リ額面ト同額又ハ其ノ以上ノ對價ヲ現實ニ支拂フカ如キコトハ寧稀有ノ事例ニ屬スルモノトス (昭和二(オ)第九八三號、三、四、大民三) 〔第一四九號、五四頁〕

畜産組合法

一 大正四年法律第一號畜産組合ノ法性及總代會議員選舉ノ性質 (第三條參照)

大正四年法律第一號畜産組合法第三條ニ依レハ畜産組合ハ畜産上ノ改良發達ヲ圖リ組合員ノ利益ヲ増進スルヲ以テ目的トスル法人ニシテ同條及同法第十一條第九條ニ依レハ畜産組合ノ事業ハ主トシテ畜産ニ關スル國家ノ事務ニ屬スルモノト認メ得ヘシ加之國家ハ畜産組合ニ對シ同法第三十七條ニ依リ右組合ノ議決ノ取消議員若ハ評議員ノ改選ヲ命シ組長若ハ副長ヲ解任シ又ハ組合ノ業務停止若ハ解散ヲ命スルヲ得ヘク又同法第八條ニ依レハ一定ノ地域内ノ有資格者ハ法律上當然組合員タルヲ原則トシ同法第十三條ニ依レハ組合經費ノ滯納者ニ對シ市町村ハ市町村

税ノ例ニ依リ之ヲ處分シ得ル等本法ノ全趣旨ニ徴スルトキハ國家カ公共ノ福利ヲ増進スル爲畜
産組合ノ存在ヲ認メタルモノニシテ同組合ハ公法人タルノ性質ヲ有スルコト明ナリ而シテ畜産
組合總代會ハ本法第二十四條ニ依リ組合ノ決議機關タル總會ニ代リテ畜産組合ノ事務ヲ決議ス
ルモノナレハ右總代會議員ノ選舉ノ公選タルヤ言テ俟タス (昭和四(九)第七〇一號、四、八、二七、
大刑一) (第二〇三號、四一八頁)

二 畜産組合ノ法律上ノ性質ト役員選舉 (同上)

畜産組合法ニ依リ設置スル畜産組合ハ之ヲ公法人ト解釋スヘキモノナルヲ以テ本法ニ依リ設置
セラレタル産馬畜産組合モ亦公法人ト解スヘキモノナルカ故ニ其ノ役員ノ選舉ヲ舊刑法第二百
三十四條ノ公選ニ該當スルモノトシテ處斷スルハ不當ニ非ス (昭和四(九)第九三〇號、四、一〇、一
〇、大刑五) (第二〇二號、三九七頁)

三 畜産組合ノ法性 (第十三條參照)

大正四年法律第一殘畜産組合法ノ諸規定ヲ通覽スレハ該組合ノ經費又ハ過怠金ノ滯納者ニシテ
市町村税ノ例ニ依リテ之ヲ徵收スルコトヲ得ルモノトスル規定(本法第十三條)其ノ他ニ徴シ同
法ノ趣旨ハ畜産組合ヲ以テ公法人ナリトスルニ在ルコトハ既ニ當院判例ノ示メトコロナリ(昭
和四年第九七〇一號同年八月二十七日)若畜産組合ノ本來ノ目的ニ照シ宣法上ノ問題トシテ考
察スルトキハ斯ル組合ヲ以テ公法人トスルコトノ當否ニ付テハ論議ノ餘地甚大ナルモノアルヘ
シト雖成法ニシテ前示ノ如クナル以上其ノ解釋ニ付テハ前掲判例ヲ維持スヘキコト固ヨリ當然

ナリトス (昭和四(九)第一三六七號、五、四、七、大民一) (第二二五號、一四八頁)

家畜市場法

一 家畜市場法第七條ト牛馬商ノ周旋 (第七條參照)

牛馬商カ市場開催日ニ際シ家畜市場附近ノ區域内ニ於テ牛馬ノ賣買ノ周旋ヲ爲スモ家畜市場法
第七條第一項第十八條ノ正犯トシテ處斷スヘキモノニ非ス蓋シ家畜市場法第七條第一項ニハ單
ニ賣買交換ヲ禁止スル旨ノ文辭アルニ過キスシテ特ニ其ノ周旋ヲ許ササル旨ノ明文存セサルノ
ミナラス明治四十三年中該法ト前後シテ公布セラレタル牛馬商取締規則ニハ先ツ牛馬商ナルノ
ヲ以テ牛馬ノ賣買交換又ハ其ノ周旋ヲ爲スモノト規定シ尙其ノ數箇條ニ牛馬ノ賣買交換又ハ
其ノ周旋ナル支字ヲ併用シ牛馬商ノ行爲トシテ明カニ賣買行爲及交換行爲ト其ノ周旋行爲トヲ
區別シ且之ヲ併用シ處罰法規ヲ規定シ居ル事蹟ニ徴スルモ立法者ハ文字ノ用法上明カニ賣買行
爲及交換行爲以外ニ其ノ周旋行爲ヲ認識區別シテ規定シタルコトヲ窺知スルニ難カラサレハナ
リ (昭和五(九)第二五七號、五、四、一四、大民二) (第二二四號、一三五頁)

擔保付社債信託法

一 擔保付社債權者ノ債務者ニ對スル單獨請求權 (第二十三條參照)

擔保附社債信託法ノ規定ハ信託契約ニ基ク物上擔保權ノ保存實行ニ依リ社債ノ募集償還ヲ容易ナラシムルコトヲ主眼トシ同法中社債ノ實體ニ關スル規定ヲ缺クヲ以テ社債權自體ハ原則トシテ民法商法ノ規定ノ適用ヲ受クヘキモノニシテ擔保附社債權者ト雖擔保ニ關スル事項ヲ除キテハ債權者トシテ其ノ權利ヲ行使スルニ付制限ヲ受クルモノニ非ス、從テ債務者タル委託會社ニ對シ債權者トシテ單獨ニ社債ノ償還ヲ請求シ得ヘキモノトス

擔保附社債券ハ委託會社ト受託會社トノ間ニ成立シタル信託契約ニ基キテ發行セラレ之ヲ取得シタル社債權者ハ總テ右信託契約ノ受益者ナルコト疑ナク受託會社ハ總社債權者ノ爲ニ擔保權ヲ保存シ且實行シ總社債權者ヲシテ擔保ノ利益ヲ享受セシムル義務ヲ負ヒ總社債權者ハ共同スルニ非サレハ受託會社ヲシテ擔保權ノ保存實行ヲ爲サシムル權利ヲ有セサルコト擔保附社債信託法ノ規定ニ徴シ明白ナルモ是レ擔保ニ關スルモノナリ社債權者カ敢テ擔保權實行ヲ爲スニ非スシテ單ニ辨濟ヲ求ムルニ當リテハ單獨ニ其ノ權利ヲ行使スルノ妨ト爲ルモノニ非ス又受託會社ハ信託契約上特別ノ委託ニ依リ社債ノ募集ニ關スル一切ノ手續ヲ爲シタル場合ニハ自ラ社債ノ償還及利息ノ支拂ニ關スル一切ノ行爲ヲ爲シ得ヘク(擔保附社債信託法第二十三條)信託契約ニ禁止セサル限リハ總社債權者ニ代ハリテ債權ヲ取立ツルコトヲ得ヘク(同法第八十四條)社債權者集會ノ決議ヲ經テ訴訟行爲又ハ破産手續ニ屬スル行爲並總社債ニ付支拂ヲ猶豫シ不履行ニ因リテ生シタル責任ヲ免除シ又ハ和解ヲ爲シ得ヘシ(同法第八十六條第八十五條)ト雖此等ノ規定ハ受託會社カ信託契約上ノ受信者タル地位ニ附隨シテ便宜上委託會社若ハ社債權者ニ代リテ受託會社ノ爲シ得ヘキ權能ヲ定メタルモノニシテ之ヲ以テ社債權者各自カ個別ノ權利ヲ行使スルニ付共同スルコトヲ必要トシ訴訟行爲ニ出ツルコトヲ禁止シタル趣旨ト解スヘキニ非

ス(昭和三(オ)第六九五號、三、一一、二八、大民三)〔第一七八號、五一八頁〕

二 擔保附社債信託法ト社債權者ノ權利行使(第八十四條參照)

擔保附社債信託法ニ社債權者カ單獨ニ其債權ヲ行使スルコトヲ禁止シタル規定存スルコトナク同法第八十四條ノ規定ヲ見ルモ开ハ受託會社カ信託契約ニ別段ノ定ナキトキニ社債權者ノ爲ニ債權ノ辨濟ヲ得ルニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有スト謂フニ在リテ受託會社ノ權限ヲ定メタルモノニスキスシテ固ヨリ之ニヨリテ社債權者ノ權利ノ行使ヲ制限若クハ禁止シタルモノニアラスト解スルヲ相當トスヘク只信託契約ニ依ル擔保權ハ各社債權者ハ單獨ニ之ヲ實行スルコトヲ得サル旨ノ規定ハ存スレトモ之カ爲メニ單ニ社債權ノ辨濟ヲ求ムルコトヲ禁止シタルモノト解スルヲ得ス(昭和二(ホ)第一五五號、二、三、三〇、東控民三)〔第一五一號、八五頁〕

三 擔保附社債信託法第八四條乃至第八六條ト社債權者ノ權利(同上)

擔保附社債信託法第八十四條乃至第八十六條ニ於テ受託會社ニ對シ各種ノ權限ヲ附與スト雖モ右規定ハ敢テ各社債權者カ單獨ニ社債ノ擔保トシテ設定セラレタル抵當權ニヨラスシテ委託會社ヨリ債權ノ辨濟ヲ得ルニ必要ナル行爲ヲ爲ス權利ヲ剝奪シタルモノニアラサルモノト解セサルヘカラス(昭和四(カ)第九〇七號、四、六、二六、東地民一〇)〔第一九二號、二一九頁〕

四 受託會社ト社債金額辨濟ノ受領(同上)

擔保附社債信託法第八十四條及第八十八條ニ依レハ信託契約ニ別段ノ定メナキ限り受託會社ニ

於テ社債權者ノ爲ニ辨濟ヲ受クヘキ權限アルモノトス無記名式社債權者タル所持人カ償還ヲ受クル際引換ラルヘキモノナルヲ以テ受託會社カ豫メ個々ノ社債權者ヨリ其所持スル社債券ノ交付ヲ受ケ之ト引換ニ委託會社ヨリ社債金額ノ辨濟ヲ受クルカ如キハ事實上不能ノ事ニ屬スルモノト謂フヘク從ツテ此場合ニ在リテハ受託會社ハ社債券ト引換ニアラサルモ社債權者ノ爲ニ委託會社ヨリ社債金額ノ辨濟ヲ受ケ得ヘキモノト解スルヲ相當トス (昭和四(ワ)第一五三號、五、三一、九、東地民一四)〔第二一六號、六五〇頁〕

銀行條例

一 爲替手形取引契約ニ於ケル付替承諾ト錯誤ノ有無並銀行業者ト休業時期 (第六條參照)

爲替手形取引契約ニ於テ付替ハ承諾ノ答報ノ到達シタルトキニ其起算日ヨリ效力ヲ生スヘキ旨ノ約款アルトキト雖法律行爲ノ要素ニ錯誤アリヤ否ヤハ法律行爲成立ノ時期ヲ標準トシテ判斷スヘキモノニシテ其效力發生ノ時期ヲ標準トスヘキニアラサルヲ以テ其付替ノ承諾ヲ爲スニ付錯誤アリシヤ否ヤハ專ラ承諾ノ答報ヲ發シタルトキヲ標準トシテ之ヲ判斷スヘキモノトス 銀行條例第六條第一項ノ規定ハ銀行業者カ其營業時間ヲ同條項所定ノ時間以內ニ短縮スルコトヲ禁スルノ趣旨ニ出テタルモノニシテ固ヨリ營業時間ノ延長又ハ營業時間外ノ取引ヲ禁スルモノニアラサルコト同條第二項第七條及立法ノ趣旨ニ照シ疑ナキトコロナルヲ以テ營業時間外ニ

於ケル契約ノ締結其他業務ノ執行固ヨリ可能ナルモノト謂フヘク銀行業者カ休業シタルヤ否ヤハ其營業時間ヲ限界トシテ定ムヘキニアラスシテ現實ニ休業シタル時ヲ以テ標準ト爲ササルヘカラス (昭和二(ナ)第二〇八號、四、二、二〇、福岡地民一)〔第一八四號、六五頁〕

二 銀行條例第六條ノ解釋(同上)

銀行條例第六條第一項ノ規定ハ銀行業者カ其ノ營業時間ヲ同條項所定ノ時間以內ニ短縮スルコトヲ禁スル趣旨ニ出テタルモノニシテ固ヨリ營業時間ノ延長又ハ營業時間外ノ取引ヲ禁スルモノニ非サルコト同條第二項第七條及其ノ立法ノ趣旨ニ照シテ毫モ疑ナキ所ナリ (昭和四(ア)第一六四號、五、二、一五、長控民一)〔第二一二號、六三五頁〕

信託法

一 信託ノ目的ヲ以テセル手形ノ裏書讓渡ト信託法第三條第二項(第三條參照)

信託財産ハ信託ノ目的ヲ達スヘキ資料ナルヲ以テ之ヲ受託者ノ有ニ歸セシメタル場合ニ於テモ右財産ハ受託者固有ノ資産状態ノ影響ヲ受ケサルモノト爲スニアラサレハ信託究極ノ目的ヲ遂クルヲ得サルモノナルヲ以テ信託法ハ其ノ第十四條乃至第十八條等ニ於テ信託財産ヲ受託者ノ固有財産ト區別シテ取扱フ可キコトヲ命シタルモ受託者ニ屬スル或財産カ信託財産ナルヤ將固有財産ナルヤハ第三者ヨリ之ヲ見レハ其ノ限界必スシモ明瞭ナラサルヲ常トシ總テノ信託財産ヲ受託者ノ財産ト認メ得サルモノト爲ストキハ其ノ信託財産ナルコトヲ知ラサル第三者ハ兩者

ノ紛淆ニ依リ不測ノ損害ヲ被ルコトナキヲ保セサルカ故ニ信託法ハ信託財産中ノ或種ノモノニ付此ノ區別ヲ外形的ニ明白ナラシムルト共ニ外形上明ナルモノニ就テノ其ノ信託財産ナルコトヲ第三者ニ對抗シ得キモノト爲サンコトヲ期シ其ノ第三條ヲ規定シタルモノナルヲ以テ同條第二項ニ於テ有價證券ニ付テハ信託證券ニ信託財産ナルコトヲ表示スルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得スト規定シタルノ意ハ單ニ有價證券カ信託財産ナルトキハ證券ニ其ノ表示ヲ爲スニ非レハ信託當事者ハ其ノ證券ニ關シ信託財産トシテ前記各法條所定ノ如キ特別ノ取扱ヲ對世的ニ主張シ得スト云フニ止マルモノト解釋スルヲ相當トシ從テ同條項ハ信託ノ目的物タル有價證券ノ表示スル權利ノ實行トハ何等ノ交渉ヲ有セサルモノナルカ故ニ彼ノ受託者カ委託者ヨリ信託ノ目的ヲ達スルカ爲裏書讓渡ヲ受ケタル手形上ノ權利ヲ手形債務者ニ對シ行使スルカ如キ場合ニ其ノ適用ヲ見ル可キモノニアラサルヤ旨ヲ俟タス (昭和四(オ)第一〇五三號四、一、二七、大民三) (第二一號、六一〇頁)

貯蓄銀行條例

一 貯蓄銀行條例第一條第二項第二號及第三號ノ法意 (第一條參照)

明治二十三年法律第七十三號貯蓄銀行條例第一條第二項第二號及第三號ノ規定ハ貯金ヲ容易ナラシム爲定期ニ又ハ一定ノ期間内ニ數回ニ亙リテ金錢ノ受入ヲ爲スコトヲ以テ其ノ本旨ト爲スモノナレハ一時ニ或金額ヲ受入レ拂戻ヲ數回ニ亙リテ之ヲ爲ス場合ノ如キハ右規定ニ包含セラ

レサルモノト解スヘキモノトス (昭和四(オ)第七八九號、四、一一、一六、大民三) (第二一二號、六三〇頁)

無盡業法

一 無盡業者ノ營業地域外ニ於ケル無盡契約ノ效力 (第一條參照)

無盡業法ニ依レハ無盡業ハ一定ノ營業區域内ニ於テ營業スルコトヲ要シ之ニ違反シタル場合ニハ千圓以下ノ過料ヲ課セラルヘシト雖之カ爲ニ營業區域外ニ於テ爲サレタル無盡契約其ノモノヲ以テ直ニ無効ナリト論スルハ當ラス蓋無盡業法ニ所謂無盡契約ナルモノハ同法第一條ニ依レハ一定ノ口數ト給付金額トヲ定期ニ掛金ヲ拂込マシメ一口毎ニ抽籤入札其ノ他類似ノ方法ニ依リ掛金者ニ對シ金錢ノ給付ヲ爲スカ又ハ叙上ト類似ノ方法ニ依リ金錢又ハ有價證券ノ給付ヲ爲スコトヲ以テ其ノ内容ト爲スモノニシテ當該契約成立地域ノ異ルニ從ヒ其ノ性質ニ異同ヲ來スヘキ理由アルコトナク賭博又ハ富籤ニ類似スル場合ハ格別然ラサル限り營業區域外ノ契約ナルノ故ヲ以テ公序良俗ニ反スル行爲ト解シ難キコト前陳ノ如キ内容ノ契約ナルニ照シ明ナルノミナラス又無盡業法カ叙上ノ如ク無盡業ニ付其營業區域ヲ制限シ區域外ニ於ケル營業ヲ禁スル所以ノモノハ一面ニ於テ行政監督上ノ便宜ヲ考慮シタルト他面ニ於テ無盡業者相互ノ間ニ生スヘキ無益ナル競争ヲ遮止スルノ意圖ニ出テタルモノニ外ナラスシテ營業區域外ノ無盡契約其ノモノノ私法上ノ效果發現ヲ抑遏スルノ趣旨ニアラサレハナリ故ニ營業區域外ノ契約其ノモノヲ以テ無効ナリト解スヘカラサル以上ハ之ニ基キテ爲ス掛金拂込請求ノ正當ナルヤ勿論ニシ

テ毫モ信義誠實ノ原則ニ悖ルモノニ非ス (昭和四(オ)第一〇二九號、四、二二、二二、大民三)「第二
一〇號、四八三頁」

有價證券割賦販賣業法

一 有價證券割賦販賣法第七條ノ趣旨(第七條參照)

有價證券割賦販賣業法第七條ニ所謂會社財産ヲ以テ其債務ヲ完済スルコト能ハサル場合ハ同條
ニヨリ各取締役ハ割賦販賣契約ニ基ク會社ノ債務ニ付キ連帶シテ其債務ノ辨濟ノ責ニ任スルヲ
要シ右取締役ノ責任ハ其退任登記後二箇年間仍ホ存続スト雖モ取締役ノ右責任ハ比較的多數ノ
契約者ノ資金ヲ保管シ有價證券ヲ取得セシムルヲ其事業ノ對象トスル有價證券割賦販賣ヲ營ム
株式會社ニ對シ契約者ノ利益ヲ確保センカ爲メ設ケラレタル規定ニ基ク責任ナレハ一旦會社ノ
義務トシテ成立セル割賦販賣契約ニ基ク債務ヲ會社ニ於テ完済スル能ハサルトキハ各取締役任
當時迄ニ成立セル債務ニ付取締役ヲシテ連帶シテ之ヲ履行ノ責ニ任セシメ其退任登記モ右立法
ノ趣旨ヲ貫徹セシメンカ爲メ二箇年間其責任ヲ存続セシメタルモノナルカ故ニ各取締役ハ其在
任中生シタル割賦販賣契約ニ基ク債務ニ付テノミ右期間從タル債務者トシテ其履行ノ責ニ任ス
ヘキモノト解スルヲ相當トス (昭和二(ワ)第二七〇六號同(ア)第四〇〇號、三、一一、二八、東地民
一〇)「第一七五號、四七二頁」

二 有價證券割賦販賣業法第七條ノ取締役連帶責任ノ範圍(同上)

有價證券割賦販賣業法第七條カ會社ノ取締役ヲシテ會社ノ債務ニ付連帶債務ヲ負擔セシメタル
ハ單ニ會社ノ爲シタル販賣契約ノ履行ノミヲ確保センカ爲メノ目的ニ出テタルモノニアラス廣ク
買入契約者カ會社ノ債務不履行ノ爲被ル可キ損失ヲ防止シ以テ買入契約者ノ地位ヲ保護セント
スル趣旨ナルヲ以テ右法條ニ割賦販賣契約ニ基ク會社ノ債務ト云フハ販賣契約上ノ債務ソノモ
ノハ勿論販賣契約ノ不履行ニ基クシテ民法上當然認メラレタル損害賠償義務或ハ原狀回復義務
ノ如キ固ヨリ之ヲ包含セルノ意ナリト解スルヲ相當トス (昭和五(オ)第七五號、大民一)「第二二
七號、一八七頁」

取引所法

一 取引所法第一七條第二項ニ所謂資金ノ意義(第十七條參照)

取引所法ハ其ノ第十七條第二項ニ株式會社組織ノ取引所ノ役員又ハ使用人ハ其ノ取引所又ハ之
ト同種ノ物件ヲ取引スル取引所ノ取引員トノ間ニ資金ノ供與損益ノ分配其ノ他取引員ノ營業ニ
付特別ノ利害關係ヲ有スルコトヲ得スト規定シ同第三十一條ニハ第十七條第二項ノ特別ノ利害
關係ヲ生スルコトヲ目的トスル行為ヲ爲シタル者ヲ處罰スル旨ヲ規定セルカ故ニ株式會社組織
ノ取引所ノ役員ニシテ其ノ取引所ノ取引員ニ營業ノ資金ヲ供與スルニ於テハ第三十一條ノ制裁
ヲ免カルコトヲ得サルヤ明ナリ而シテ營業ノ資金トハ獨リ運轉資金ニ盡ワラス取引員ノ取引
所ニ納付スヘキ身元保證金ヲモ包含スルモノト解スル妥當トス蓋シ身元保證金ハ取引員カ營業
ノ開始及繼續ニ付必要ナル資本ニ外ナラサレハ第十七條ノ資金ニ該當スルコト疑ナクハナリ

(昭和三(九)第一七三號、三、七、二一、大刑三)〔第一七一號、三九二頁〕

二 取引所員カ取引所ニ對シテ差入ルル所謂補充金ノ性質(同上)

東京米穀商品取引所員カ同取引所ニ對シテ差入ルル所謂補充金トハ取引員ノ身元保證金返還請求權ニ對シテ他ノ債權者ヨリ假差押又ハ強制執行アリタル場合ニ其缺陷ヲ補充セシムル爲メ取引所カ當該取引所員ヲシテコレニ相當スル金額ヲ取引所ニ對シテ差入レシムルモノナルヲ以テ該金員ハ從來ノ身元保證金ト一體ヲ爲シ其性質ハ固ヨリ身元保證金ト同一ナリトス (大正一五(ホ)第七二六號、昭和四、六、二七、東控民四)〔第一八九號、一六二頁〕

三 取引所法第二百二十五條規定ノ趣旨ト解合(第二百二十五條參照)

解合ハ取引所ノ相場ニ異常ノ變調ヲ來シ其ノ受渡不能ニ陥ルヘキ場合ニ於テ解合値段ニヨリテ既存ノ建玉ヲ轉賣買シ一齊ニ決済スルコトヲ謂フモノナレハ非常時ノ手段トシテ取引員全員カ右ノ如キ事項ヲ目的トスル契約ヲ爲スコトノ有效ナルハ勿論ニシテ株式會社東京株式取引所業務規程第三十二條ハ解合ニ關スル取引結了ノ方法ヲ規定シタルモノナリ故ニ右第三十二條ノ趣旨ニ徵シ取引員全員ノ總解合ノ決議ヲ爲シ取引所ノ承諾ヲ得タル時ハ茲ニ解合ノ效力發生シ現實ニ轉賣買ヲ爲サシテ直ニ轉賣買アリタルト同一ノ效果ヲ生スルモノニシテ取引所法第二百二十五條ノ原則ニ對シ解合ハ其ノ例外ニ屬スルモノニシテ解合ニ付テモ現實取引ヲ強制スル趣旨ト解スルヲ得ス (昭和三(マ)第三三八四號、五、一二、二〇、東地民七)〔第二四七號、五八〇頁〕

東京手形交換所規則

一 東京手形交換所規則第四十二條規定ノ趣旨(第四十二條參照)

東京手形交換所規則第四十二條ノ規定ハ振出銀行ヲシテ急速ニ不渡手形ヲ取得セシメ次テ速ニ交換ニヨラスシテ直接手形上ノ權利ヲ行使スルコトヲ得セシメントスルヲ其趣旨トスルモノナレハ代リ金ノ請求ニハ現實ニ手形ヲ返還スルコト及其返還ハ午後三時迄ニ爲ササルヘカラサルコトヲ絕對ノ要件トシタルモノト解スルヲ相當トス (昭和三(マ)第三三二八號、五、一二、一六、東地民九)〔第二四五號、六三〇頁〕

醫師法施行規則

一 開業醫ノ専門外ノ疾患ト不應需罪(第九條ノ二參照)

開業醫カ醫療ノ需ニ應セザリシ事由カ其ノ業務ノ範圍ニ屬スル醫癘ニ付經驗ヲ有セサルコト並ニ醫療ニ因リテ生スヘキ結果ニ對スル危懼ノ念ニ因ルモノニシテ之ヲ良好ナル設備ヲ有スル病院ノ其附近ニ存在シ且其ノ病院ニ於ケル醫療カ其ノ效ヲ奏シタルトキハ假令患者ニ對スル醫療ヲ加ヘサル場合ト雖他ニ事情ノ存セサル限り正當ノ事由ナクシテ醫療ヲ拒ミタルモノト云フヲ得ス (昭和二(九)第一八八九號、三、三、二、大刑一)〔第一四六號、一二頁〕

獸醫師法

一 獸醫師ノ應招義務(第六條參照)

獸醫師タル被告人カ或者ヨリ其ノ所有病馬ノ診療ヲ求メラレタル場合ニ於テ其病馬所有者カ產畜組合ニ對シ滯納シ居レル藥價金ヲ被告人ノ兄某ニ於テ之カ徵收ノ責務アリタル關係上被告人ハ之ヲ督促シ即時之カ支拂ヲ爲ササル於テハ診療ヲ爲ササルヘキ旨ヲ告テ若病馬ノ診療ヲ爲ササリシハ他人ニ對スル債務不拂ヲ理由トシテ自己ノ獸醫トシテ爲スヘキ診療ヲ拒ミタルニ歸シ何等正當ノ理由アリタルモノト云フヲ得サルハ勿論假リニ被告人ニ於テ右債權取立ノ委任ヲ受ケタリトスルモ他人ノ債權タルニ差異ナキモノト謂ハサルヘカラス蓋シ獸醫師法第六條ノ規定ハ獸醫師ニハ其ノ業務ニ關スル應招義務アルコトヲ認メ只タ正當ノ事由アル場合ニ限り此ノ義務ヲ免除スル趣旨ニシテ正當ノ事由アルヤ否ハ社會通念ニ基ク道義上ノ價值判斷ニ委シタルモノト認ムヘキカ故ニ診斷治療ヲ求メタル者ノ他人ニ對スル債務ノ不履行ヲ以テ正當ノ事由アルモノト爲シ從テ應招ヲ拒ム行爲ノ違法ヲ否定スルモノト爲スコトヲ得サレハナリ又獸醫タルカ故ニ特ニ應招義務ニ付寬大ニ解セサルヘカラサル理由モアルコトナシ (昭和四(九)第六八七號四、八、一、大刑二) (第二〇四號、四三六頁)

藥劑師法

一 醫師ノ處方箋ト藥劑師ノ義務 (第十一條參照)

醫師ハ其診察シタル患者ニ交付スル處方箋ニ患者ノ氏名年齢藥名分量用法用量處方ノ年月日ヲ記入シ及署名又ハ捺印スヘキモノナルコトハ醫師法施行規則第九條ノ三ノ規定スルコトニシテ尙醫師ハ處方箋ニ之カ使用期間ヲ指定スルコトアルハ藥劑師法第十一條第一項但書ノ規定ヨ

リ推スモ明ナルトコロトス故ニ處方箋ニ當分特長ト云フカ如キ記載存スル場合ニ於テハ右記載ハ醫師カ該處方箋ノ使用期間ヲ指定シタルモノト見ルヲ相當トス故ニ醫師カ當分特長ト記載シ幾分長期間使用ヲ持續スヘキコトヲ指定シタル場合ニ於テ藥劑師カ四回ニ劇藥配伍ノ調劑ヲ爲シタルハ孰レモ處方箋ニ指定シタル期間ニ對スル全部ノ調劑ヲ了リタルモノニ非サルヲ以テ藥劑師カ其ノ都度遲滯ナク處方箋ニ調劑ノ年月日及調劑量ヲ記入シ記名捺印スヘキニ之ヲ怠リタルハ明ニ藥劑師法第十一條ニ違反スルモノトス (昭和三(九)第一七九九號、四、一、二五、大刑四) (第一七八號、五二七頁)

阿片法

一 所有權移轉ノ有無ト阿片第三條第二項 (第三條參照)

見本トシテ二奴ノ阿片ノ交付ヲ受ケタル場合ト雖尙ホ阿片ノ授受アリタル以上ハ其ノ目的カ見本ノ爲ナルト否ト所有權ノ移轉ニアルト否トハ問フ所ニ非サルヲ以テ右所爲ヲ阿片法第三條第二項ニ問擬スルハ正當ナリ (昭和四(九)第二九一號、四、五、一七、大刑一) (第一九七號、三一九頁)

鍼術灸術營業取締規則

一 灸術ノ意義 (第一條參照)

鍼術及術營業取締規則ニ所謂灸術ハ直接又ハ間接ニ艾ヲ皮膚ニ貼シ之ヲ灼キ因テ皮膚ニ火傷ヲ生セシメ若ハ單ニ身體ニ溫熱ヲ與ヘ以テ疾病ヲ治療スルノ術ヲ指稱ス (昭和四(九)第五四號、四、三、一五、大刑四) (第一八四號、六一頁)

畜牛結核病豫防法

一 畜牛結核病豫防法第四條ノ届出義務者 (第四條參照)

畜牛結核病豫防法第四條ニ於テ所有者管理者又ハ獸醫師ニ届出義務ヲ負ハシメタル所以ハ其ノ届出ノ確實ニ實行セラルルヲ要求スルニ出テタルモノニシテ義務者ノ一ヨリ届出ヲ爲シ其ノ要求ノ滿サレタルニ於テハ他ノ義務者ハ茲ニ其ノ義務ヲ免ルヘキモノ何人ヨリモ届出ヲ爲ササルニ於テハ同條所定ノ義務者ハ總テ義務違背ノ責ニ任スヘク或ル義務者カ他ノ義務者ニ於テ届出ヲ爲スヘシト信シタリトスルモ之カ爲ニ自己ノ義務違背ノ責ヲ免ルヘカラサルモノト解スヘシ (昭和五(九)第二三三號、五、五、一九、大刑二) (第二二八號、二一〇頁)

二 畜牛結核病豫防法第一七條ニ所謂検査妨害ノ意義 (第十七條參照)

畜牛結核病豫防法第十七條ニ所謂検査ノ妨害トハ検査ニ支障ヲ生セシムヘキ行爲ヲ云フモノニシテ苟モ一般的ニ検査ヲ誤ラシムルノ虞アル行爲ハ縱令具體的ニ検査ヲ誤ラシメ又ハ之ヲ誤ラシムル虞アルニ至ラサルモ尙之ニ該當スト解スルモノトス (昭和五(九)第二三三號、五、六、二六、大刑二) (第二三三號、三三九頁)

三 畜牛結核病豫防法施行規則第二四條ニ所謂期日ノ意義 (第二十四條參照)

畜牛結核病豫防法施行規則第二十四條第一項ニ所謂検査期日ハ同第四條各項ニ依リ告示又ハ指定セラルル検査期日ヲ云フモノニシテ同第五條ニ依リ指定セラルル日時ハ之ニ該當セスト解スヘキモノトス (昭和五(九)第二三三號、五、五、一九、大刑二) (第二二八號、二一〇頁)

鑛業法

一 鑛業法第七條ニ所謂代表者ト第三者ニ對スル關係 (第七條參照)

鑛業法第七條第一項ニ二人以上共同シテ鑛業ヲ爲シ又ハ爲サムトスルトキハ内一人ヲ選定シテ代表者ト爲シ鑛山監督署長ニ届出ヘシ其ノ届出ナキトキハ鑛山監督署長之ヲ指定スト定メ又同條第二項ニ代表者ハ國ニ對シ共同鑛業出願人又ハ共同鑛業權者ヲ代表スト定メタルニ由テ之ヲ觀レハ同法ハ鑛業ノ共同經營ニ關シ第三者トノ關係ニ於テ右代表者ノミテ權利義務ノ主體ト爲サムカ爲之ヲ選定セシムル趣旨ニ非サルコト明白ナリ而シテ鑛業登録令施行細則第三十九條ニ於テ共同鑛業權者カ登録ノ申請ヲ爲シタルトキハ試掘原簿又ハ採掘原簿ノ登録用紙ニ代表者ノミテ記載スヘキモノト爲シタルハ登録ノ便宜上共同鑛業權者全部ノ氏名ハ之ヲ共同人名簿ニ記載スヘキモノト爲シタルニ因ルモノナルカ故ニ鑛業原簿ニ代表者ヲ登録スルコトハ鑛業ノ共同經營ニ關シ右代表者ノミテ三者ニ對シ之カ責ニ任スヘキモノト爲スノ趣旨ニ出テタルニ非サルコト論テ俟タス (昭和五(九)第六號、五、四、二三、大民四) (第二二九號、二二八頁)

二 鑛業權者ト外部トノ取引關係(同上)

鑛業法規ニ徴スレハ鑛業權者ハ自身ニ又ハ鑛業代理人ヲ以テ鑛業ヲ管理スルコトヲ要シ其ノ鑛業權ヲ目的トシテ第三者ニ採掘ノ權利ヲ授與シ其ノ第三者ヲシテ鑛業ヲ管理セシムルコトハ鑛業法規ノ許ササルトコロナレハ若シ外部トノ取引關係アル場合ニ於テハ須ク該鑛業ニ關スル外部トノ取引ニ於テ鑛業權者タル名義又ハ其ノ鑛業代理人名義ヲ使用シタリヤ否ヤヲ審究セサルヘカラス (昭和四(オ)第一八一三號、五、五、三一、大民三) (第二三一號、二六五頁)

森 林 法

一 森林法第八三條ニ所謂「加工」ノ意義(第八十三條參照)

森林法第八三條ニ依レハ森林ニ於テ其ノ產物ヲ窃取シタル者ハ森林窃盜トシ云々ノ刑ニ處ス其ノ產物ニシテ人工ヲ加ヘタルモノニ係ルトキ亦同シト規定シアルヲ以テ森林内ニ發生セ育スル產物ニ加工シタル物ヲ其ノ森林内ニ於テ窃取シタル場合ニハ其ノ行爲ハ同條後段ニ該當スルコト疑フ容レス (昭和四(れ)第四一四號、四、五、二八、大刑四) (第一九六號、一九八頁)

漁業法施行細則

一 定置漁業ト無免許漁業者ノ責任(第五十八條參照)

定置漁業ニ付テハ漁業法第四條ニ依リ行政官廳ノ免許ヲ受クルコトヲ要シ之ヲ免許ヲ受ケントスル者ハ漁業法施行規則第二十二條、第二十三條ニ依リ漁場毎ニ出願スルコトヲ要シ其ノ願出ニハ漁場ノ位置及區域ヲ記載シタル漁場圖ヲ添付スルコトヲ要スルモノニシテ免許漁業ノ漁場トハ同規則第十六條第一號ニ依レハ定置漁業ニ在リテハ漁具ヲ建設シ又ハ敷設スル區域ヲ指稱スルモノナレハ漁業ノ免許ハ漁場ニ限定セラレ漁場外ニ在リテハ免許ノ效ナク免許ヲ受ケタル漁業者ト雖其ノ漁場ノ區域外ニ於テハ全然漁業ヲ爲スニ付權利ヲ有セサルモノトス從テ免許漁場ノ區域外ニ漁具ヲ建設シ又ハ敷設シテ漁業ヲ爲スカ如キハ單ニ同法第五十八條第一項第二號ニ所謂免許漁業ノ制限又ハ免許ノ條件若クハ制限ニ違反シテ漁業ヲ爲シタルモノト言フコトヲ得スシテ同條第一項第一號ニ所謂免許ニ依ラスシテ漁業ヲ爲シタル者ト解スルヲ正當トス (昭和三(れ)第三三三號、四、五、二、大刑二) (第一八八號、一三六頁)

度 量 衡 法

一 農業者ト度量衡法第一六條(第十六條參照)

農業者トスル者カ自作ノ農產物ヲ路上ニ於テ販賣スルカ如キ行爲ハ當然其ノ業務ノ範圍ニ屬スルカ故ニ甘藷販賣ニ當リ法規違反ノ衡器ヲ使用シタル場合ハ度量衡法第十六條ヲ適用處斷スルハ正當ナリ (昭和四(れ)第九〇四號、四、一〇、八、大刑四) (第二〇五號、四三三頁)

古物商取締法

一 古物商ノ意義及古物取締法細則第二條ノ營業者（第一條參照）

古物商取締法第一條ノ規定ニ依レハ古物トハ主トシテ一度使用シタル物品若ハ其ノ物品ニ幾部ノ手入ヲ爲シタルモノヲ賣買交換スルヲ以テ營業ト爲ス者ヲ云ヒ同法第二條第十九條ノ規定ニ依レハ古物商ノ營業ヲ爲サムトスル者ハ其ノ物品ノ種類ヲ定メ行政廳ノ免許ヲ受クヘク其ノ免許ヲ受ケスシテ營業ヲ爲シタル者ハ處罰セラルヘキヘキコト明カナリ、古物商取締法細則第二條ハ古物商取締法第十八條ノ委任ニ基クモノニシテ即同第十八條ニ於テ古物商ニ非スシテ他ノ營業ヲ爲ス者ト雖隨時其ノ營業ニ屬スル古物ヲ賣買交換シ特ニ古物商取締法ヲ適用スル必要アルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ムル旨規定シ同法細則第二條ニ於テ古物商以外ニ古物商取締法ノ適用ヲ受クヘキ營業ヲ掲ケタルモノニ外ナラサルカ故ニ同條ハ同條所定ノ營業者ニ非サル者ニハ全然其ノ適用ナキモノトス（昭和四（レ）第一二六二號、四、一一、九、大刑二）〔第一一五號、六二二頁〕

銃砲火藥類取締法

一 銃砲火藥類取締法ト拳銃（第三條參照）

銃砲火藥類取締法第三條ニ於ケル銃砲ト稱スルハ同法施行規則第一條ニ依ルトキハ軍用及非軍用ノ銃砲ヲ謂フモノニシテ其ノ中ニ拳銃ヲ包含スルコト勿論ニシテ同取締法施行規則第四十二條ノ規定アルノ故ヲ以テ之ニ包含セスト爲スコトヲ得何トナレハ同規則第四十二條ニ於ケル第三十九條ノ武器トハ單ニ同條第二項ニ規定セル仕込刀劍其ノ他變裝シタル武器ヲ指稱スルニ

過キサルモノニシテ拳銃ノ如キハ寧ロ銃砲火藥類ノ中ニ包含セシムルノ趣旨ナルコト是等法條ノ文意ニ照シ明白ナレハナリ、而シテ前述ノ如ク同銃砲ノ中ニハ軍用銃砲ト其他ノ銃砲トヲ包含スルモノナレハ之ヲ區別シテ明示セサルモ同法第三條第十六條ノ適用ヲ爲スニ何等ノ妨ナキモノトス（昭和三（レ）第六七號、三、五、二四、大刑二）〔第一六二號、二四九頁〕

二 銃砲火藥取締法第三條第一項ノ法意（同上）

銃砲火藥取締法第三條第一項ニ所謂販賣ノ業ヲ營ムトハ營利ノ目的ヲ以テ同種類ノ有價的讓渡行爲ヲ反覆スルヲ指稱スルモノニシテ必スシモ不定多數ニ對シ爲スコトノ意思アルコトヲ要セサルヲ以テ苟モ被告人カ營利ノ目的ヲ以テ拳銃及實包賣却ノ行爲ヲ反覆シタル以上ハ單ニ一人ニ賣却シタルトキト雖猶販賣ノ業ヲ營ミタルモノト謂フテ妨ケス（昭和三（レ）第一一一三號、三、九、一五、大刑三）〔第一七三號、四三三頁〕

自動車取締令

一 自動車助手ノ犯則行爲ト法人ノ刑事責任（第十五條參照）

自動車運轉手ノ免許ヲ受ケサル者カ擅ニ自動車ヲ運轉スルコトハ自動車取締令第十五條第二十八條ノ堅ク禁スル所ナルノミナラス法人ノ代表者其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ同令又ハ同令ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ其罰則ヲ法人ニ適用スルコトハ同令第三十二條ノ明定スル所ナリトス故ニ會社ノ從業者ニシテ運轉手ノ免許ナキ助手カ其ノ從業中自動車ヲ運轉シ

タル場合ニ於テハ該會社ハ其ノ犯期行爲ニ對シテ其ノ責任ヲ負フヤ當然ナリ (昭和四(九)第一三二六號、四、一、二、四、大刑一) (第二一五號、六二〇頁)

二 道路取締令ニ於テ許サレタル運轉練習ト自動車取締令第一五條 (同上)

自動車取締令第十五條第二十八條ノ運轉手ノ免許ナキ者ニ絕對ニ自動車運轉ヲ禁スルノ法意ナレハ苟モ運轉手ノ免許ナキ者カ自動車ヲ運轉スルニ於テハ縱シ該運轉手カ練習ノ目的ヲ以テ交通稀疎ノ道路上ニ於テ爲サレタル場合ト雖自動車取締令ノ制裁ヲ免ルルヲ得サルヤ言テ埃タス (同上)

通貨及證券模造取締法

一 通貨及證券模造取締法第一條ト模造ノ程度 (第一條參照)

通貨及證券模造取締法第一條ニ所謂紛ハシキ外觀ヲ有スルモノトハ同條所定ノ貨幣、政府發行紙幣、銀行紙幣、兌換銀行券、國債證書及地方債證券等ノ外觀ヲ模擬シタルモノヲ謂ヒ其ノ模擬ノ範圍ハ表裏全體ニ亘ルコトヲ必要トセス又必スシモ眞物ト區別スルニ多少ノ困難ヲ感スル程度ニ於テ眞物ニ近似スルコトヲ要スルモノニ非サルカ故ニ單ニ其ノ表面ノミヲ模擬シ且容易ニ眞物ト區別シ得ヘキモノヲ製造シタルトキト雖模造シタルニ缺クルコトナシ蓋本法ニ於テ通貨及證券ニ紛ハシキ外觀ヲ有スルモノノ製造ヲ禁スル所以ノモノハ此ノ種ノ模造行爲ノ如キハ未タ刑法ノ貨幣又ハ有價證券偽造罪ヲ構成スル程度ニ達セスト雖仍ホ通貨又ハ證券ニ對スル公

ノ信用ヲ害スルノ虞ナシト云フヲ得サレハナリ故ニ帝國政府發行ノ四分利公債證書一百圓券面中菊花御紋章ヲ櫻花ニ金額ヲ二百圓ニ其ノ他ノ文字ヲ廣告文詞ニ變更シ且形狀ヲ稍縮少シタル印刷物ヲ製造シタル場合ニ於テ其ノ印刷物カ前顯公債證書ヲ模擬シタルモノナルコト明ナルトキハ縱令其ノ形狀樣式色彩等ニ多少ノ差異アリ且利札ノ添付ナク又裏面ハ全然眞物ト相違シ少シク注意スレハ眞物ト區別スルコト難カラスト雖仍前顯公債證書ニ紛ハシキ外觀ヲ有スルモノタルヲ失ハサルモノトス (昭和四(九)第六一三號、四、七、一七、大刑三) (第二〇六號、四四七頁)

織物消費税法

一 「ラミー」ト綿ト交織セル織物ト織物消費税 (第一條參照)

織物消費税法第一條第一條ノ二同施行規則第三十一條ニ依レハ織物ニシテ消費税ヲ課セサルモノハ織物消費税法第一條ノ二第一項ニ規定セル綿織物即百分中九十五以上ノ綿ヲ以テ組成セルモノナルカ又ハ同條第二項同施行規則第三十一條ニ依リ綿織物ト看做サルモノ即右第三十一條ニ列記セル原料ヲ以テ組成セルモノナルヲ要スルコト明白ニシテ織物ノ原料ノ價格カ綿ニ比シ同等又ハ低廉ナルカ爲ニ該織物ヲ綿織物ニ準シ無税品ト爲スヘキモノト解スヘキ何等ノ規定アルコトナシ而シテ「ラミー」ノ價格カ綿ニ比シ低廉ナリトスルモ之カ爲ニ綿織物ニ準シ無税品ト爲スヘキモノニ非ス

「ラミー」ト綿ト交織セルモノニ對シテハ之ヲ綿織物ニ準シ無税品ト爲スヘキニアラス原料ニシテ前記施行規則第三十一條列記ノモノニ非サル以上「ラミー」カ黃麻以外ノ麻ナルト

否トテ問ハス「ラミー」ト綿トノ交織セル織物ハ無税品タルヘキモノニ非サルヲ以テ之ヲ課税品ナリト判示シタルハ相當ナリ (昭和四(九)第一九五號、四、四、一、大刑五) (第一八八號、一三八頁)

二 織物消費税法罰金ノ算定法及ヒ間接國税犯則者通告處分 (第十七條參照)

織物消費税法第十七條ニ所謂消費税五倍ニ相當スル罰金ニ處ストアルハ同法第二條所定ノ稅率ヲ課税物件タル織物ノ價格ニ乘シテ算出シタル金額ヲ消費税トシ其ノ五倍ニ相當スル金額ヲ罰金額ト爲スヘキモノナルコト法ノ明文ニ徴シ毫モ疑ヲ容ルヘキ所ナシ

間接國税犯則者處分法第十四條ニ所謂犯則者ニ對シテ通告ヲナシ其ノ通告ニ應ヒサルトキ同法第十七條ニ依リ告發ヲ爲スコトハ稅法違反罪ノ處罰條件ヲ爲スモノニ非スシテ檢事カ公訴ヲ提起スルニ付其ノ訴追條件ヲ爲スニ過キサシモノナルカ故ニ苟クモ稅法違反被告事件ニ付テハ形式上適法ニ違反者ニ對シテ通告處分ヲ爲シ且告發ノ手續アリタルコトヲ認メ得ヘキ以上其ノ通告又ハ告發ノ内容カ實質上相當ナラザリシトスルモ檢事ノ爲シタル公訴提起ヲ不法ナラシムルモノニ非ス (昭和二(九)第一六八一號、三、三、七、大刑三) (第一四九號、五八頁)

蠶糸業法施行規則

一 蠶糸業法第四四條ト雇人ノ行爲 (第六條參照)

蠶糸業法施行規則第六條第二項ニハ生繭ノ取扱ヲ爲ス者自ラ其ノ取扱場所ヲ管理セサルトキハ自己ニ代ルヘキ管理者ヲ置キ其ノ氏名住所ヲ地方長官ニ届出ツヘシト規定スルカ故ニ其ノ届出

アリタル管理者ハ生繭ノ取扱ヲ爲ス者ノ代理人ニ外ナラス、而シテ蠶糸業法及同法施行規則ニ所謂生繭ノ取扱ヲ爲ス者トハ蠶糸業者トシテ生繭ノ取扱ヲ爲ス者ノ謂ナルコト同法第一條ノ規定ニ徴シ明白ナルカ故ニ或會社カ其ノ出張所ノ管理者トシテ或人ヲ指定シ其ノ届出ヲ爲シタル事實アリ又其ノ作業カ同出張所ニ於テ行ハレタリトスルモ法カ此ノ如キ場合ニ於テ特ニ管理者ヲ處罰スルコトヲ規定セサル以上蠶糸業者タル會社ハ同法第四十四條ニ從ヒ雇人ノ行爲ニ付刑責ヲ負フヘキヤ當然ナリ (昭和三(九)第三四號、三、三、二〇、大刑四) (第一五一號、八四頁)

酒精含有飲料税法

一 味淋ノ加工行爲ト酒精及酒精含有飲料税法ノ適用

變味味淋原液ニ加工セル後ノ溶液カ味淋ノ本質ヲ失ハス其ノ加工物ノ作用ニ因リ原液ノ除酸除濁ヲ爲ス場合ニ於テハ右加工ハ味淋ノ本質ヲ保存センカ爲メノ矯正行爲ニ屬シ新ニ味淋ヲ製造シタルニ非ルハ勿論酒精及酒精含有飲料税法ノ適用ヲ受クヘキ酒精含有飲料ヲ製造シタルモノニモ非ス (昭和二(九)第一二七號、三、一、三一、大刑四) (第一四九號、五七頁)

遺失物法

一 遺失物法第四條ノ法意 (第四條參照)

遺失物法第四條ニ物件ノ返還ヲ受クル者ハ物件ノ價格ノ百分ノ五ヨリ少カラス二十ヨリ多カラ

サル報勞金ヲ拾得者ニ給スヘシト規定シタルハ遺失者カ遺失物件ノ返還ヲ受クルニ因リ遺失ニ基ク損害ヲ防止スルコトヲ得ルニ至リタル爲ニ外ナラサルヲ以テ所謂物件ノ價格トハ返還ヲ受クル當時ノ價格ヲ指稱スルモノト解スルヲ相當ナリトス (昭和二(オ)第九六〇號、三、二、二、大民一)〔第一四七號、二二頁〕

「モルヒネ」「コカイン」及其ノ鹽類取締ニ關スル件

一 大正九年內務省令及大正十五年同省告示ト擬律(第一條參照)

大正九年十二月內務省令第四十一號「モルヒネ」「コカイン」及其ノ鹽類ノ取締ニ關スル件第十條第三號ニ同令ヲ準用スヘキ藥品ノ一トシテ「內務大臣ニ於テ前各號ヲ掲クルモノト同效力ヲ有スト認ムル藥品」ト規定シ內務大臣ハ大正十五年六月內務省告示第八十九號ニ於テ品目ヲ舉ケ此ノ藥品ヲ指定セルヲ以テ同省令第十二條第三號ノ内容ハ前告示ニ依リ補充セラレニテ者相俟テ同告示特定ノ藥品ニ付同省令ヲ準用スヘキコトヲ定メタルモノト謂ハサルヘカラス隨テ內務大臣ノ許可ヲ受クルコトナクシテ此藥品ヲ輸入シタル行爲ニ對スル擬律トシテハ同省令第一條第八號第十二條第三號及同上告示ヲ掲クルコトヲ要セス (昭和五(九)第一六三號、五、四、二三、大刑三)〔第二二九號、二二二頁〕

工業所有權保護同盟條約

一 工業所有權保護同盟條約第四條ノ解釋(第四條參照)

工業所有權保護同盟條約第四條ハ締約國中ノ一國ニ於テ特許出願ヲ爲シタル者カ其ノ出願後十二ヶ月内ニ該出願ノ特許ニ基キ他ノ締約國ニ於テ特許ヲ出願シタルトキハ其ノ中間ニ他ノ締約國ニ特許出願ヲ爲セル者アルモ右出願ニ他ノ締約國ニ於テ優先シテ前ニ出願ヲ爲シタル效力ヲ附與スルニ在ルモノナルコト明ナルヲ以テ同條ノ甲ニ所謂留保セラルヘキ第三者ノ權利トハ特許法第三十七條ニ規定セル如キ特許實施權ヲ有スル者ヲ指稱スルモノニシテ右期間ノ中間ニ他ノ締約國ニ於テ出願ヲ爲シタル者ノ出願權ハ勿論該出願ニ基キ登録セラレタル特許權ノ如キハ右權利中ニ包含スルモノニ非スト解スヘキモノトス (昭和三(オ)第七六五號、四、二、二八、大民一)〔第二〇一號、三七四頁〕

機船底曳網漁業取締規則

一 機船底曳網漁業取締規則第一條ノ法意(第一條參照)

大正十年農商務省令第三十一號機船底曳網漁業取締規則第一條ニハ「本則ニ於テ機船底曳網漁業ト稱スルハ汽船トロール漁業ヲ除クノ外螺旋推進機ヲ備フル船舶ニ依リ手繰網打網其他ノ底曳網ヲ使用シテ爲ス漁業ヲ謂フ」ト規定シ螺旋推進機ヲ備フル船舶ニ依ルコトヲ要スルモ大正元年農商務省令第四號汽船トロール漁業取締規則第一條ニ於ケルカ如ク螺旋推進機ヲ以テ船舶ヲ運行シテ操業スルコトヲ必要トセサルヲ以テ右機船底曳網漁業取締規則第一條ハ苟モ螺旋

推進機ヲ備フル船舶ニヨリ手繰網打網其ノ他ノ底曳網ヲ使用シテ漁業ヲ爲ス以上右底曳網ヲ引曳スル爲メ螺旋推進機ヲ使用シテ漁業ヲ爲スト螺旋推進機ハ唯單ニ漁場往復ノ航行ニ使用スルニ止マリ操業ニ際シテハ之ヲ取外シ又ハ之ヲ使用セス風力又ハ人力ニ依リ底曳網ヲ引曳シテ漁業ヲ爲ストテ間ハス總テ之ヲ機船底曳網漁業ト爲セル法意ナリト解スヘキモノトス (昭和五(九)第八一號、五、三、四、大刑一) (第二二二號、九八頁)

二 機船底曳網漁業取締規則ニ所謂許可ノ對象 (第三條參照)

機船底曳網漁業ヲ營ムニハ許可ヲ受ケタル特定ノ船舶ヲ使用スルコトヲ要シ他ノ船舶ヲ以テスル場合ハ更ニ出願ノ上其ノ船舶ニ依ル漁業ノ許可ヲ受クヘキモノナルコトハ機船底曳網漁業取締規則第三條第十二條等ノ律意ニ徴シ明白ニシテ此ノ如キハ取締ノ必要上個々ノ船舶ニ就キ之ヲ使用シテ爲ス漁業ヲ其ノ出願者ニ許可スルモノナレハ畢竟人ヲ對象トスル許可ニ外ナラス (昭和三(九)第五六四號、三、五、二二、大刑四) (第一六二號、二四九頁)

警視廳令セルロイド貯藏ニ關スル件

一 警視廳令ト「セルロイド」ノ貯藏制限ノ趣旨

警視廳令カセルロイドノ貯藏ニ付制限ヲ設ケタルハ其貯藏量多量ナル時ハセルロイドノ自然發火ヲ來スノ虞アリ且其引火シ易キ性質上危險ヲ大ナラシムルカ故ニ之ヲ防止セントスルノ趣旨ニ出テタルモノトス (大正一三、第四六六八號、昭和三、七、一四、東地民二) (第一五七號、一七六頁)

勞働者募集取締令

一 勞働者募集取締令第四條ニ所謂募集ノ意義ト引率 (第四條參照)

大正十三年內務省令第三十六號勞働者募集取締令第四條ノ所謂募集ノ意義ニ付テハ同令中ニ明示スルトコロナキモ同令第三條ニ依リ縱令職工鑛夫又ハ土工夫其ノ他ノ人夫ヲ募集スル場合ト雖應募者就業ノ爲住居ヲ變更スル必要ナキトキ又ハ單ニ廣告ニ依リ募集シ就業場ニ於テノ募集ノ取扱ヲ爲ストキハ同令ノ適用ヲ除外セラルル結果同令ハ勞働者カ就業場外ニ於テ應募シ其住居ヲ變更スル必要アル場合ニノミ特ニ適用セラルルモノト解セラルルノミナラス同令第十四條ニハ應募者ヲ引率シテ出發セムトストキハ其ノ出發三日前迄ニ應募者ノ住所氏名及生年月日ト共ニ出發ヨリ就業場到着マテノ旅行豫定及之カ變更アリタルトキハ其ノ旨ヲ届出ツヘキ旨ヲ規定シ又同第十五條ニハ應募者ト共ニ汽車汽船其ノ他ノ交通機關以外ノ場所ニ於テ宿泊セムトストキハ豫メ宿泊所在地管轄署ニ宿泊所應募者男女別員數宿泊所到達及出發ノ日時等ノ事項ヲ届出ツヘキ旨ヲ規定スルヲ以テ其ノ住居ヲ變更セシメ之ヲ就業地ニ引率シ甫メテ募集ノ目的ヲ達スル如キ場合ニ於テハ該引率ノ行爲ハ募集行爲トシテ主要ナルモノト解スルヲ相當トス (昭和四(九)第一〇〇五號、四、一〇、二二、大刑五) (第二〇八號、四六九頁)

北海道廳令紹介營業取締規則

一 依頼者ノ任意提供ト紹介業者ノ報酬制限 (第十條參照)

昭和元年十二月三十日北海道廳令第六號紹介營業取締規則第十條ニハ紹介營業者ハ許可ヲ受ケタル手數料ノ外何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス報酬トシテ財物其ノ他ノ利益ヲ受クルコトヲ得スト規定シアリテ苟モ紹介營業者ニ於テ許可ヲ受ケタル手數料ノ外ニ報酬トシテ財物其ノ他ノ利益ヲ受領シタル以上ハ之カ請求ヲ爲シタルコトナク依頼者ニ於テ任意提供シタル場合ト雖同條ニ違反シタルモノトシテ同規則第十九條ニ依リ處罰スヘキモノト解スルヲ妥當トス (昭和三(九)第一一五三號、三、九、一九、大刑三) (第一七三號、四三二頁)

音戸海峽取締規則

一 音戸海峽取締規則第四條ノ解釋(第四條參照)

大正十年廣島縣令第六十八號音戸海峽取締規則第四條第一項ニハ「海峽ニ於テハ他ノ船舶ト並航スヘカラス」トアリテ音戸海峽内ニ於テハ二個ノ船舶カ繼續的ニ並航スル場合ハ勿論後方ヨリ航行スル船舶カ前方ヲ航行スル船舶ヲ追越サントシテ瞬間的ニ並行スル場合ヲモ禁止シタルモノト解スルヲ妥當トス、蓋シ音戸海峽ハ水路狹隘潮流急激ナルニ拘ラス常ニ船舶ノ往來頻繁ナルヲ以テ二個ノ船舶カ並行スルトキハ勢ヒ衝突等ノ危險ヲ惹起スル虞アリテ前記取締規則ハ專ラ之ヲ豫防スル爲ニ制定セラレタルモノナルヲ以テ其ノ並行ノ瞬間的タルト將タ繼續的タルトニ依リ危險ヲ惹起スル虞アルコトニ逕庭ナキヲ以テナリ (昭和四(九)第一五九二號、五、二、二四、大刑二) (第二二一號、七七頁)

昭和六年十一月五日印刷
昭和六年十一月十日發行

最近判例集第二輯

定價金五圓



東京市麹町區丸ノ内三丁目十二番地
編輯者 水野 豊
發行所 東京市京橋區靈岸島一丁目一ノ七
印刷者 田中 富治
印刷所 東京市京橋區靈岸島一丁目一ノ七
金龍堂印刷所

發行所

株式會社

法律新報社

東京市麹町區丸ノ内三丁目十二番地(丸ノ内仲通三號館)

電話丸ノ内七七〇番
振替東京六七三三二番



